

若桜町のまちづくりに関するアンケート
調査報告書

令和8年3月

若 桜 町

目 次

1. 調査の概要.....	1
(1) 調査目的.....	1
(2) 調査内容.....	1
(3) 回収結果.....	1
2. 調査結果.....	2
2-1. 回答者属性.....	2
(1) 回答属性（性別、年齢、家族構成）.....	2
(2) 居住地.....	3
(3) 居住年数.....	4
(4) 居住経緯.....	5
2-2. 地域の現状.....	6
(1) 暮らしやすさの満足度.....	6
(2) 身近な施設の利用状況.....	10
(3) 土地利用の問題.....	23
(4) 住み替え意向.....	25
(5) 住み替え先.....	27
(6) 住み替え理由.....	29
2-3. 今後のまちづくり.....	32
(1) 人口減少や少子高齢化等により予想される日常生活への影響.....	32
(2) 日常生活を送るうえで必要だと思う機能.....	35
(3) 拠点となる場所に必要だと思う生活サービス施設.....	38
(4) 今後のまちづくり.....	41
(5) 先端技術を活用した新たな交通手段の導入.....	44
2-4. 防災・減災のまちづくり.....	45
(1) 住まいの周辺で不安を感じている災害.....	45
(2) 防災マップ確認状況.....	47
(3) 災害に強いまちづくり.....	49
2-5. 若桜町の個性や魅力を活かしたまちづくり.....	52
(1) 若桜町の自慢できるもの、誇りに思うもの.....	52
(2) 重要伝統的建築物群保存地区の認知度.....	57
(3) 若桜町の地域資源をまちづくりへ活かすための取組.....	58
2-6. 自由意見.....	61
(1) 若桜町の将来のまちづくりに対する自由意見.....	61
3. まとめ.....	63
4. 参考資料.....	69

1. 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、地域の住みやすさに対する満足度や今後のまちづくりについて町民の意向を把握し「若桜町まちづくりマスタープラン」策定の基礎資料とすることを目的として実施したものです。

(2) 調査内容

1) 調査名

若桜町のまちづくりに関するアンケート調査

2) 調査期間

令和7年11月3日（月）～12月5日（金）

3) 調査対象

18歳以上の町民2,439人【全数調査 ※令和7年10月時点】

4) 配布、回収方法

郵送による調査票配布・回収

5) 配布物等

- ・調査票、案内状（A4両面12ページ分）※調査票は11ページ分

6) 質問内容

- ・回答属性（問1～問4）
【性別、年齢、家族構成、居住地、居住年数、居住経緯】
- ・地域の現状（問5～問10）
【地域の満足度（利便性、安全・安心、快適性）、施設の利用状況、土地利用の問題、
住み替え意向（住み替え先、住み替え理由）】
- ・今後のまちづくり（問11～問15）
【人口減少による日常生活への影響、必要な都市機能、必要な都市施設、
まちづくりの取組、新たな交通手段の導入】
- ・防災・減災のまちづくり（問16～問18）
【不安に思う災害リスク、若桜町防災MAP、災害に強いまちづくり】
- ・個性や魅力を活かしたまちづくり（問19～問21）
【町の自慢や誇り、重伝建地区の認知度、地域資源を活かしたまちづくり】
- ・自由記述（問22）

(3) 回収結果

- ・回収数：1,109票 ※内、1枚白票
- ・有効回収数：1,108票（有効回収率45.4%）

2. 調査結果

2-1. 回答者属性

(1) 回答属性（性別、年齢、家族構成）

問1 あなた自身について、あてはまるものをそれぞれ1つ選び、番号に○を付けてください。

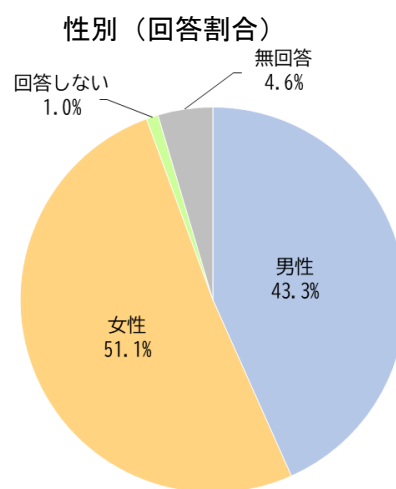
①性別

- ・「男性」が480人（43.3%）、「女性」が566人（51.1%）、回答しないが11人（1.0%）、無回答が51人（4.6%）となります。

（参考）

○令和7年10月時点

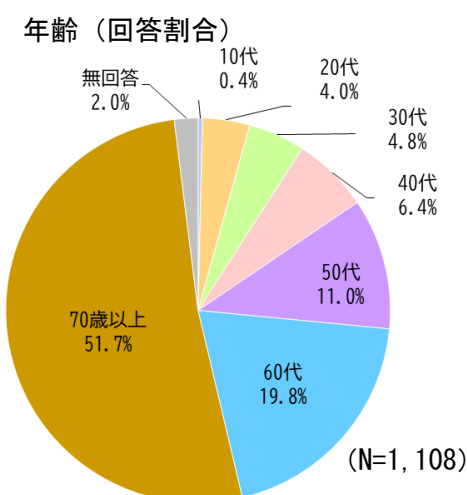
男性：47.5%、女性：52.5%



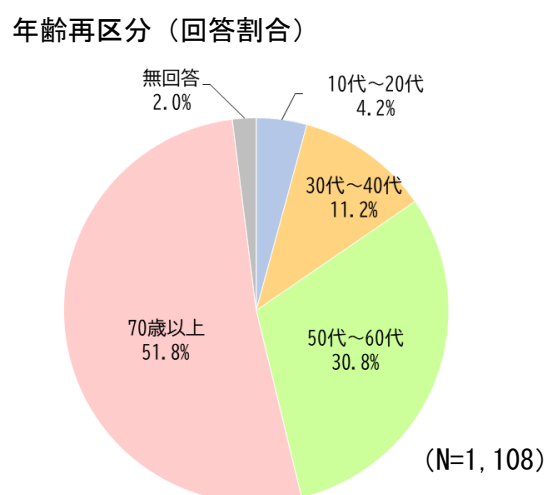
(N=1,108)

②年齢

- ・「70歳以上」が573人（51.7%）が最も多く、次いで「60代」が219人（19.8%）、「50代」が122人（11.0%）と続きます。
- ・「40代」が71人（6.4%）、「30代」が53人（4.8%）、「20代」が44人（4.0%）、「10代」が4人（0.4%）となります。
- ・年齢再区別にみると、「70歳以上」が574人（51.8%）、「50～60代」が341人（30.8%）、「30～40代」が124人（11.2%）、「10～20代」が47人（4.2%）となります。



(N=1,108)



(N=1,108)

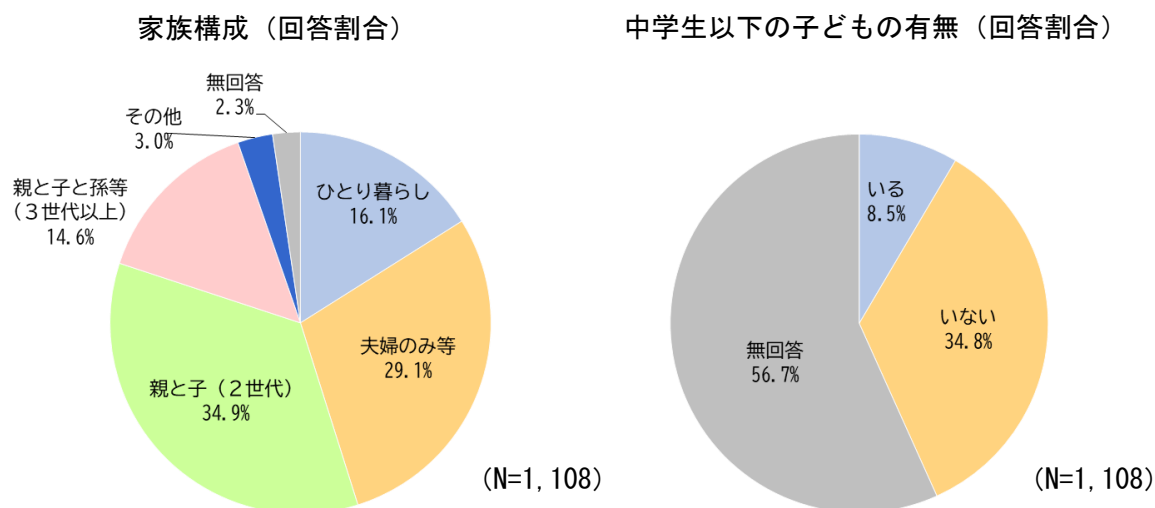
（参考）

○令和7年10月時点

10歳以下：4.2%、10代：4.7%、20代：3.3%、30代：6.8%、40代：8.8%、
50代：11.1%、60代：17.4%、70歳以上：43.7%

③家族構成

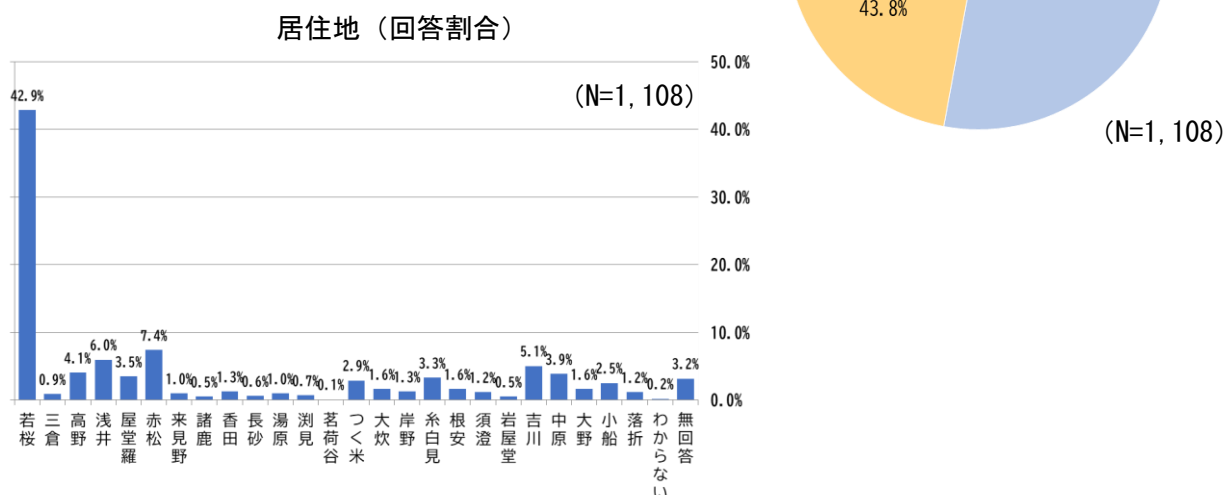
- ・「親と子（2世代）」が 387 人（34.9%）と最も多く、次いで「夫婦のみ等」が 322 人（29.1%）、
「ひとり暮らし」が 178 人（16.1%）と続きます。
- ・回答者の内、「中学生以下の子どもがいる」とする回答が 94 人（8.5%）となります。



（2）居住地

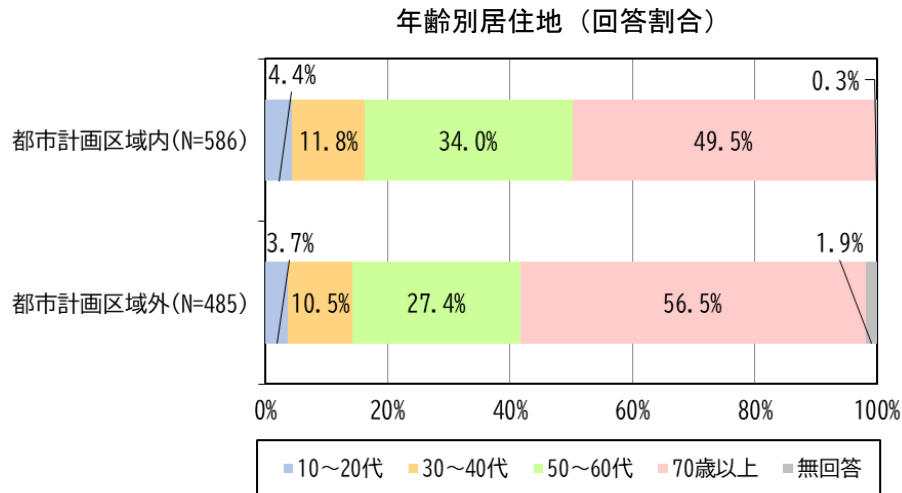
問2 現在のお住まいの地域（大字）について、あてはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

- ・「若桜地区」が 475 人（42.9%）と最も多く、
次いで「赤松地区」が 82 人（7.4%）、「浅井」
が 66 人（6.0%）と続きます。
- ・回答に基づき、都市計画区域内/都市計画区域
外で分類すると、都市計画区域内【若桜、高
野、浅井】が 586 人（52.9%）、都市計画区域
外が 485 人（43.8%）となります。



【クロス集計（居住地×年齢）】

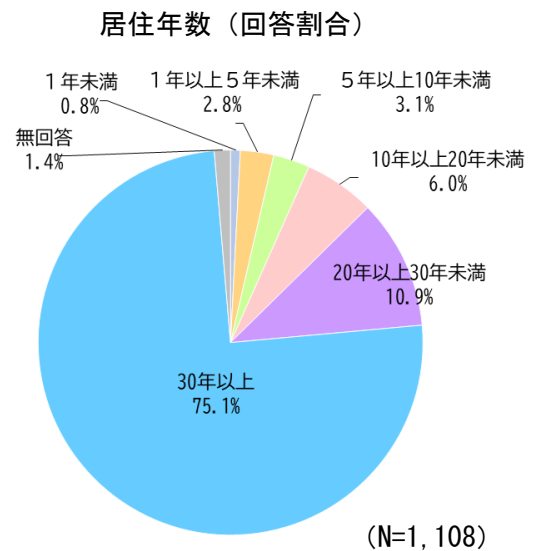
- ・居住地（都市計画区域内/外）の年齢構成比を見ると、50代～60代の割合は「都市計画区域内」が高く、70歳以上の割合は「都市計画区域外」が高くなります。
- ・10代～20代及び30代～40代は、概ね同じ構成比となります。



（３）居住年数

問３ 居住年数について、あてはまるものを１つ選び、番号に○を付けてください。

- ・居住年数では「30年以上」が832人（75.1%）と最も多く、次いで「20年以上30年未満」が121人（10.9%）、「10年以上20年未満」が66人（6.0%）と続きます。
- ・10年以上居住している人が全体の9割以上となります。

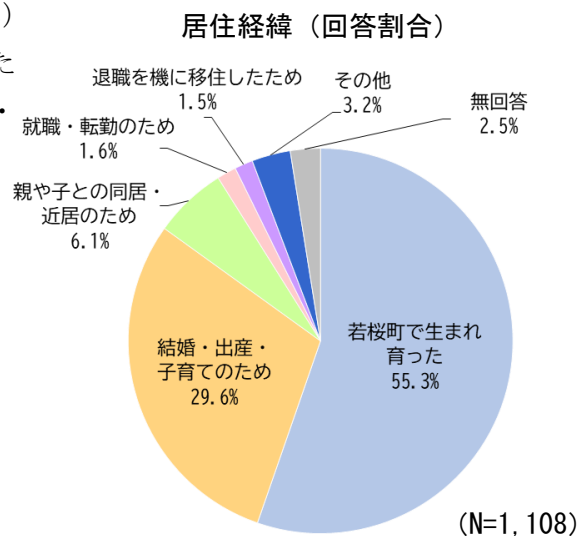


(4) 居住経緯

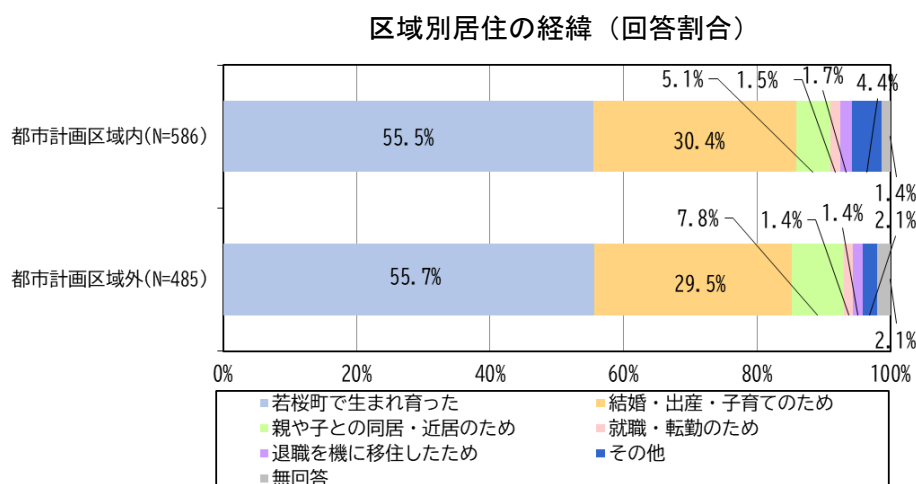
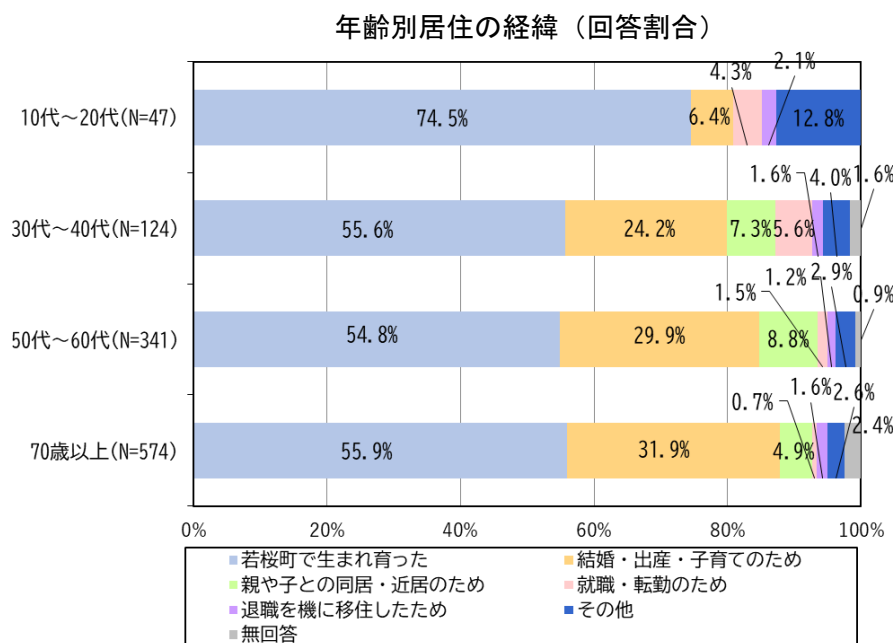
問4 居住のきっかけについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

・「若桜町で生まれ育った」が 613 人 (55.3%)

と最も多く、次いで「結婚・出産・子育てのため」が 328 人 (29.6%)、「親や子との同居・近居のため」が 68 人 (6.1%) と続きます。



※参考 (年齢、区域別居住の経緯)

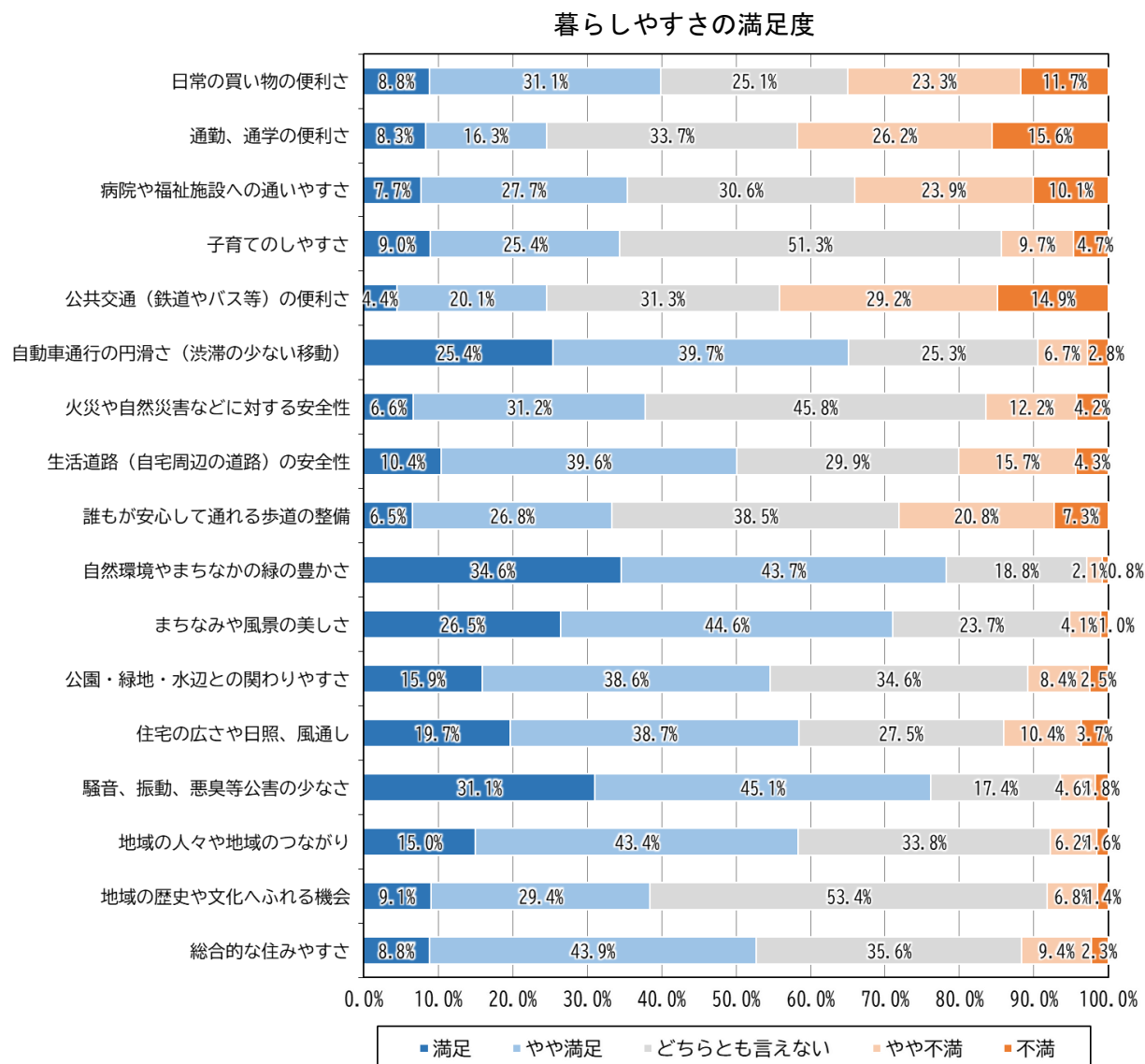


2-2. 地域の現状

(1) 暮らしやすさの満足度

問5 お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのようにお考えですか。以下の①～⑰の項目ごとに、現状の満足度をそれぞれ1つ選び、番号に○を付けてください。

- ・若桜町全体では、「自然環境やまちなかの緑の豊かさ(満足度の評価点 1.09pt、以下同じ。）」、「騒音、振動、悪臭等公害の少なさ (0.99pt)」、「まちなみや風景の美しさ (0.91pt)」の満足度が高く、「満足」「やや満足」の合計(以下「満足計」という。)が7割以上を占めています。
- ・利便性に関する項目は、「自動車通行の円滑さ(渋滞の少ない移動)(0.78pt)」を除き満足度が低く、「公共交通(鉄道やバス等)の便利さ(-0.30pt)」、「通勤通学の便利さ(-0.25pt)」、「病院や福祉施設への通いやすさ(-0.01pt)」では、「不満」「やや不満」の合計(以下、「不満計」という。)が満足計を上回っています。
- ・「総合的な住みやすさは」、満足計が52.7%(0.48pt)となります。

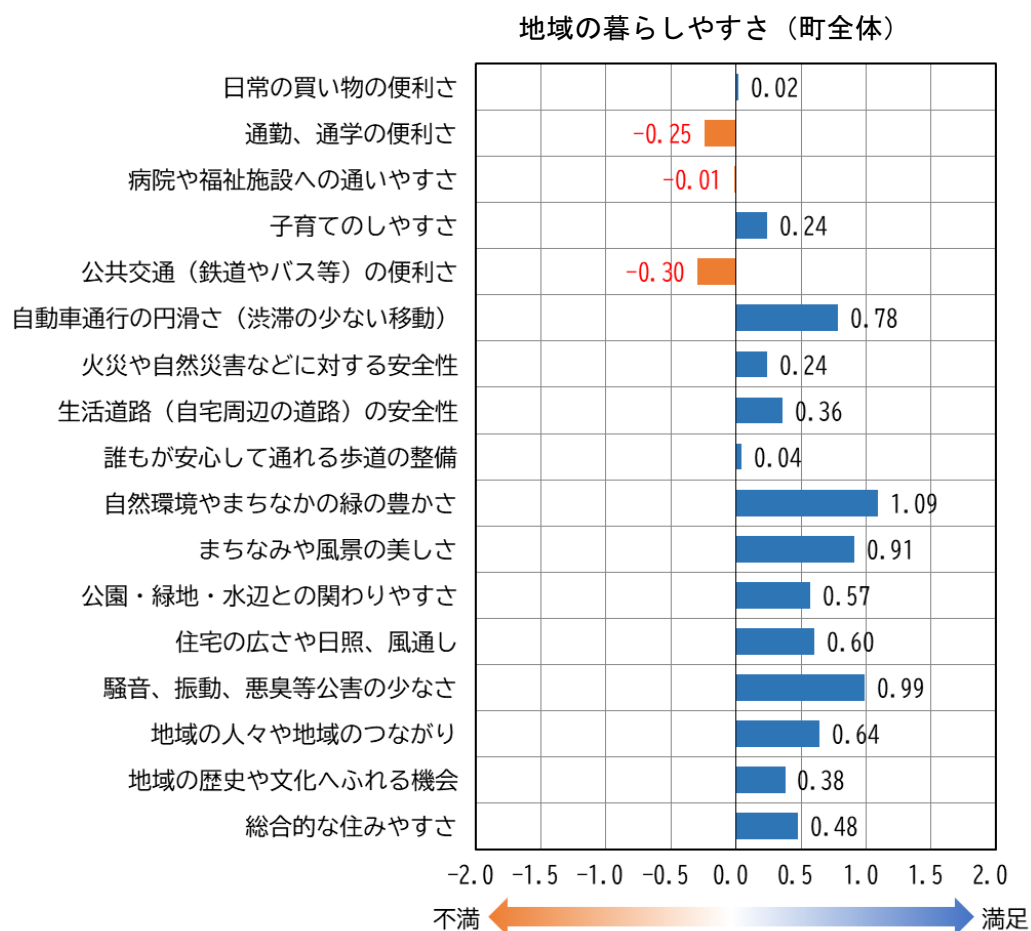


(満足度の評価方法)

- ・地域の住みやすさについて、各項目の満足度を評価するため、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の回答者数の得点付けを行いました。

評価点

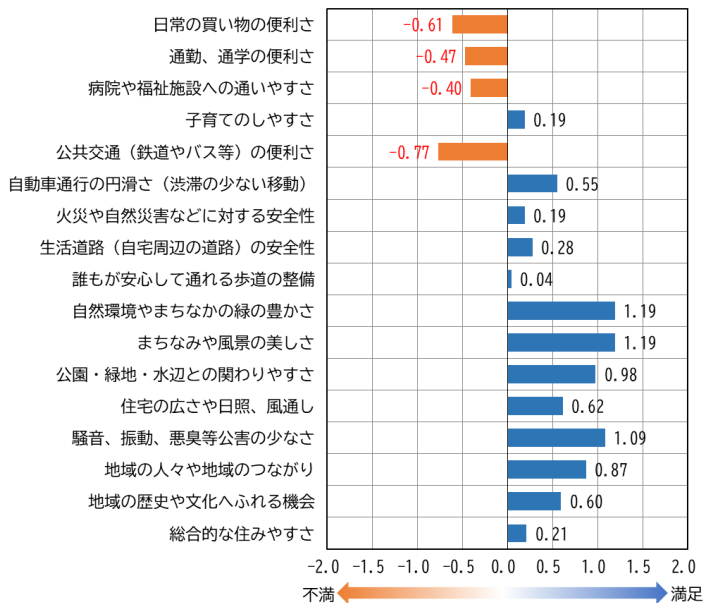
$$= (\text{満足} \times 2 \text{ 点} + \text{やや満足} \times 1 \text{ 点} - \text{やや不満} \times 1 \text{ 点} - \text{不満} \times 2 \text{ 点}) / (\text{回答者数} - \text{無回答})$$



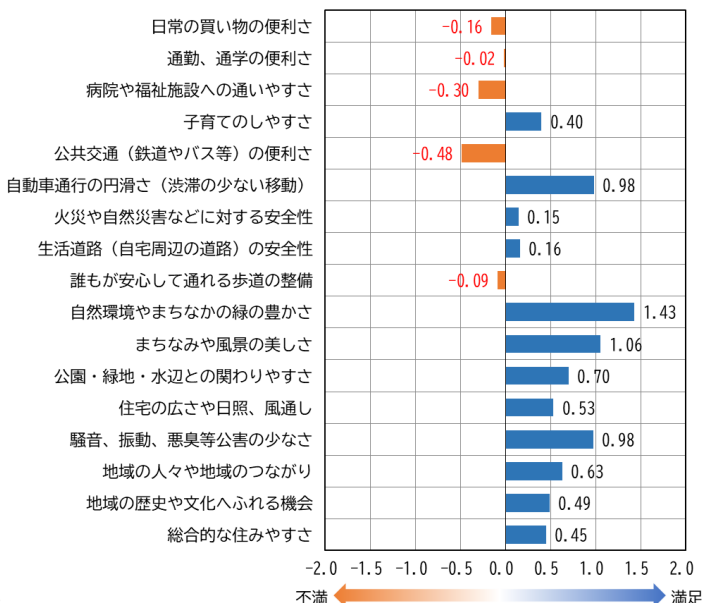
【クロス集計（地域の暮らしやすさ×年齢）】

- ・10代～20代の世代では、「公共交通の便利さ」「日常の買い物の便利さ」「通勤・通学の便利さ」の評価が低くなります。また、総合的な住みやすさ（0.21pt）と全体と比較して最も低くなります。
- ・30代～40代では、「公共交通の便利さ」「病院や福祉施設への通いやすさ」「日常の買い物の便利さ」の評価が低く、「誰もが安心して通れる歩道の整備」についても、マイナスの評価となります。
- ・50代～60代の世代では、「公共交通の便利さ」「通勤・通学の便利さ」「日常の買い物の便利さ」の評価が低く、「誰もが安心して通れる歩道の整備」についても、マイナスの評価となります。
- ・70歳以上では、「通勤・通学の便利さ」「公共交通の便利さ」「誰もが安心して通れる歩道の整備」の評価が低くなります。一方で、他の年代と比べ「総合的な住みやすさ（0.58pt）」は高くなります。

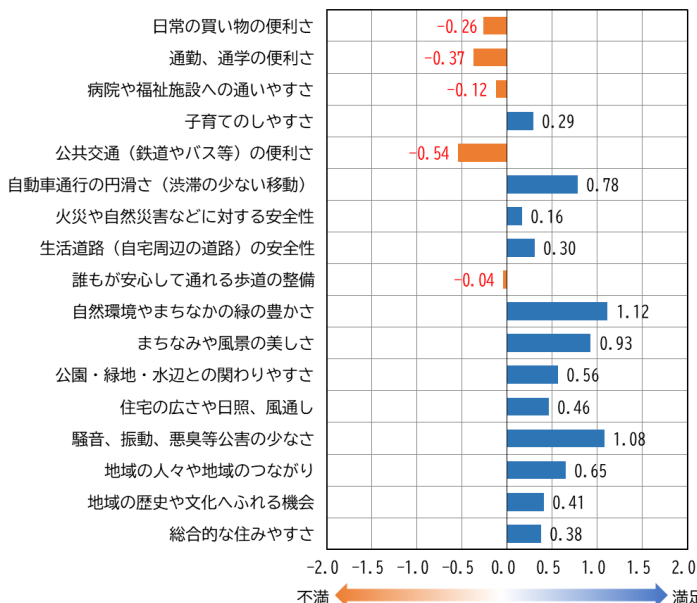
地域の暮らしやすさ（10代～20代）



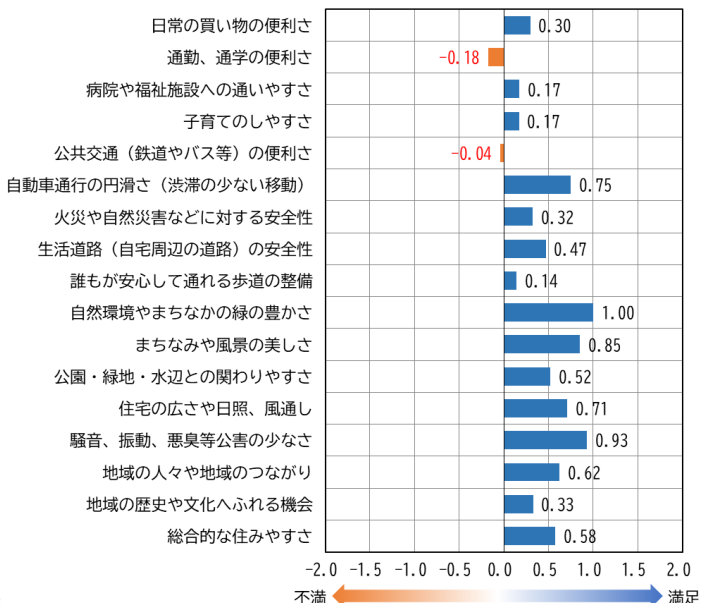
地域の暮らしやすさ（30代～40代）



地域の暮らしやすさ（50代～60代）



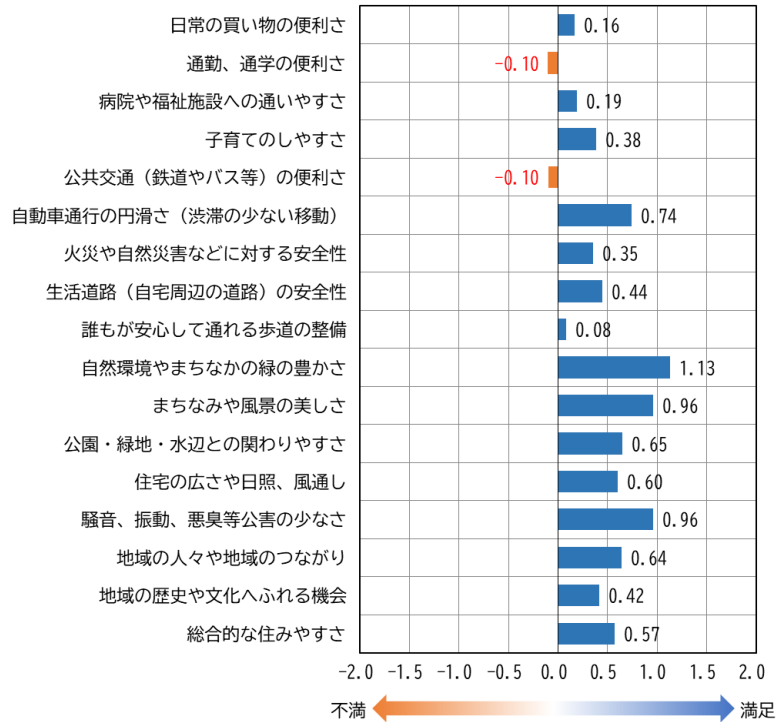
地域の暮らしやすさ（70歳以上）



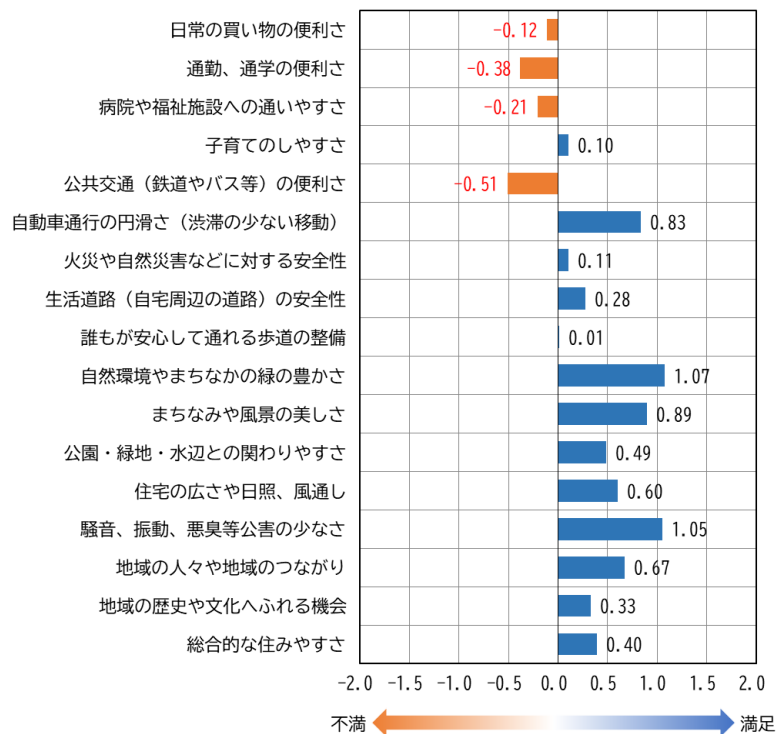
【クロス集計（地域の暮らしやすさ×区域別）】

- ・都市計画区域内では、「通勤、通学の便利さ」「公共交通の便利さ」「誰もが安心して通れる歩道の整備」の評価が低くなります。
- ・都市計画区域外では、「利便性」に関して、「病院や福祉施設への通いやすさ」や「公共交通の便利さ」の項目に関して区域内と比較して大きく満足度が低くなります。

地域の暮らしやすさ（都市計画区域内）



地域の暮らしやすさ（都市計画区域外）

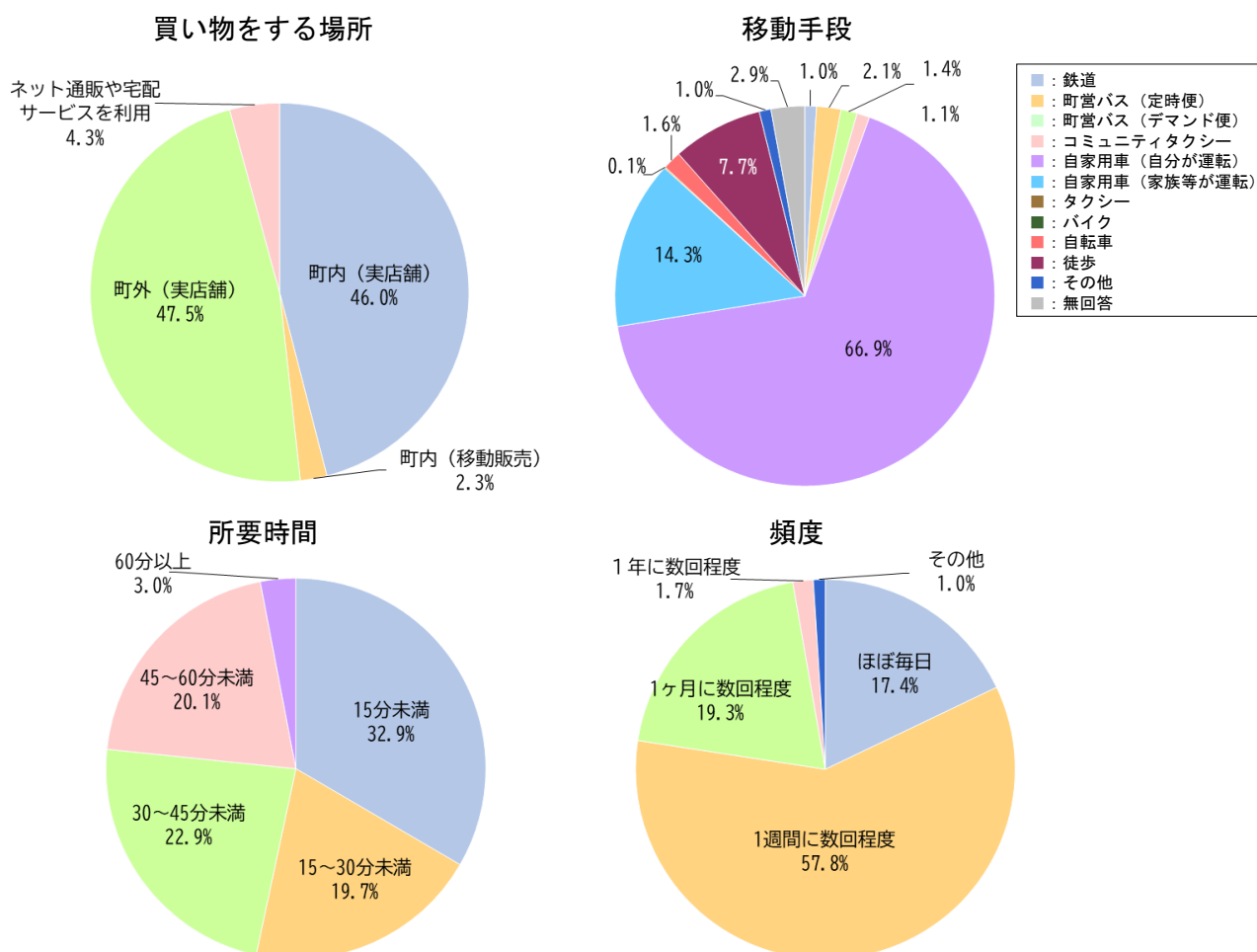


(2) 身近な施設の利用状況

問6 身近な施設の利用状況について、最も利用する店舗等の場所・主な移動手段等についてあてはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

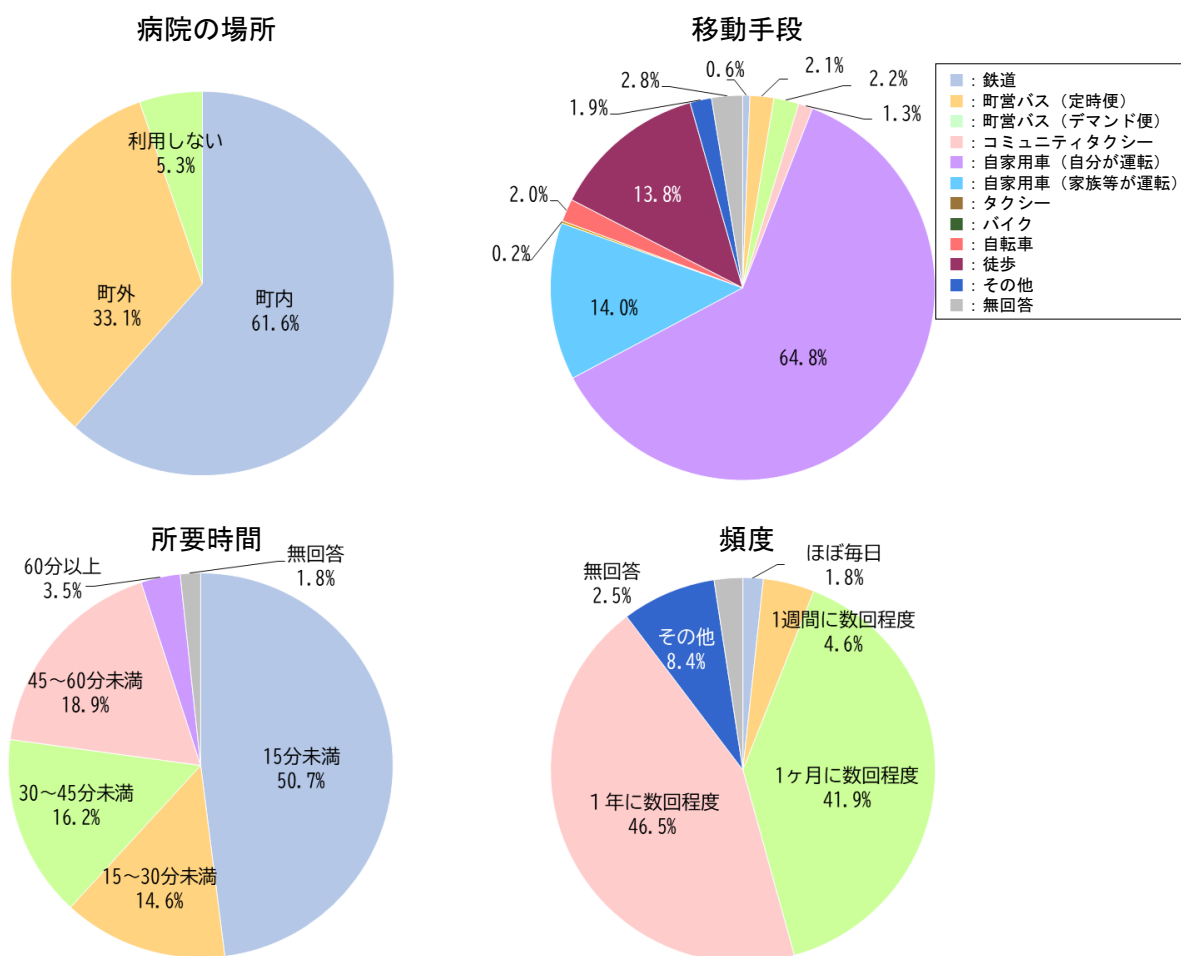
①食料品や日用品の買い物に利用する場所

- ・主に買い物をする場所では、町内（実店舗）を利用するが46.0%となり、町内（移動販売）と合わせると48.3%が町内の施設を利用していると回答しています。
- ・主な移動手段では、「自家用車（自分が運転）」が66.9%と最も多く、次いで「自家用車（家族等が運転）」が14.3%、「徒歩」が7.7%と続きます。
- ・移動時間では、「15分未満」が32.9%と最も多く、「15～30分未満」と合わせると30分未満が5割を超えます。一方で「45分～60分未満」と「60分以上」を合わせた45分以上が2割を超えます。
- ・利用頻度では、「1週間に数回程度」が57.8%と最も多く、次いで「1ヶ月に数回程度」が19.3%、「ほぼ毎日」が17.4%、「1年に数回程度」が1.7%となります。



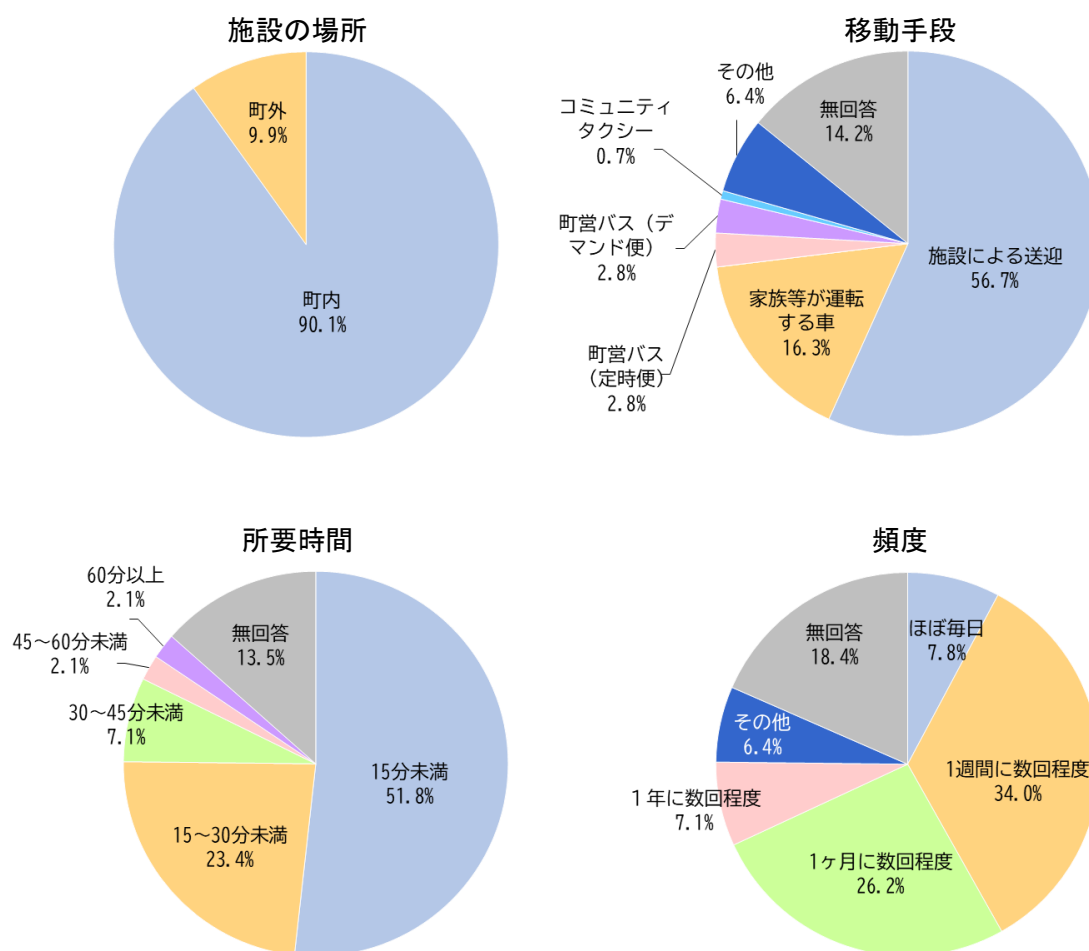
②かかりつけの病院や診療所

- ・かかりつけの病院の場所では、「町内」が 61.6%、「町外」が 33.1%となります。
- ・主な移動手段では、「自家用車（自分が運転）」が 64.8%と最も多く、次いで「自家用車（家族等が運転）」が 14.0%、「徒歩」が 13.8%と続きます。
- ・移動時間では、「15 分未満」が 50.7%と最も多く、「15～30 分未満」と合わせると 30 分未満が 6 割を超えます。一方で「45 分～60 分未満」と「60 分以上」を合わせた 45 分以上が 2 割を超えます。
- ・利用頻度では、「1 年に数回程度」が 46.5%と最も多い一方で、「1 ヶ月に数回程度」が 41.9%、「1 週間に数回程度」が 4.6%、「ほぼ毎日」が 1.8%となります。



③通所型のデイケアセンターやデイサービス等の高齢者福祉施設、介護施設

- ・施設の場所では、「町内」が90.1%、「町外」が9.9%となります。
- ・主な移動手段では、「施設による送迎」が56.7%と最も多く、次いで「家族等が運転する車」が16.3%、「町営バス（定時便）」「町営バス（デマンド便）」が2.8%と続きます。
- ・移動時間では、「15分未満」が51.8%と最も多く、「15～30分未満」と合わせると30分未満が7割を超えます。「45分～60分未満」と「60分以上」を合わせた45分以上は1割未満となります。
- ・利用頻度では、「1週間に数回程度」が34.0%と最も多く、次いで「1ヶ月に数回程度」が26.2%、「ほぼ毎日」が7.8%、「1年に数回程度」が7.1%となります。



【クロス集計（施設の利用状況×年齢別）】

（場所）

- ・10～20代では、買い物をする場所は「町外（実店舗）」が74.5%、病院は「町外」が50.0%と最も多くなります。
- ・30～40代では、買い物をする場所は「町外（実店舗）」が65.9%、病院は「町外」が54.5%と最も多くなります。
- ・50～60代では、買い物をする場所は「町外（実店舗）」が59.9%、病院は「町内」が53.6%、高齢者福祉施設や介護施設は「町内」が80.0%と最も多くなります。
- ・70歳以上では、買い物をする場所は「町内（実店舗）」が60.3%、病院は「町内」が77.0%、高齢者福祉施設や介護施設は「町内」が91.7%と最も多くなります。

（主な移動手段）

- ・買い物をする場所や病院への主な交通手段は全ての年代で「自家用車（自分が運転）」が最も多くなります。
- ・70歳以上では、買い物をする場所や病院への主な交通手段は、「自家用車（自分が運転）」が最も多い一方で、5割前後となり、「自家用車（家族等が運転）」が2割、「公共交通（鉄道、町営バス等）」の利用がそれぞれ1割となります。
- ・高齢者福祉施設や介護施設への主な交通手段について、「施設による送迎」が50～60代では50.0%、70歳以上では57.9%と最も多くなります。

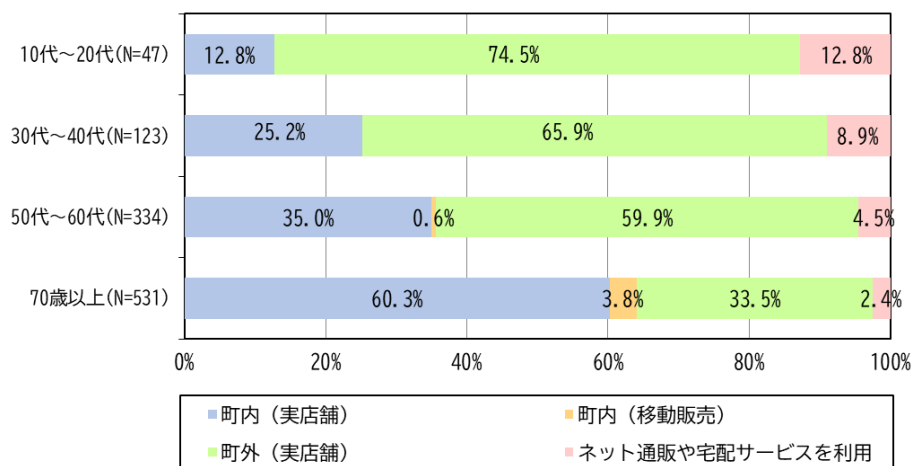
（移動時間）

- ・10～20代では、買い物をする場所へは「45～60分未満」が36.6%、病院へは「45～60分未満」が44.1%と最も多くなります。
- ・30～40代では、買い物をする場所へは「30～45分未満」が31.3%、病院へは「15分未満」が35.8%と最も多くなります。
- ・50～60代では、買い物をする場所へは「15分未満」が30.4%、病院へは「15分未満」が50.9%、高齢者福祉施設や介護施設へは「15分未満」が50.0%と最も多くなります。
- ・70歳以上では、買い物をする場所へは「15分未満」が36.9%、病院へは「15分未満」が50.5%、高齢者福祉施設や介護施設へは「15分未満」が52.1%と最も多くなります。

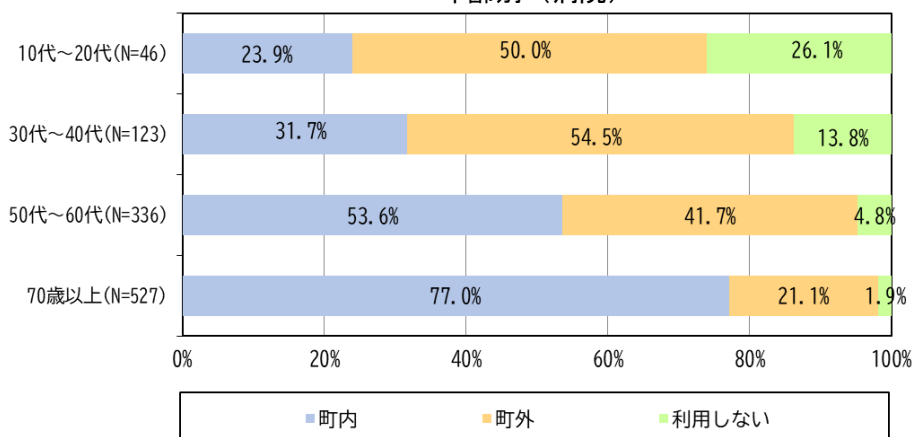
（利用頻度）

- ・買い物をする場所の利用頻度は、全ての世代で「1週間に数回程度」が最も多くなります。50～60代では、「ほぼ毎日」が2割を超えます。
- ・病院の利用頻度は、60代以下では「1年に数回程度」が最も多くなる一方で、70歳以上では「1ヶ月に数回程度」が5割を超え、最も多くなります。
- ・高齢者福祉施設や介護施設の利用頻度は、「1週間に数回程度」が50～60代で35.0%、70歳以上で33.9%と最も多くなります。

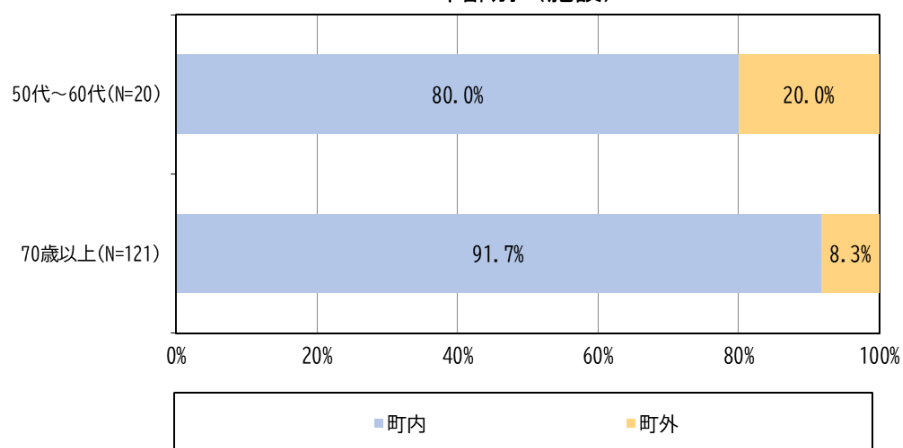
年齢別（買い物の場所）



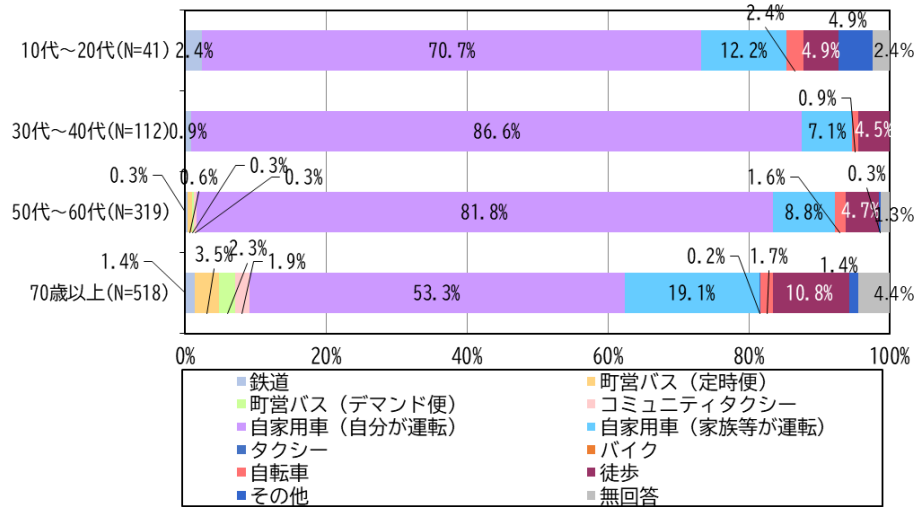
年齢別（病院）



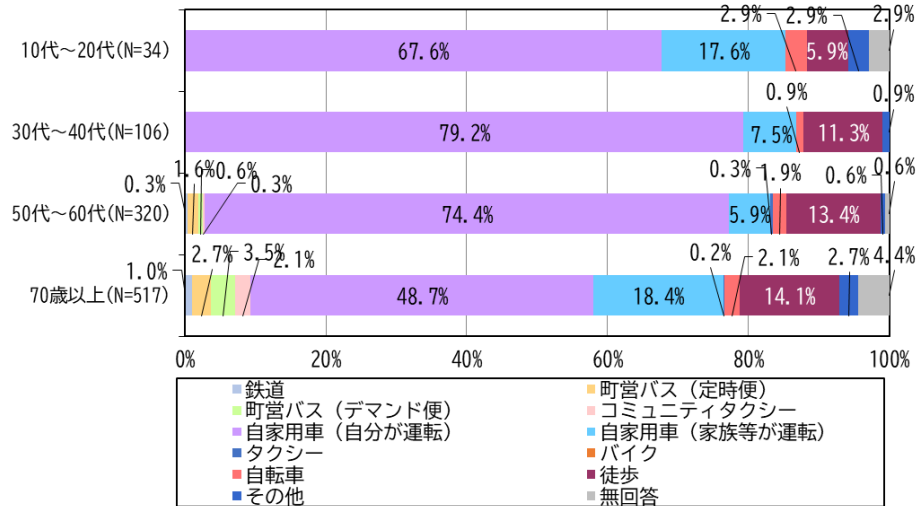
年齢別（施設）



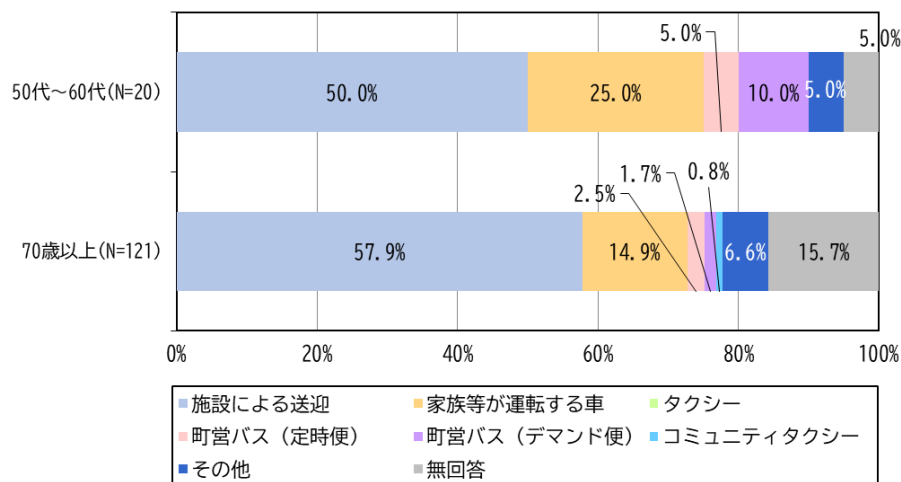
年齢別（店舗への移動手段）



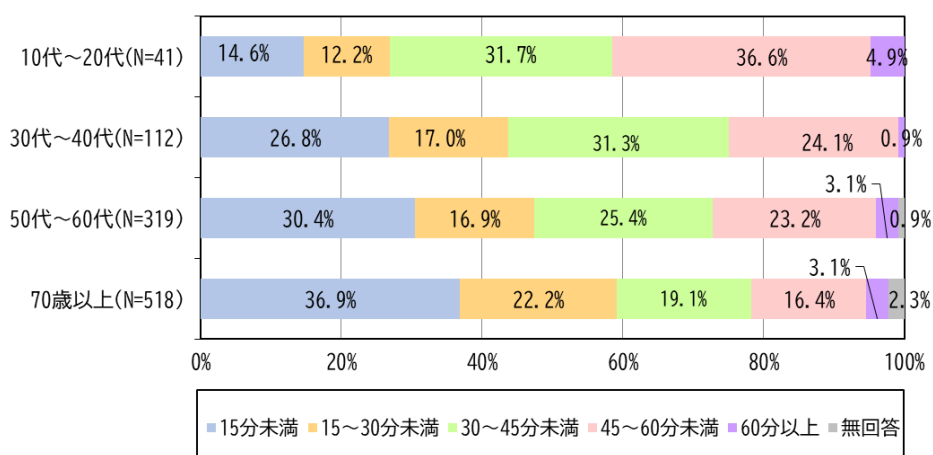
年齢別（病院への移動手段）



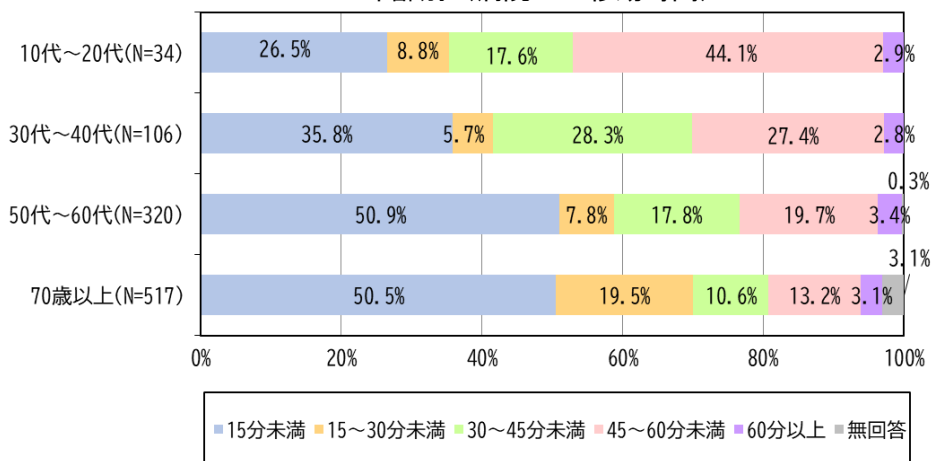
年齢別（施設への移動手段）



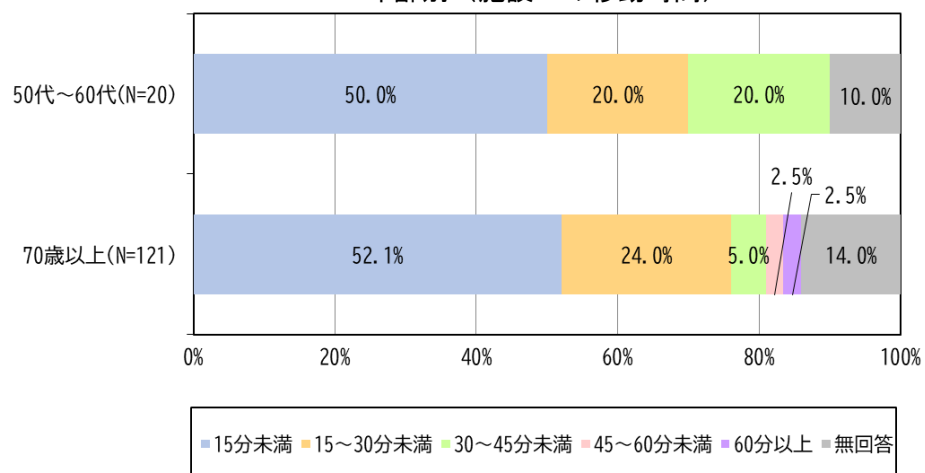
年齢別（店舗への移動時間）



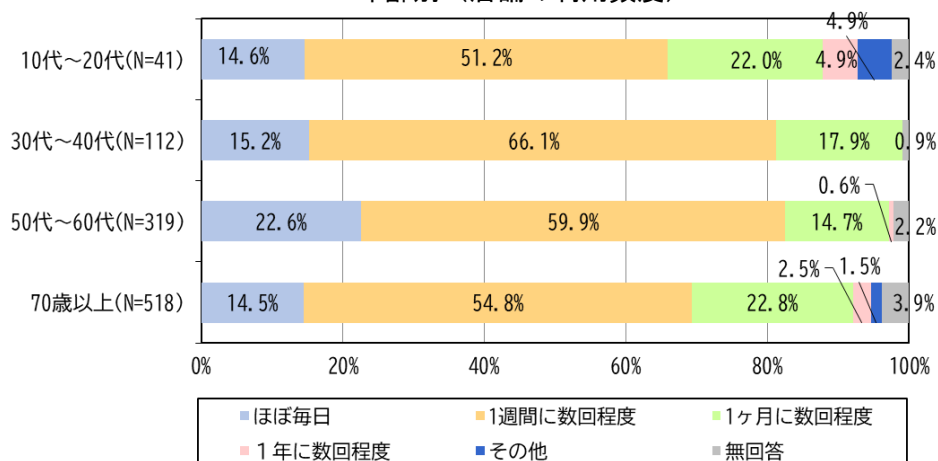
年齢別（病院への移動時間）



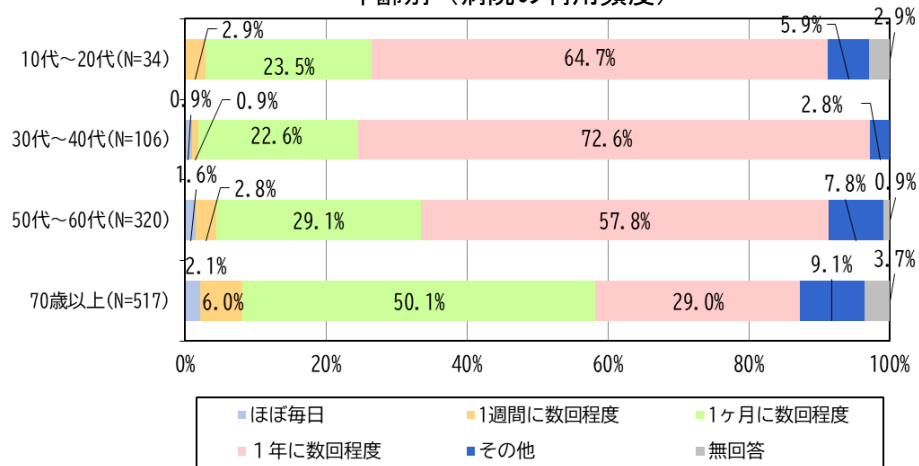
年齢別（施設への移動時間）



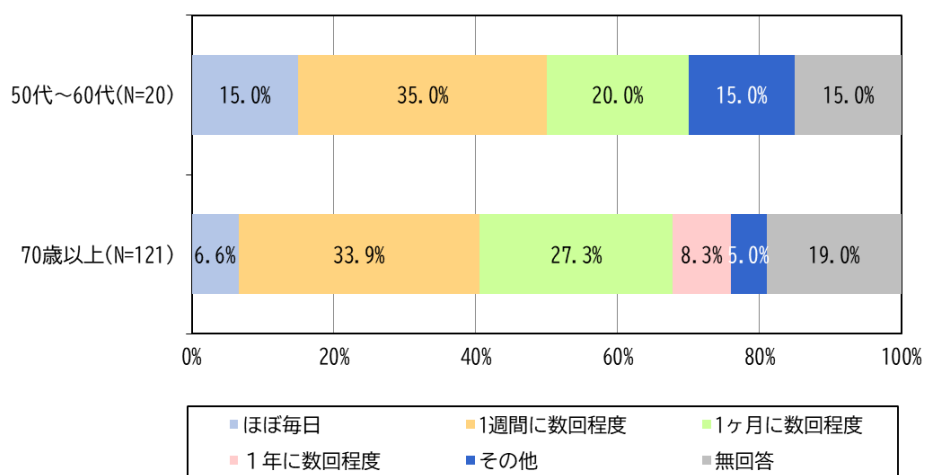
年齢別（店舗の利用頻度）



年齢別（病院の利用頻度）



年齢別（施設の利用頻度）



【クロス集計（施設の利用状況×区域別）】

（場所）

- ・都市計画区域内では、買い物をする場所は「町外（実店舗）」48.1%、病院は「町内」65.5%、高齢者福祉施設や介護施設は「町内」89.6%と最も多くなります。
- ・都市計画区域外では、買い物をする場所は「町外（実店舗）」46.5%、病院は「町内」66.1%、高齢者福祉施設や介護施設は「町内」91.5%と最も多くなります。

（主な移動手段）

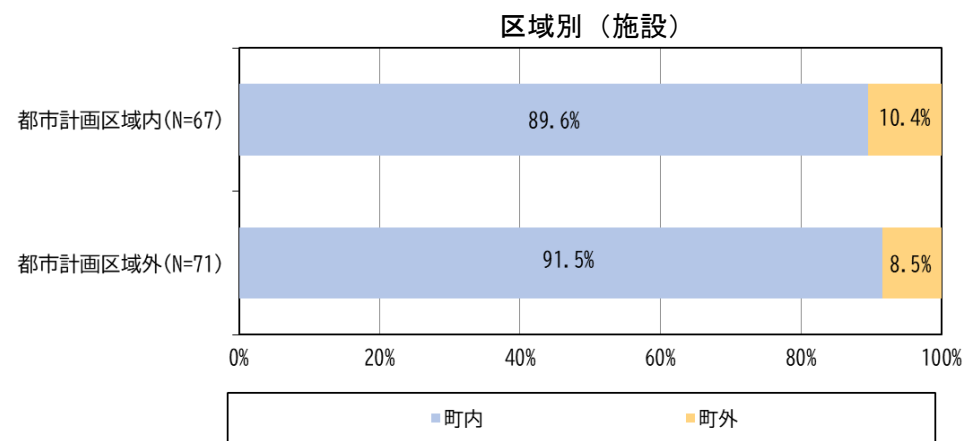
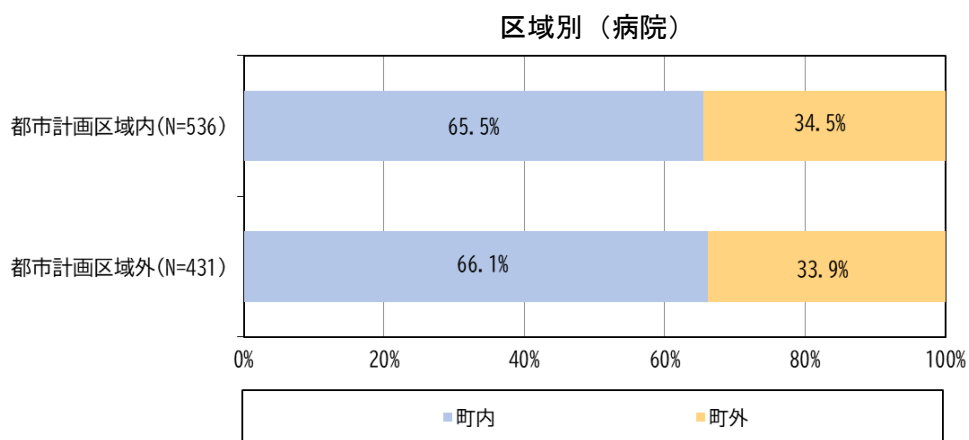
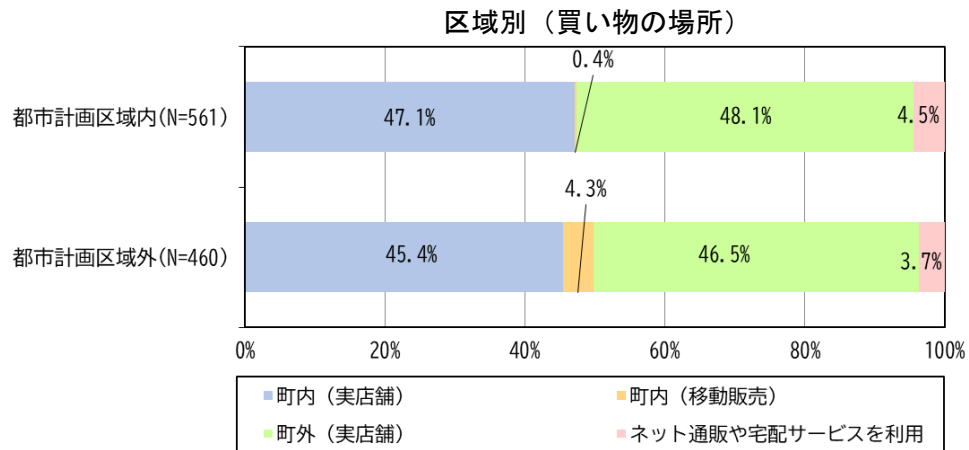
- ・買い物をする場所や病院への主な交通手段は「自家用車（自分が運転）」が都市計画区域内/外問わず最も多くなります。
- ・都市計画区域内では「徒歩」が「自家用車（自分が運転）」の次に多く、買い物をする場所へは13.8%、病院へは23.7%となります。
- ・都市計画区域外では、「公共交通（鉄道、町営バス等）」の利用がそれぞれ1割となります。

（移動時間）

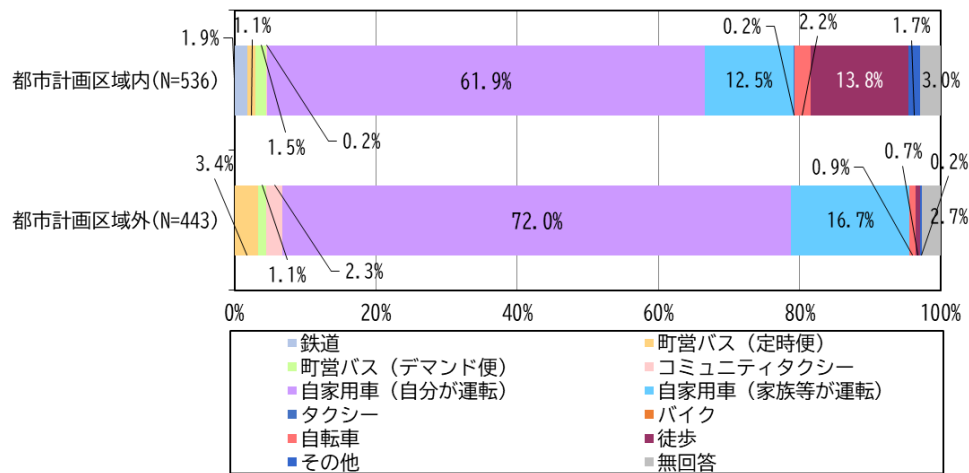
- ・都市計画区域内/外問わず、いずれの施設においても「15分未満」が最も多くなります。
- ・都市計画区域内では、店舗への移動時間は「15分未満」が32.8%となり、30分以上が約5割となります。病院への移動時間は「15分未満」が52.4%となり、高齢者福祉施設や介護施設への移動時間は「15分未満」が59.7%となります。
- ・都市計画区域外では、店舗への移動時間は「15分未満」が33.0%となります。病院への移動時間は「15分未満」が43.4%となります。高齢者福祉施設や介護施設への移動時間は「15分未満」が45.4%となり、8割が30分未満と回答しています。

（利用頻度）

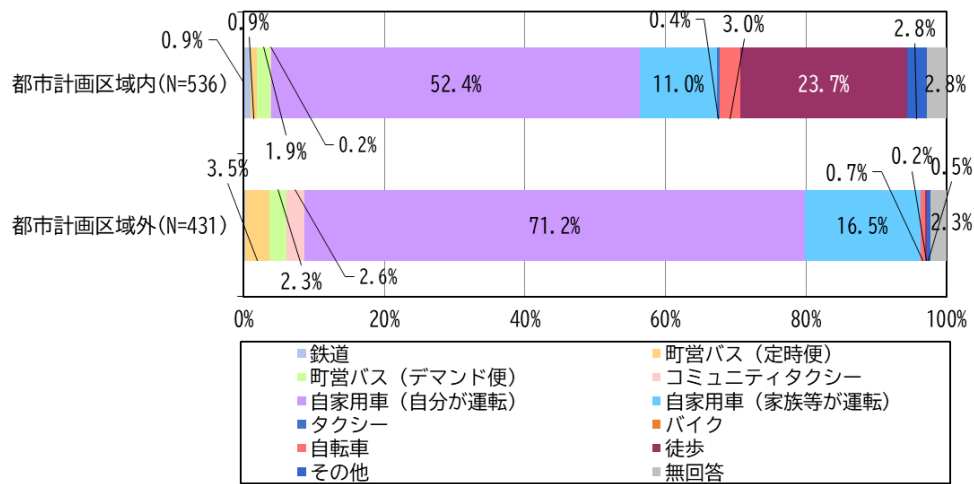
- ・施設の利用頻度は、都市計画区域内/外問わず、店舗では「1週間に数回程度」が約6割と最も多く、病院では「1年に数回程度」や「1ヶ月に数回程度」がそれぞれ4割と最も多くなります。
- ・高齢者福祉施設や介護施設に関しても、都市計画区域内/外で同様の傾向を示しており、「1週間に数回程度」が3割を超えます。



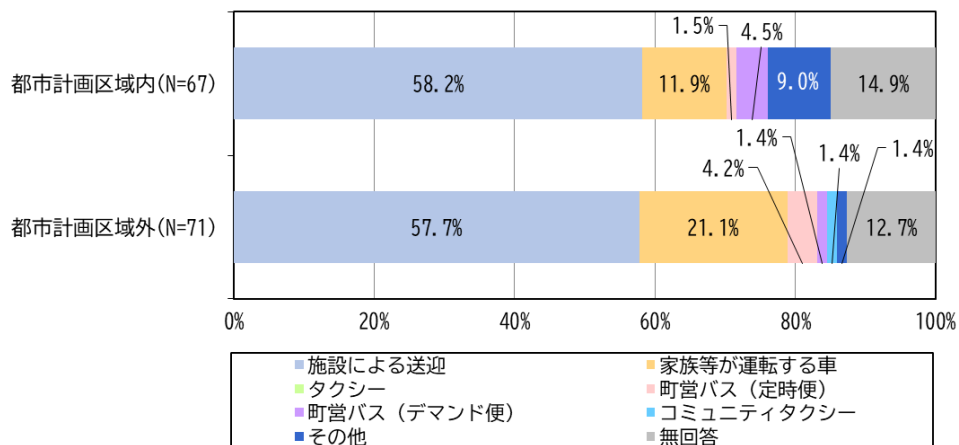
区域別（店舗への移動手段）



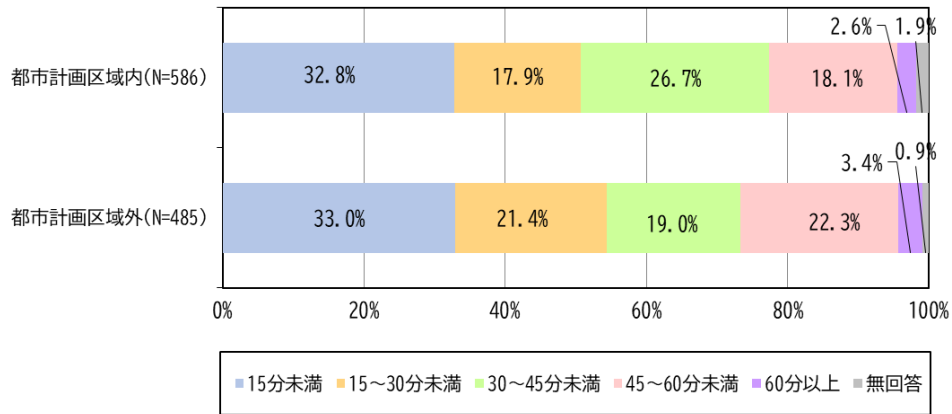
区域別（病院への移動手段）



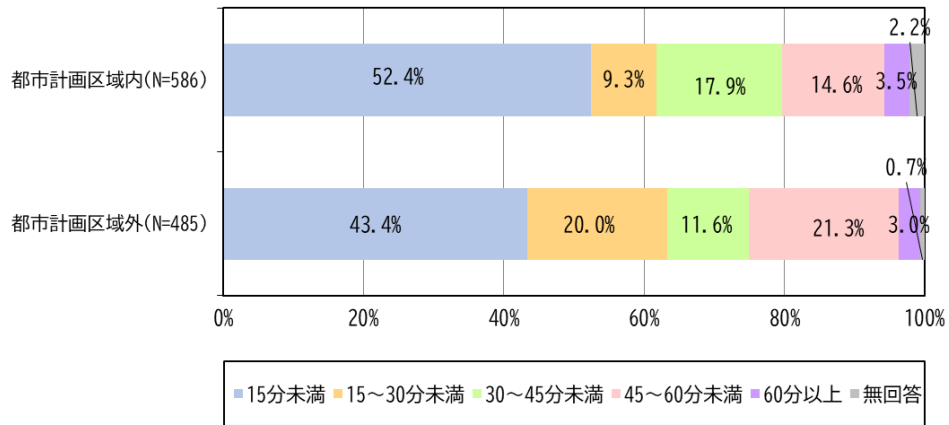
区域別（施設への移動手段）



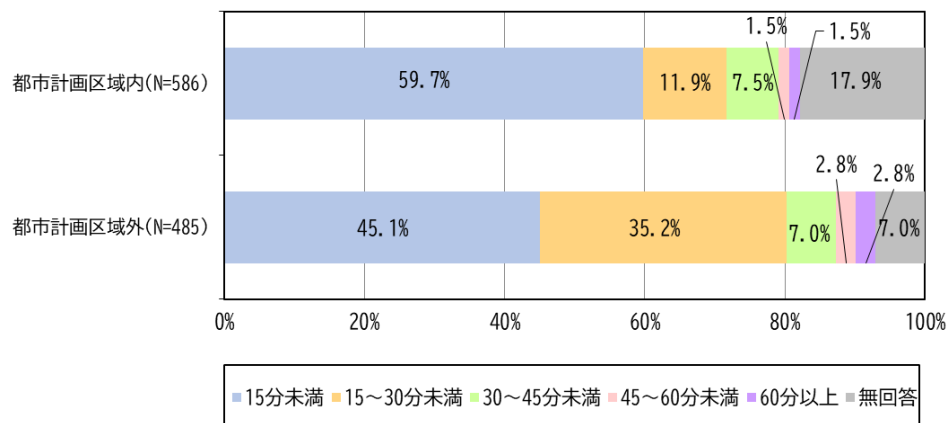
区域別（店舗への移動時間）



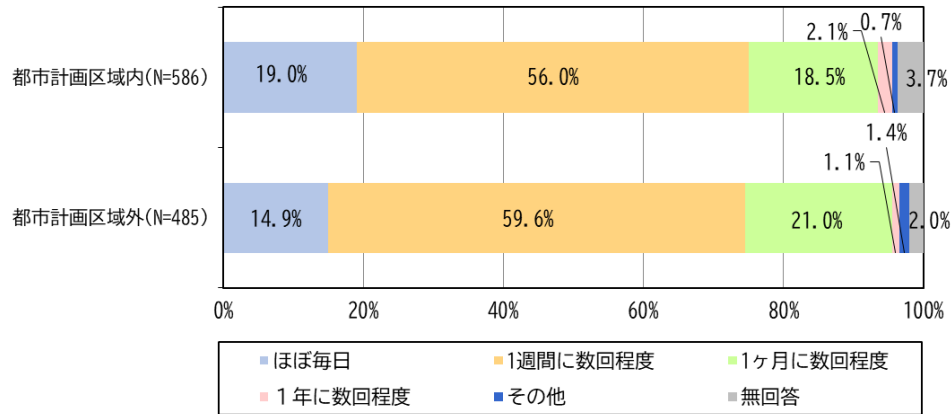
区域別（病院への移動時間）



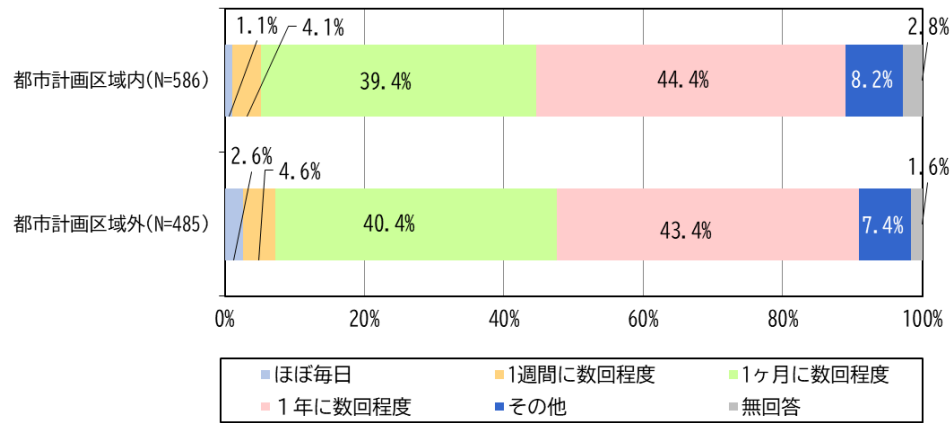
区域別（施設への移動時間）



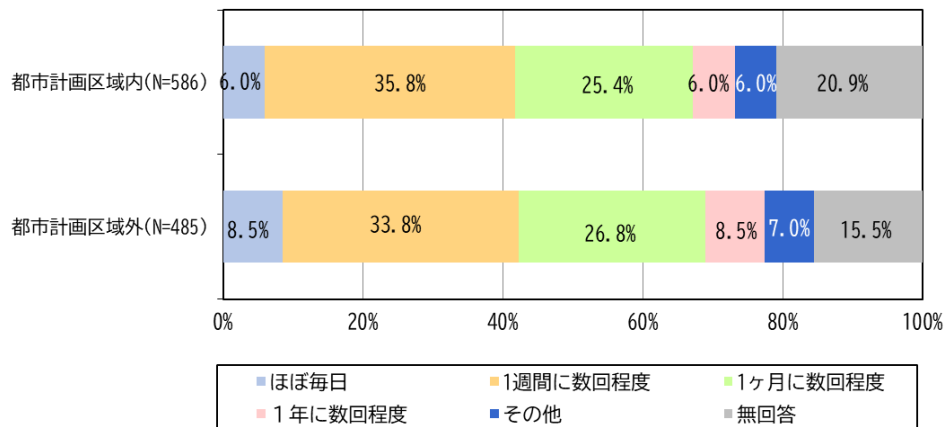
区域別（店舗の利用頻度）



区域別（病院の利用頻度）



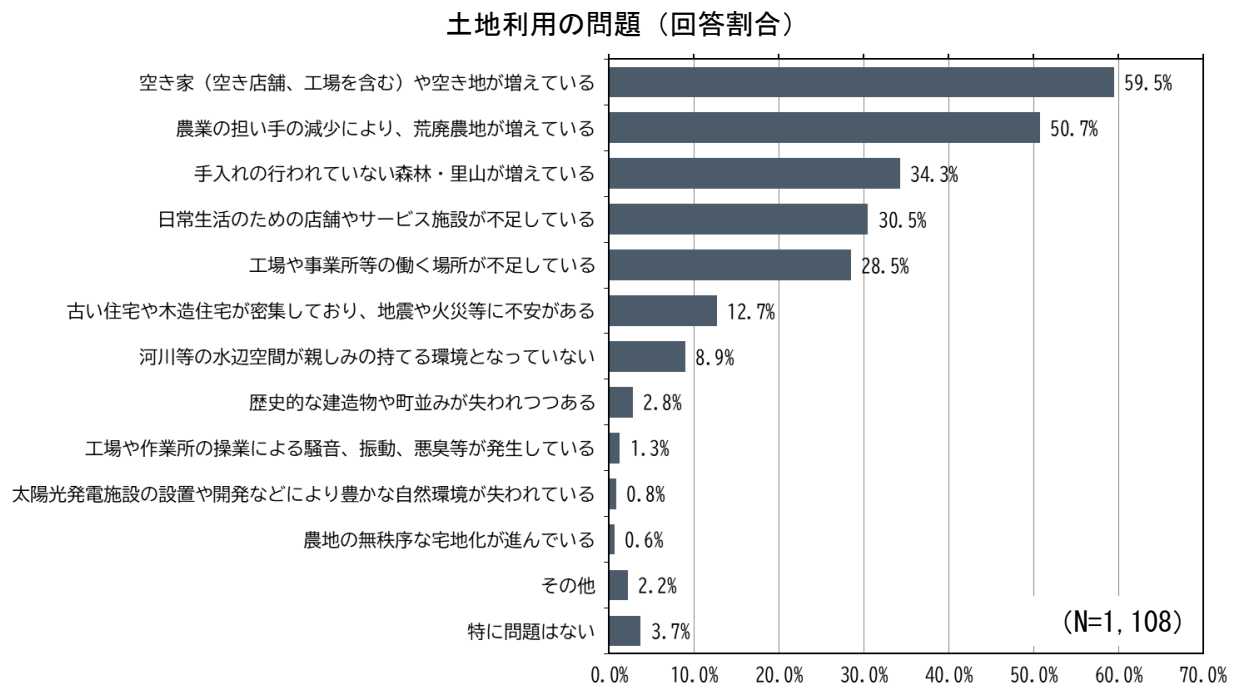
区域別（施設の利用頻度）



(3) 土地利用の問題

問7 お住まいの周辺の土地利用について問題だと思われるものはありますか。あてはまるものを最大3つまで選び、番号に○をつけてください。

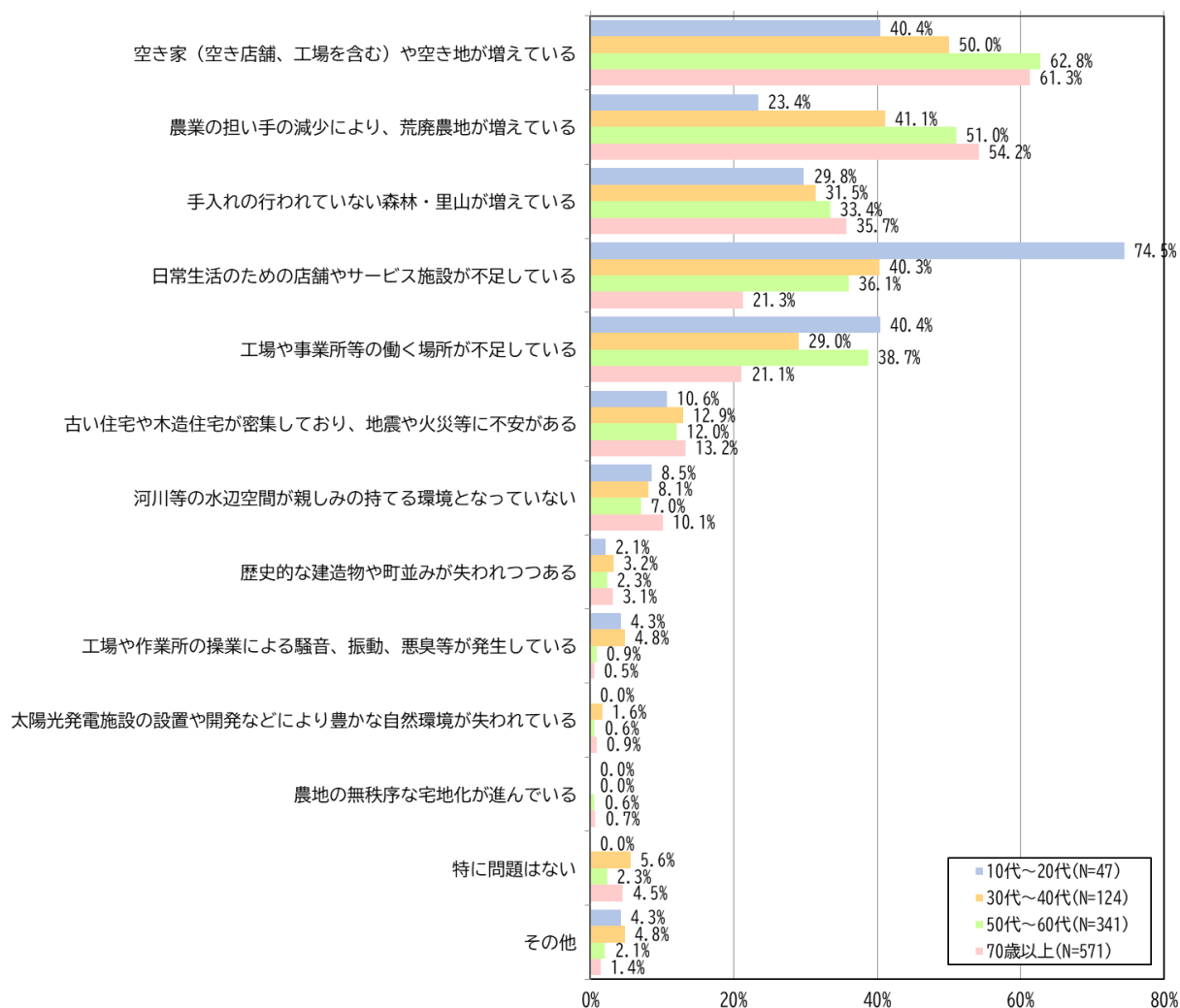
- ・「空き家（空き店舗、工場を含む）や空き地が増えている」が 59.5%と最も多く、次いで「農業の担い手の減少により荒廃農地が増えている」が 50.7%、「手入れが行われていない森林・里山が増えている」が 34.3%と続きます。



【クロス集計（土地利用の問題×年齢別）】

- ・「空き家（空き店舗、工場を含む）や空き地が増えている」は全ての年代において、4割以上を占めています。
- ・「農業の担い手の減少により、荒廃農地が増えている」は、若い世代ほど、割合が低くなっています。
- ・10代～20代では、「日常生活のための店舗やサービス施設が不足している」が7割を超え、他の年代と比較して突出しています。
- ・「工場や事業所等の働く場所が不足している」は10代～20代や50代～60代の割合が高くなります。

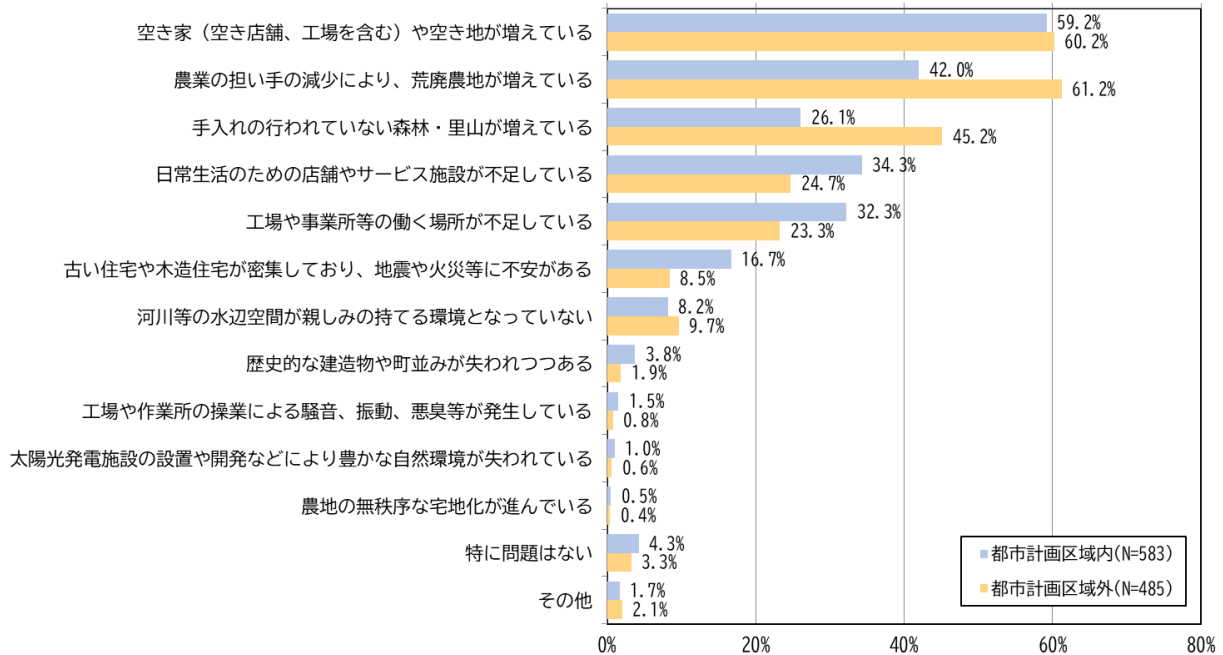
年齢別土地利用の問題（回答割合）



【クロス集計（土地利用の問題×区域別）】

- ・都市計画区域内では、「店舗やサービス施設の不足」「働く場所の不足」「古い住宅や木造住宅の密集」が区域外と比較して多くなります。
- ・都市計画区域外では、「荒廃農地の増加」が6割を占めており、「手入れの行われていない森林・里山が増えている」が4割以上となります。

区域別土地利用の問題（回答割合）

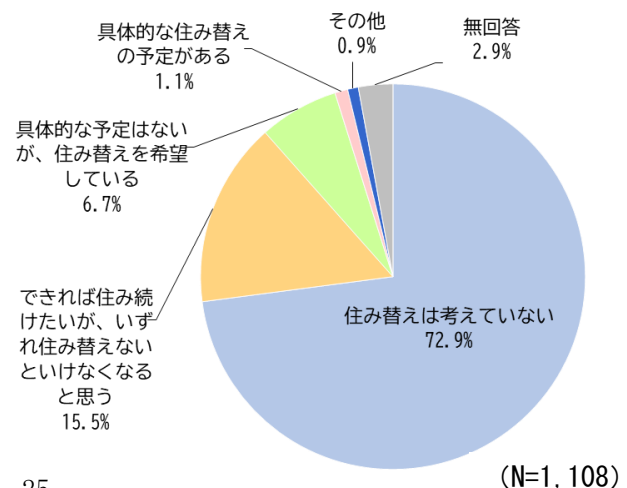


（４）住み替え意向

問８ 現在お住まいの場所からの住み替えを考えていますか。あてはまるものを１つ選び、番号に○をつけてください。

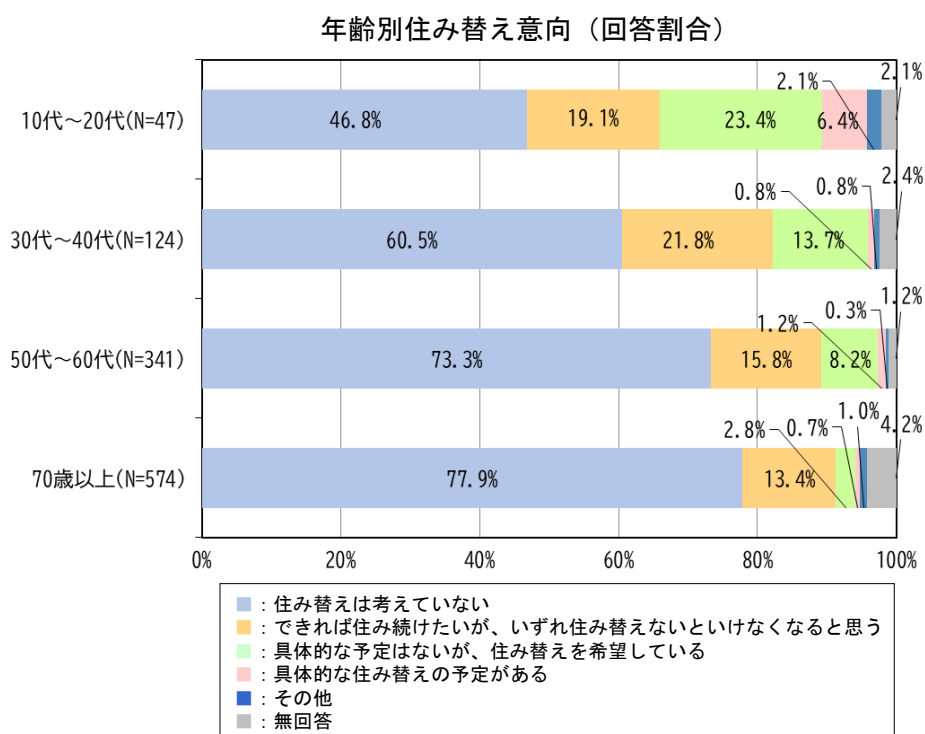
- ・住み替え意向では、「住み替えは考えていない」が72.9%と最も多くなります。
- ・「できれば住み続けたいが、いずれ住み替えないといけなくなると思う」が15.5%、「具体的な予定はないが、住み替えを希望している」が6.7%、「具体的な住み替えの予定がある」が1.1%となり、それらを合わせた「住み替えを考えている」が23.3%となります。

住み替え意向（回答割合）



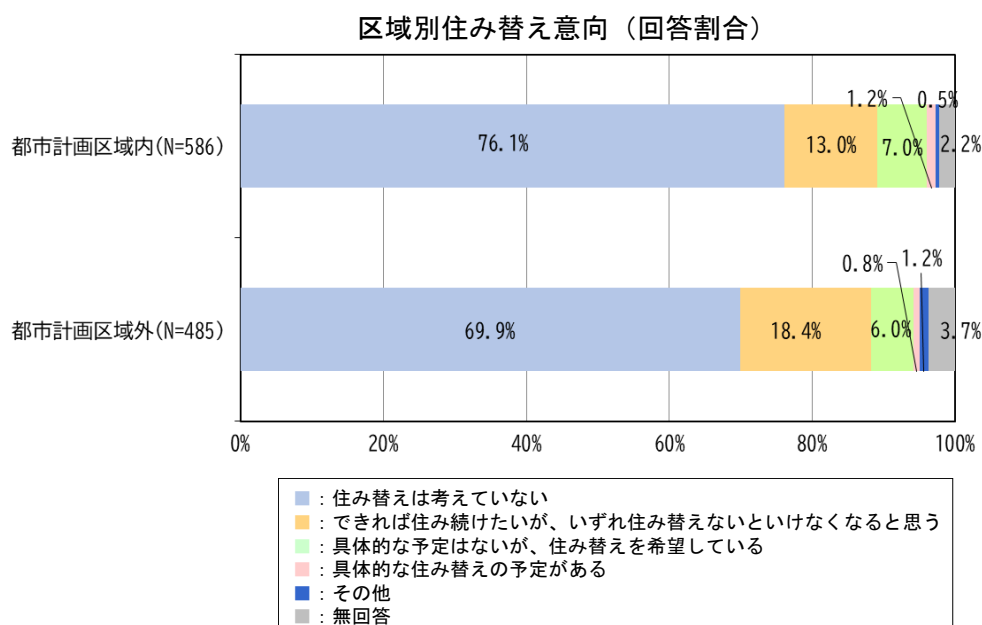
【クロス集計（住み替え意向×年齢別）】

- ・住み替え意向を年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「住み替えは考えていない」の割合が高くなっています。一方で 70 歳以上の 2 割は住み替えを考えていると回答しています。
- ・10 代～20 代では、「住み替えを希望している」が 23.4% となり、「いずれは住み替えないといけない」や「住み替え予定があり」を含め、5 割が「住み替えを考えている」と回答しています。



【クロス集計（住み替え意向×区域）】

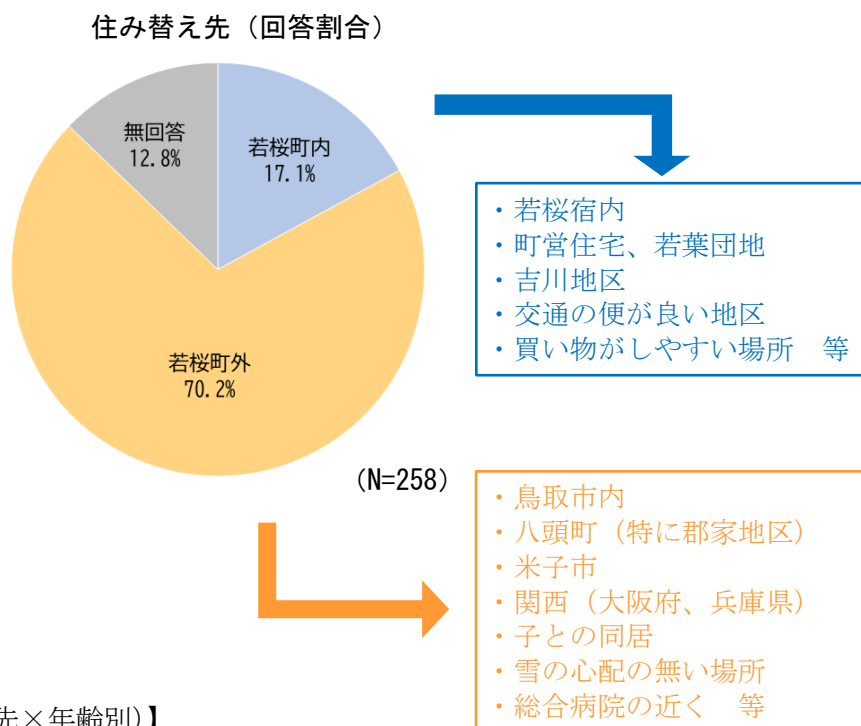
- ・都市計画区域外では、「住み替えは考えていない」が全体や都市計画区域内と比較して低く、「できれば住み続けたいが、いずれ住み替えないといけなくなると思う」が 18.4% と回答しています。



(5) 住み替え先

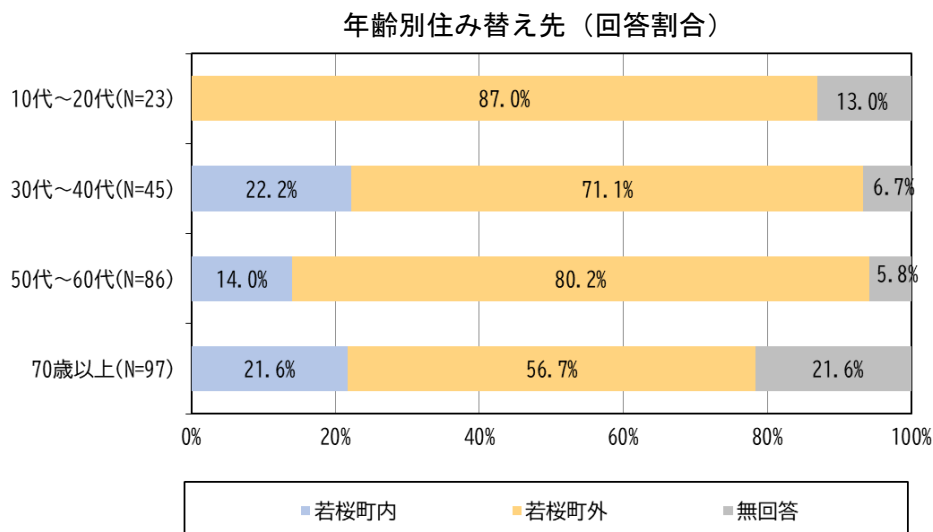
問9 住み替えを希望しているまた予定している方にお尋ねします。住み替え先としてあてはまるものを1つ選び、具体的な場所を教えてください。

- ・住み替え先では「若桜町内」が17.1%、「若桜町外」が70.2%となります。
- ・具体の住み替え先は「若桜町内」では、『若桜宿内』『町営住宅』『交通の便が良い地区』が多く挙げられ、「若桜町外」では、『鳥取市』『八頭町（郡家地区）』『子との同居場所』が多く挙げられています。



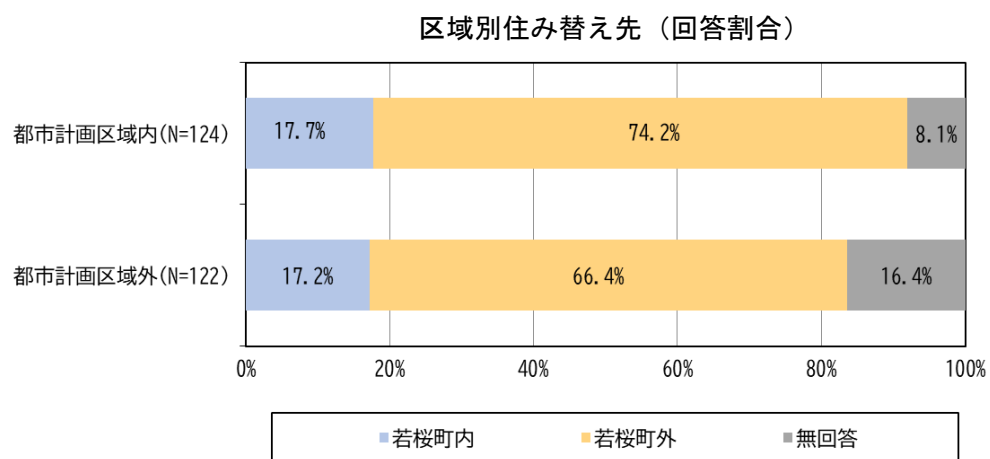
【クロス集計（住み替え先×年齢別）】

- ・住み替え先を年齢別にみると、10代～20代では、「若桜町外」が8割以上となります。
- ・70歳以上では、「若桜町外」が56.7%と他の世代と比べて低くなる。また、70歳以上の具体的な住み替え先として、若桜町内外関わらず、『施設』や『老人ホーム』が多く挙げられます。



【クロス集計（住み替え先×区域別）】

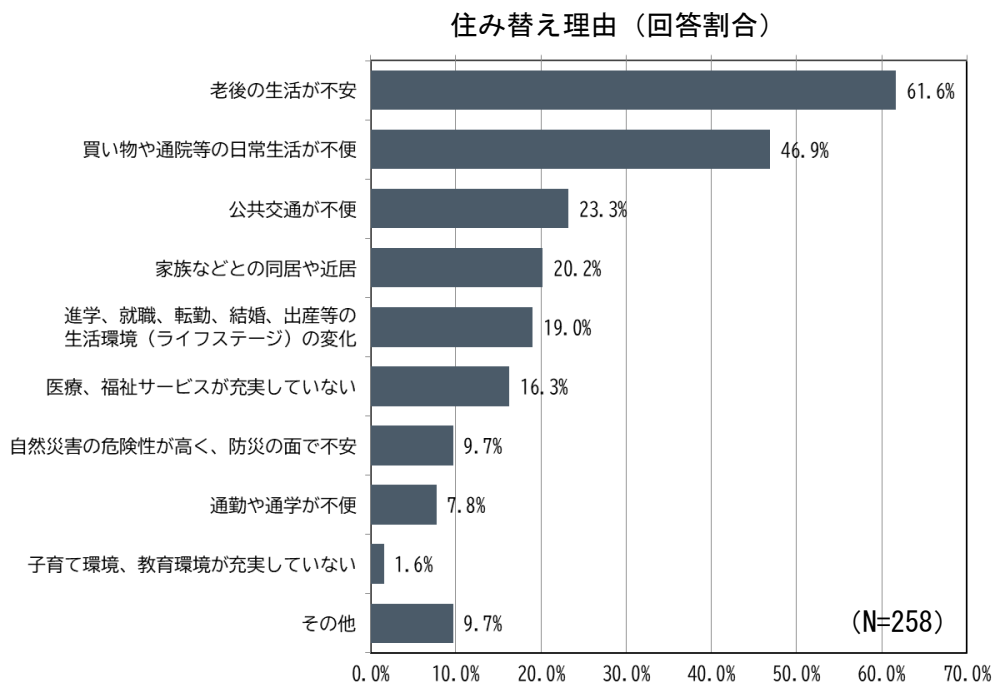
- ・住み替え意向を区域別にみると、都市計画区域内/外に関わらず、「若桜町外」が多くなります。
- ・都市計画区域外にお住まいの人で町内の具体的な住み替え先として、『若桜宿』や『若葉団地』が多く挙げられています。



(6) 住み替え理由

問9 住み替えの理由は何ですか。特にそう思われる理由を、最大3つまで選び、番号に○を付けてください。

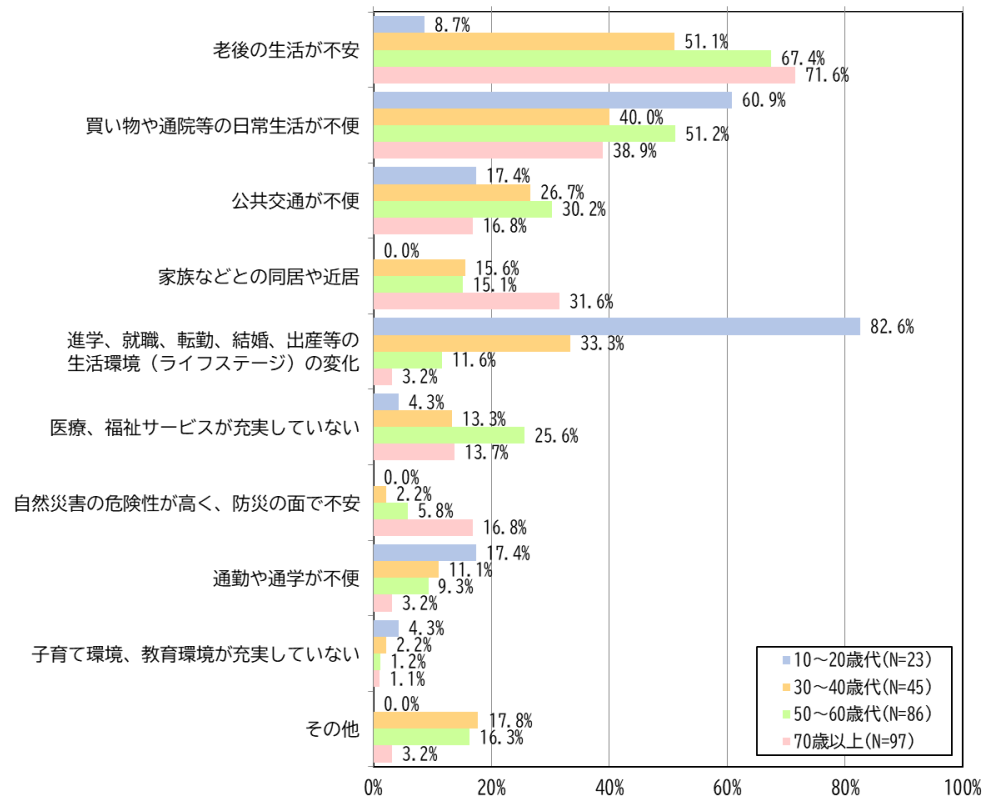
- ・住み替え理由では、「老後の生活が不安」が61.6%と最も多く、次いで「買い物や通院等の日常生活が不便」が46.9%、「公共交通が不便」が23.3%と続きます。
- ・「老後の生活が不安」は、他の選択肢（理由）を包含する場合もあることから、「老後の生活が不安」と回答した159人がその他に選択している理由を確認すると「買い物や通院等の日常生活が不便（49.1%）」「公共交通が不便（27.7%）」「家族などとの同居や近居（19.5%）」「医療、福祉サービスが充実していない（18.9%）」が上位となっています。



【クロス集計（住み替え理由×年齢別）】

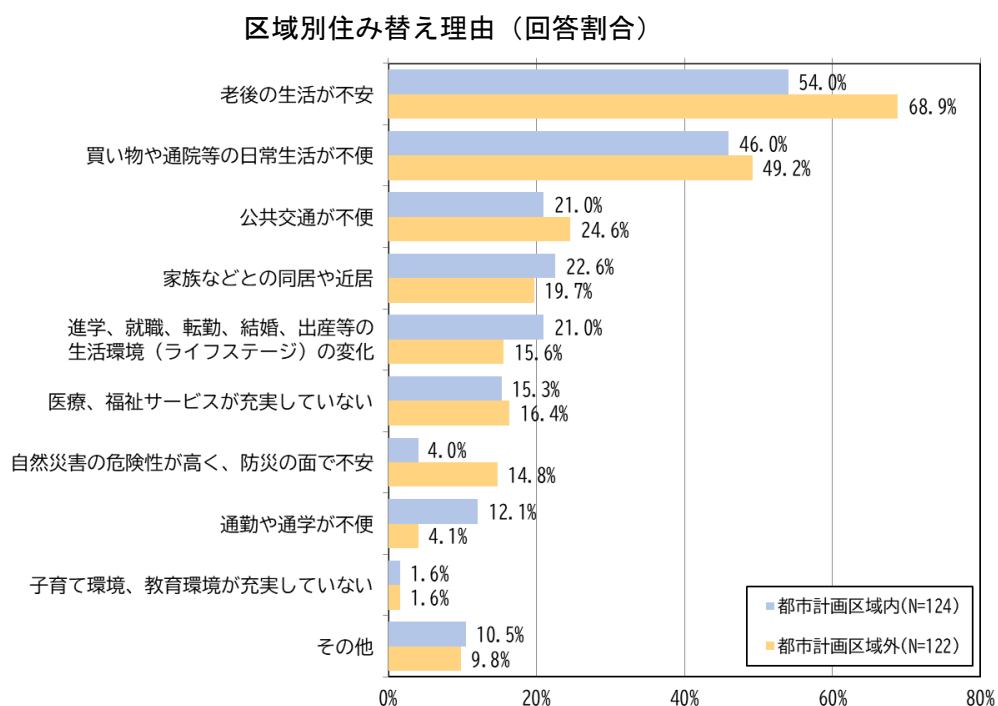
- ・住み替え理由を年齢別にみると、10代～20代では、「進学、就職、転勤、結婚、出産等の生活環境（ライフステージ）の変化」が82.6%と突出しています。
- ・30代以上の世代では、「老後の生活が不安」が一位の理由となっています。
- ・50代～60代では、「医療、福祉サービスが充実していない」が、70歳以上では、「家族などとの同居や近居」「自然災害の危険性が高く、防災の面で不安」が他の世代と比較して高くなっています。

年齢別住み替え理由（回答割合）



【クロス集計（住み替え理由×区域別）】

- ・住み替え理由を区域別にみると、都市計画区域内では、「家族などとの同居や近居」「進学、就職、転勤、結婚、出産等の生活環境（ライフステージ）の変化」「通勤や通学が不便」が都市計画区域外と比較して高くなっています。
- ・都市計画区域外では「老後の生活が不安」が7割を占め、「自然災害の危険性が高く、防災の面で不安」が都市計画区域内と比較して高くなっています。



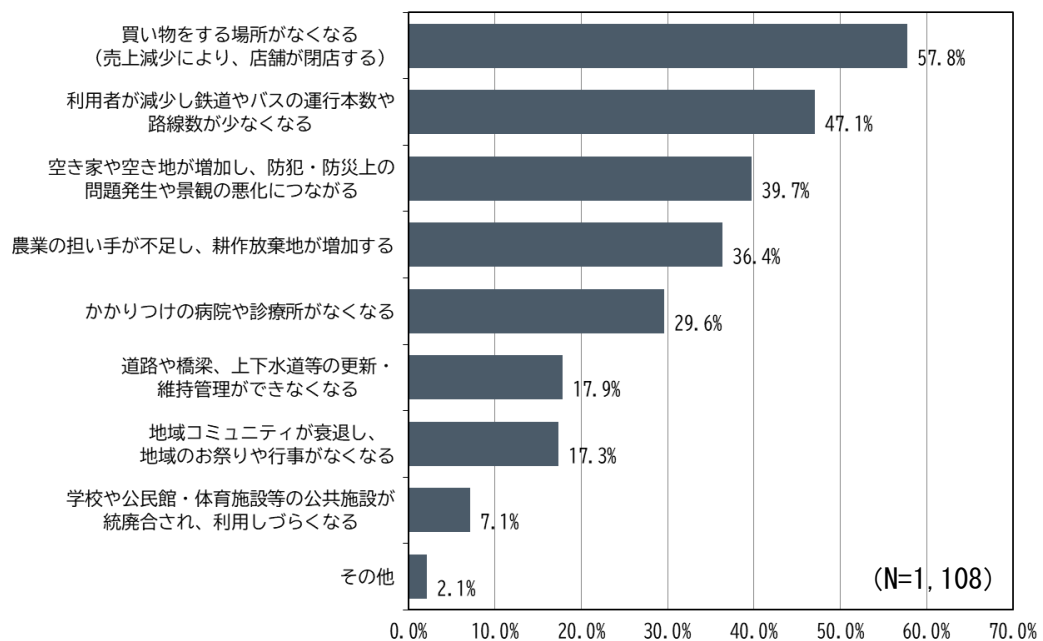
2-3. 今後のまちづくり

(1) 人口減少や少子高齢化等により予想される日常生活への影響

問 11 人口減少や少子高齢化等の進行により予想される日常生活への影響のうち、あなたの普段の生活に関係すると思うものは何ですか。特にそう思われるものを最大3つまで選び、番号に○を付けてください。

- ・「買い物をする場所がなくなる（売上減少により、店舗が閉店する）」が 57.8%と最も多く、次いで「利用者が減少し鉄道やバスの運行本数や路線数が少なくなる」が 47.1%、「空き家や空き地が増加し、防犯・防災上の問題発生や景観の悪化につながる」が 39.7%と続きます。

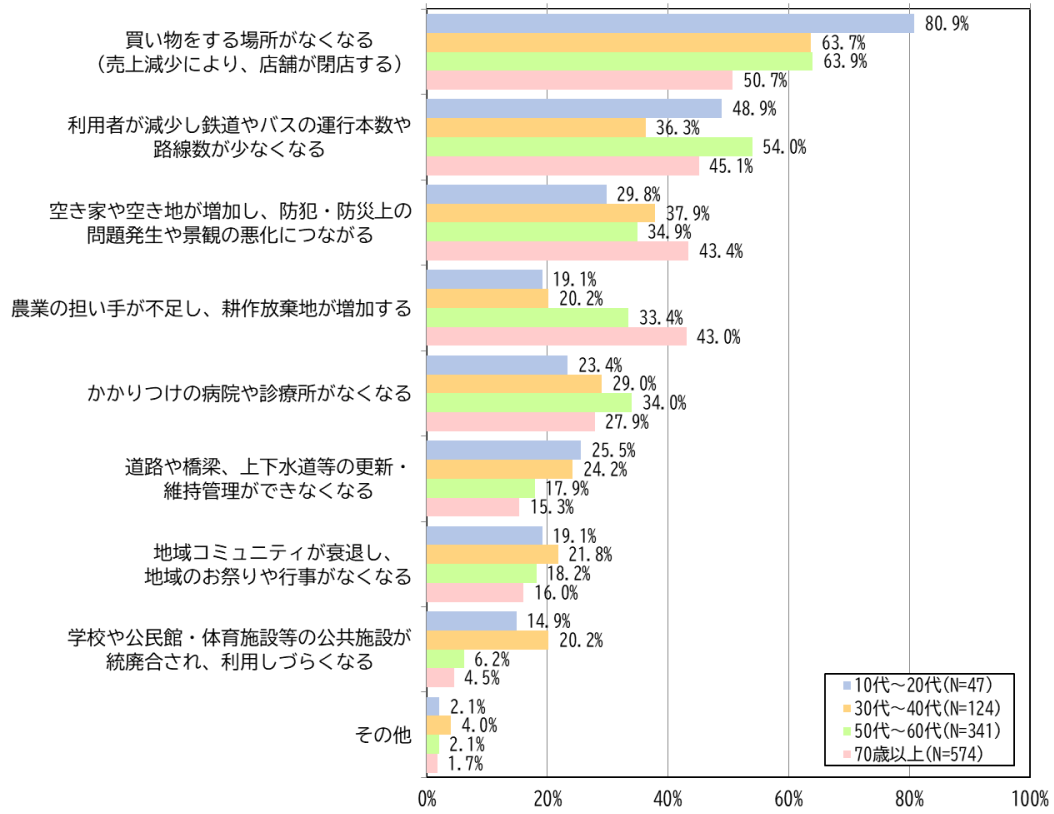
人口減少や少子高齢化による日常生活への影響（回答割合）



【クロス集計（日常生活への影響×年齢別）】

- ・日常生活への影響を年齢別で見ると、全ての世代で「買い物をする場所がなくなる」が最も多くなっています。特に、10代～20代では、80.9%と突出しています。
- ・30代～40代では、「学校や公民館・体育施設等の公共施設が統廃合され、利用しづらくなる」の割合が高くなります。一方で「鉄道やバス路線が少なくなる」は他の年代と比べて低くなります。
- ・年代が高くなるにつれて、「耕作放棄地が増加する」の割合が高くなります。

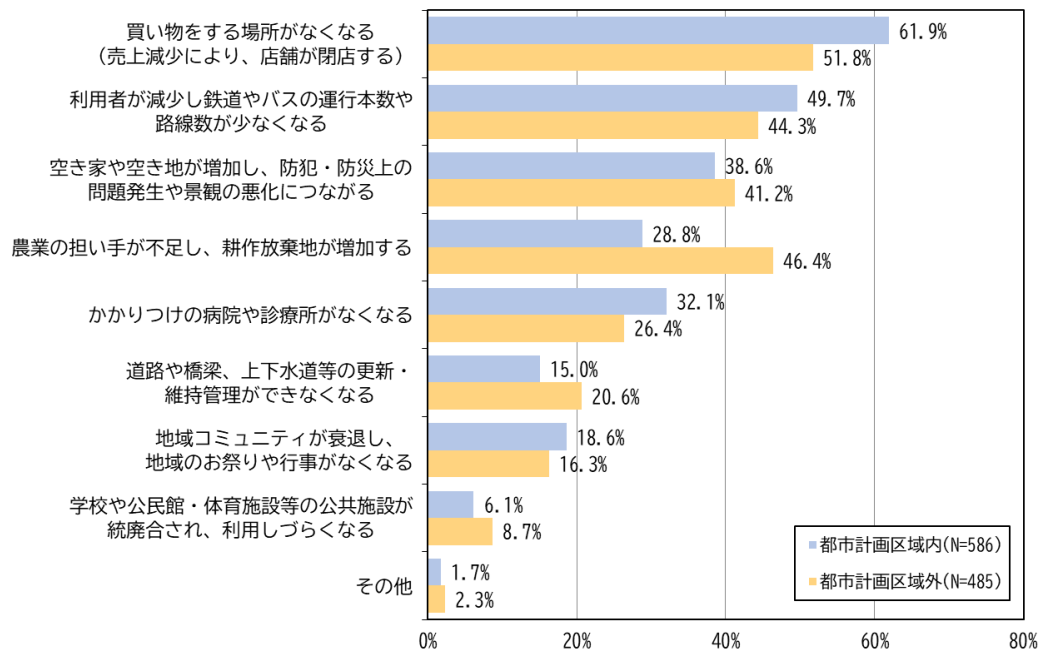
年齢別人口減少や少子高齢化による日常生活への影響（回答割合）



【クロス集計（日常生活への影響×区域別）】

- ・都市計画区域内では、「買い物の場所がなくなる」が61.9%、「鉄道やバスの路線が少なくなる」が49.7%、「空き家や空き地の増加」が38.6%となります。また、「かかりつけの病院や診療所がなくなる」が3割を超えます。
- ・都市計画区域外では、「買い物の場所がなくなる」が51.8%、「農業の担い手が不足し、耕作放棄地が増加する」が46.4%、「鉄道やバス路線が少なくなる」が44.3%、「空き家や空き地の増加」が41.2%となります。

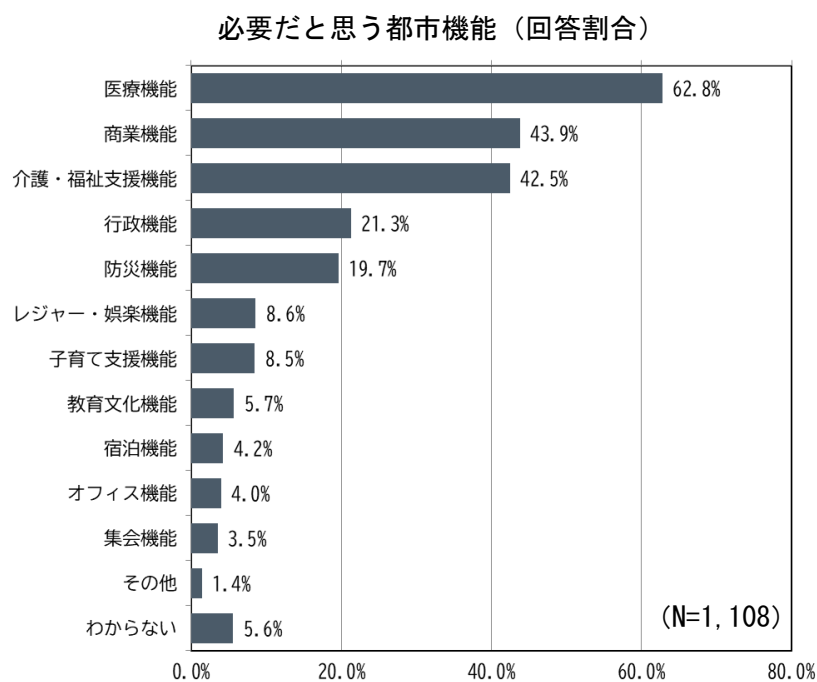
区域別人口減少や少子高齢化による日常生活への影響（回答割合）



(2) 日常生活を送るうえで必要だと思う機能

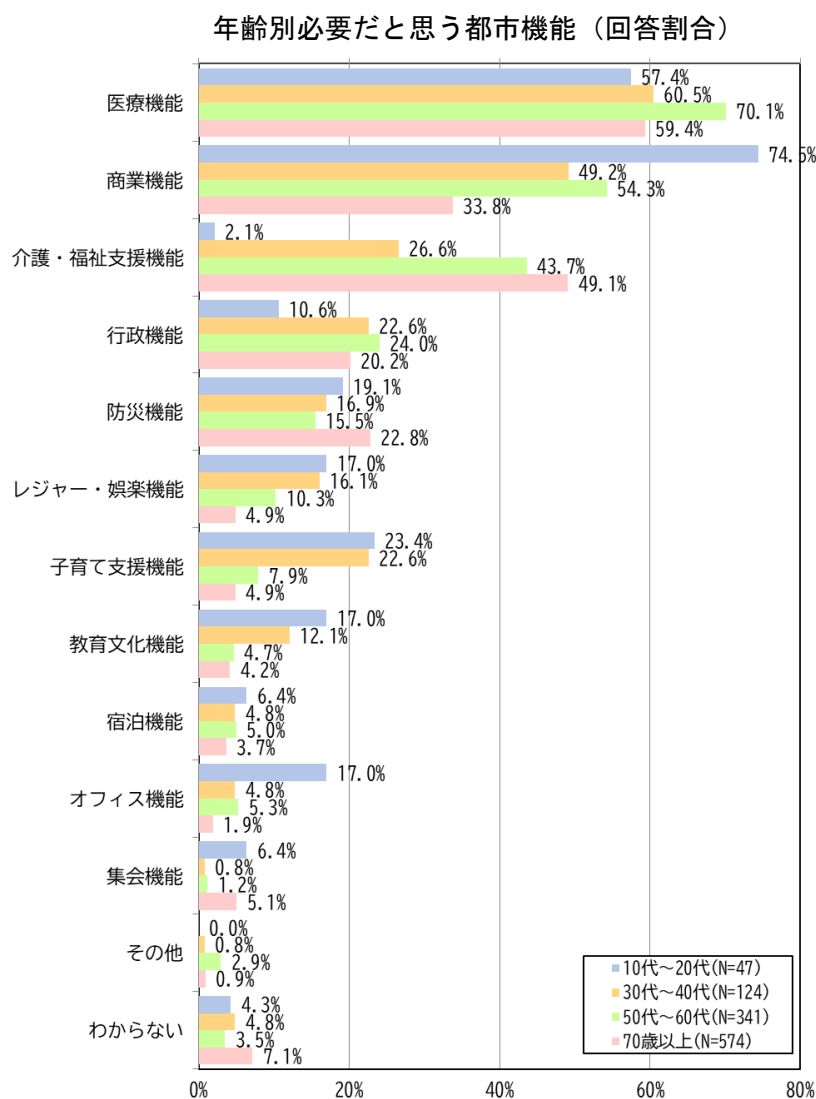
問 12 お住まいの周辺において、日常生活を送るうえで必要だと思う機能は何ですか。あてはまるものを最大3つまで選び、番号に○を付けてください。

- ・日常生活を送るうえで必要だと思う機能では、「医療機能」が 62.8%と最も多く、次いで「商業機能」が 43.9%、「介護・福祉支援機能」が 42.5%となります。



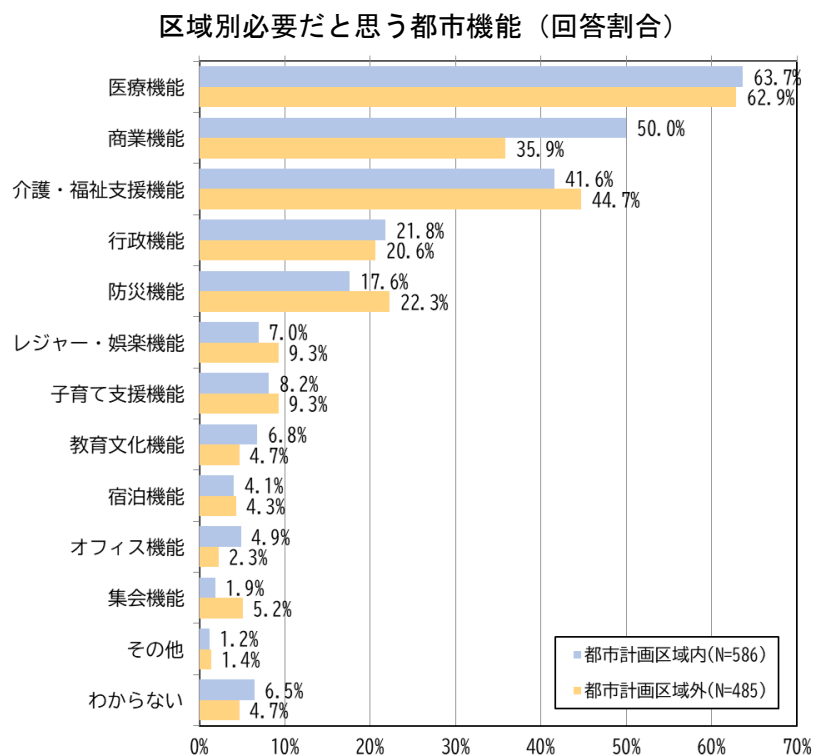
【クロス集計（都市機能×年齢別）】

- ・年齢別にみると、10代～20代では、「商業機能」「医療機能」「子育て支援機能」の順で高く、「教育文化機能」「オフィス機能」が他の年代と比べて高くなっています。
- ・30代～40代では、「医療機能」「商業機能」「介護・福祉支援機能」の順で高く、10代～20代と同様に「子育て支援機能」「教育文化機能」が他の年代と比べて高くなっています。
- ・50代～60代では、「医療機能」「商業機能」「介護・福祉支援機能」の順で高くなっています。
- ・70歳以上では、「医療機能」「介護・福祉支援機能」「商業機能」の順で高く、「防災機能」が他の年代と比べ高くなっています。



【クロス集計（都市機能×区域別）】

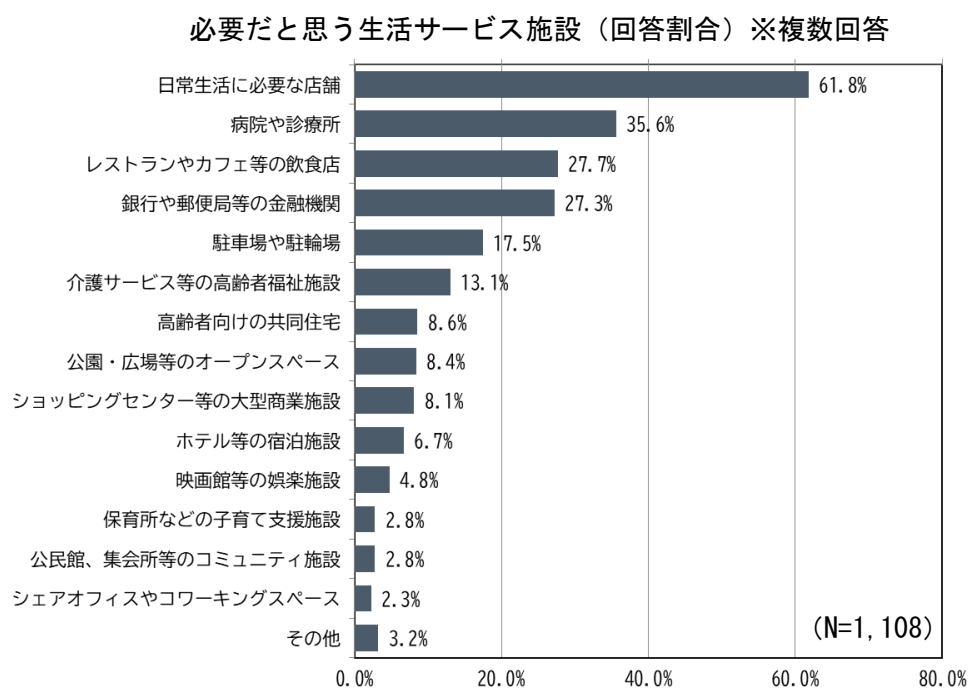
- ・区域別にみると、都市計画区域内では、「医療機能」「商業機能」「介護・福祉機能」の順で高くなっています。
- ・都市計画区域外では、「医療機能」「介護・福祉機能」「商業機能」の順で高くなる一方で、「商業機能」は都市計画区域内と比較して低く、「防災機能」や「集会機能」の割合が都市計画区域内を上回ります。



(3) 拠点となる場所に必要だと思う生活サービス施設

問13 「若桜駅」周辺の拠点となる場所に、特に必要だと思う生活サービス施設について、あてはまるものを最大3つまで選び、番号に○を付けてください。

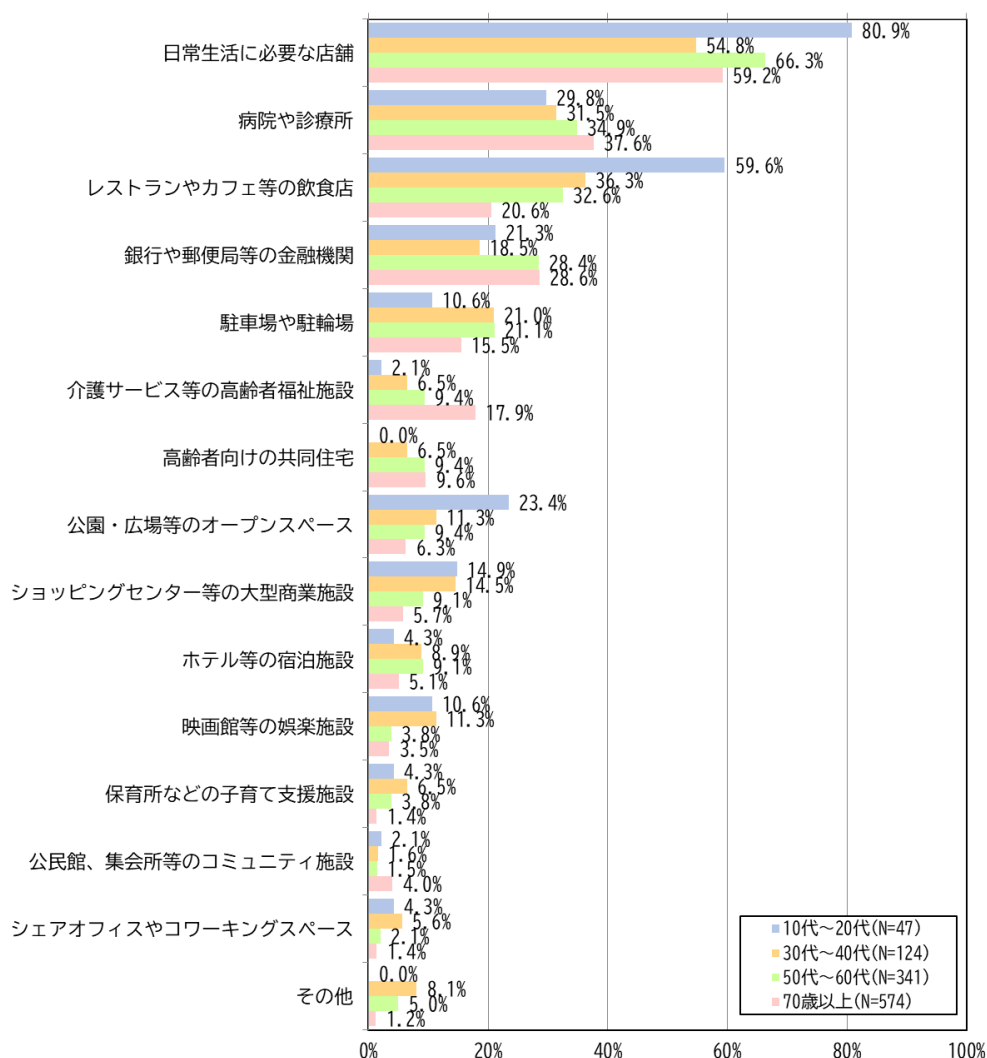
- ・拠点となる場所に必要だと思う生活サービス施設では、「日常生活に必要な店舗」が61.8%と最も多く、次いで「病院や診療所」が35.6%、「レストランやカフェ等の飲食店」が27.7%となります。



【クロス集計（生活サービス施設×年齢別）】

- ・年齢別にみると、全ての年代において、「日常生活に必要な店舗」が最も多くなります。
- ・10代～20代では、「レストランやカフェ等の飲食店」「病院や診療所」「公園・広場等のオープンスペース」の順で高くなっています。
- ・30代～40代では、「レストランやカフェ等の飲食店」「病院や診療所」「駐車場や駐輪場」の順で高くなっています。
- ・50代～60代では、「病院や診療所」「レストランやカフェ等の飲食店」「銀行や郵便局等の金融機関」の順で高くなっています。
- ・70歳以上では、「病院や診療所」「銀行や郵便局等の金融機関」「レストランやカフェ等の飲食店」の順で高くなっています。

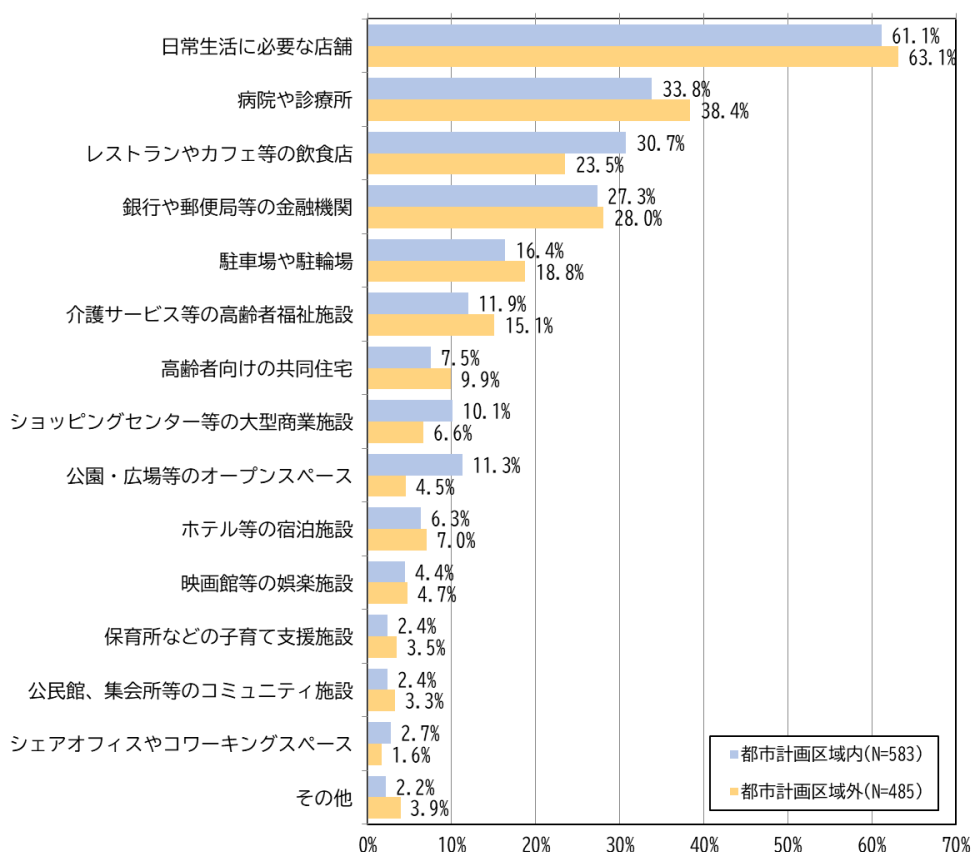
年齢別必要だと思う生活サービス施設（回答割合）※複数回答



【クロス集計（生活サービス施設×区域別）】

- ・区域別にみると、都市計画区域内/外関わらず、「日常生活に必要な店舗」が6割を超え、突出してます。
- ・都市計画区域内では、「日常生活に必要な店舗」の他、「病院や診療所」「レストランやカフェ等の飲食店」「銀行や郵便局等の金融機関」の順で高くなります。
- ・都市計画区域外では、「病院や診療所」「銀行や郵便局等の金融機関」「レストランやカフェ等の飲食店」の順で高くなります。

区域別必要だと思う生活サービス施設（回答割合）※複数回答

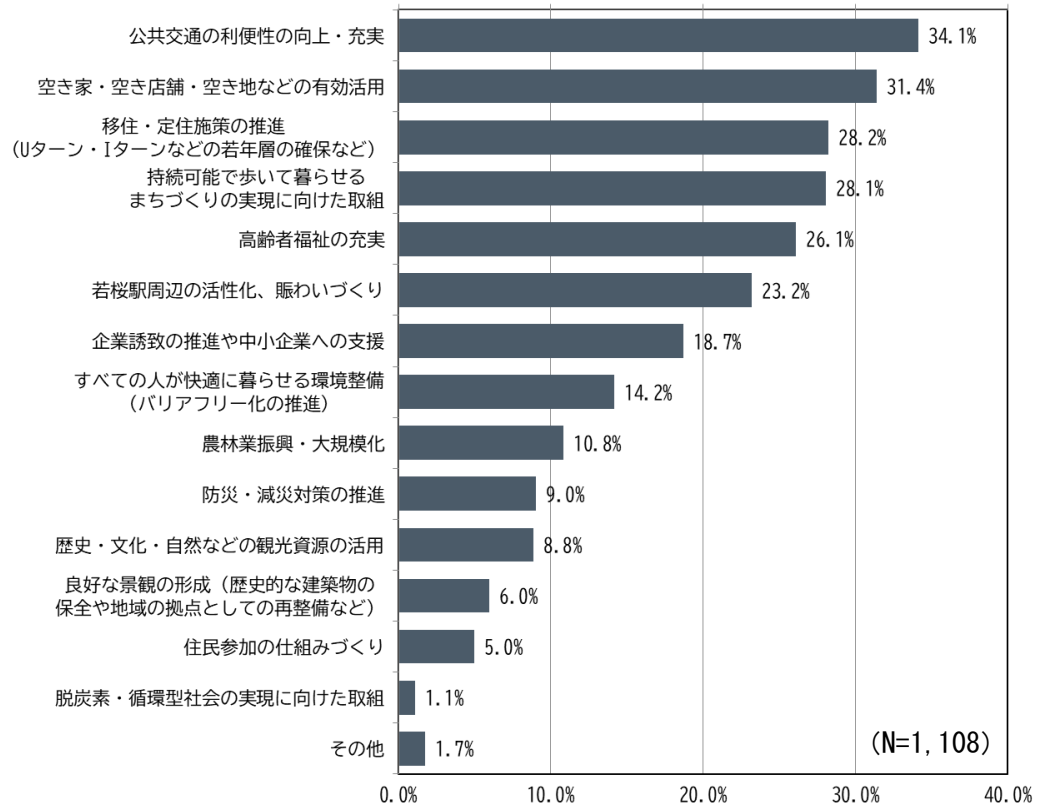


(4) 今後のまちづくり

問 14 若桜町では今後どのようなまちづくりの取組が必要だと思いますか。特に望まれるものを最大3つまで選び、番号に○を付けてください。

- ・「公共交通の利便性の向上・充実」が 34.1%と最も高く、次いで「空き家・空き店舗・空き地などの有効活用」が 31.4%、「移住・定住施策の推進（Uターン・Iターンなどの若年層の確保など）」が 28.2%と続きます。

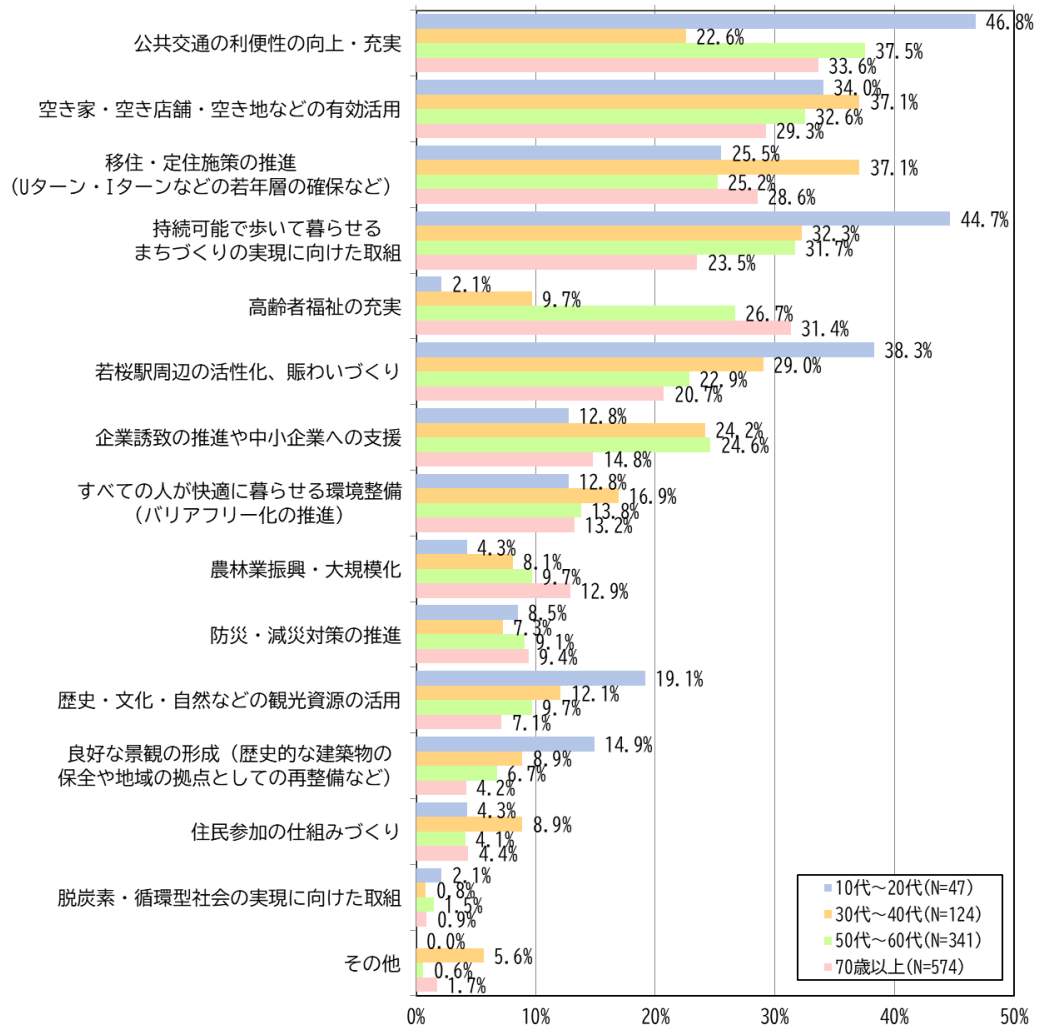
今後のまちづくり（回答割合）※複数回答



【クロス集計（今後のまちづくり×年齢別）】

- ・年齢別にみると、10代～20代では、「公共交通の利便性の向上・充実」「持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組」が4割を超え、「若桜駅周辺の活性化、賑わいづくり」も38.3%と他の世代と比べ突出しています。
- ・30代～40代では、「空き家・空き店舗・空き地などの有効活用」「移住・定住施策の推進」が重視されています。
- ・50代以上では、「公共交通の利便性の向上・充実」「空き家・空き店舗・空き地などの有効活用」が上位となり、その他50代～60代では「持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組」、70歳以上では「高齢者福祉の充実」が重視されています。

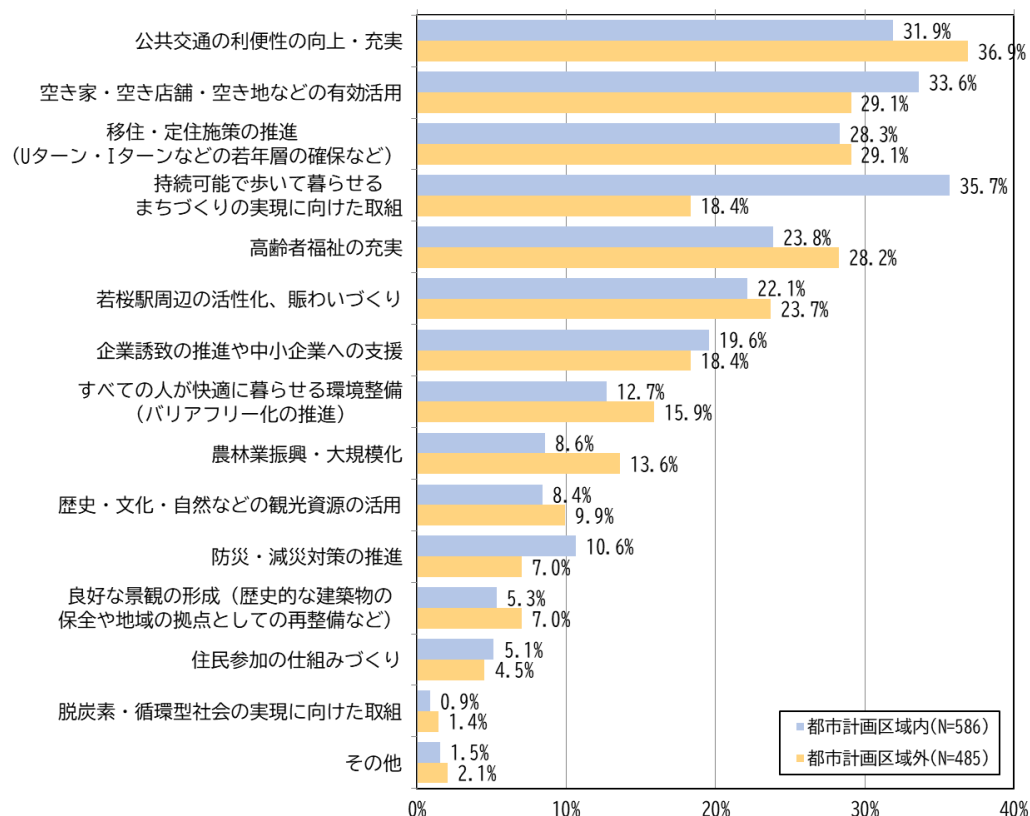
年齢別今後のまちづくり（回答割合）※複数回答



【クロス集計（今後のまちづくり×区域別）】

- ・区域別にみると、都市計画区域内では、「持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組」が35.7%と最も多く、次いで「空き家・空き店舗・空き地などの有効活用」が33.6%と特に重視されています。
- ・都市計画区域外では、全体と同様の傾向を示しており、「公共交通の利便性の向上・充実」が重視されています。

区域別今後のまちづくり（回答割合）※複数回答

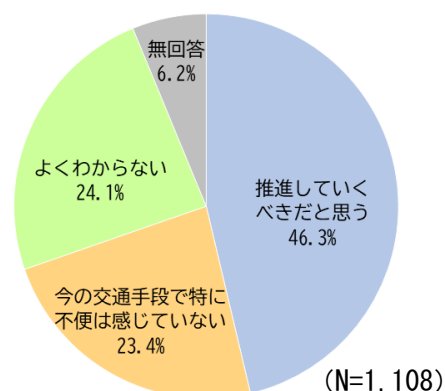


(5) 先端技術を活用した新たな交通手段の導入

問 15 誰もが快適に移動しやすい環境をつくるために、デジタル技術等の先端技術を活用した新たな交通手段の導入について、どのように思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- ・デジタル技術を活用した新たな交通手段の推進について、「推進していくべきだと思う」が46.3%と最も多くなります。
- ・「今の交通手段で特に不便は感じていない」が23.4%、「よくわからない」が24.1%となります。

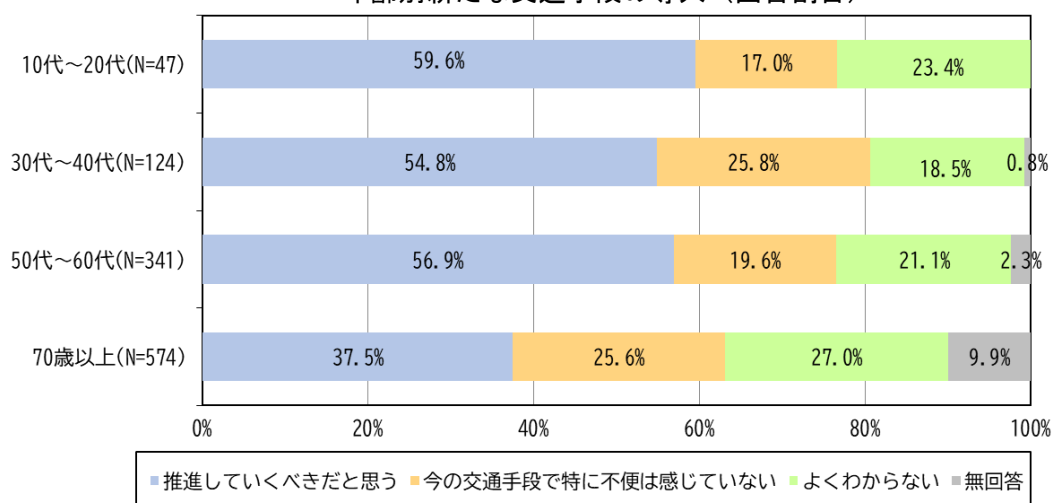
新たな交通手段の導入（回答割合）



【クロス集計（新たな交通手段の導入×年齢別）】

- ・年齢別にみると、70歳以上では「推進していくべきだと思う」が4割以下となり、「よくわからない」が他の世代と比べて多くなります。

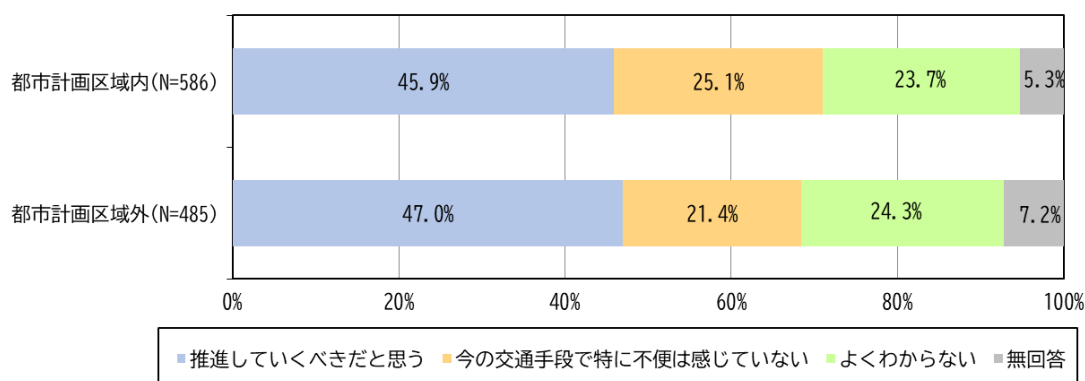
年齢別新たな交通手段の導入（回答割合）



【クロス集計（新たな交通手段の導入×区域別）】

- ・区域別では、同様の傾向を示しています。

区域別新たな交通手段の導入（回答割合）

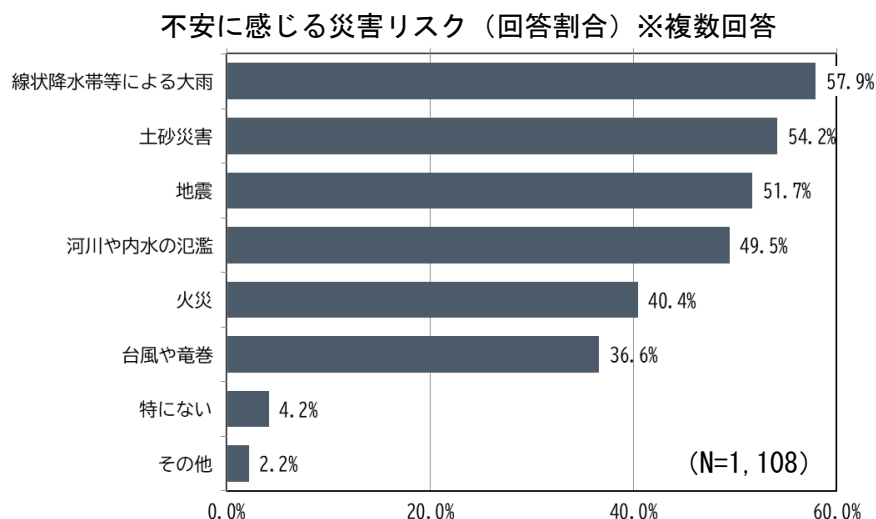


2-4. 防災・減災のまちづくり

(1) 住まいの周辺で不安を感じている災害

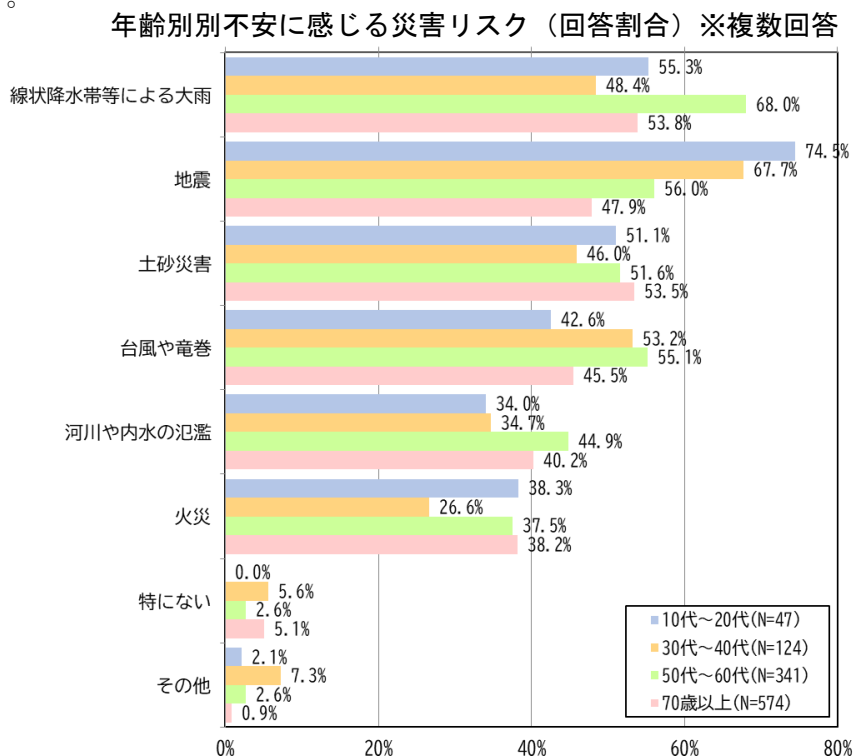
問 16 あなたがお住まいの周辺で、不安を感じている災害を教えてください。あてはまるものを全て選び、番号に○を付けてください。

- 不安を感じる災害では、「線状降水帯等による大雨」が 57.9%と最も多く、次いで「土砂災害」が 54.2%、「地震」が 51.7%と続きます。



【クロス集計（災害リスク×年齢別）】

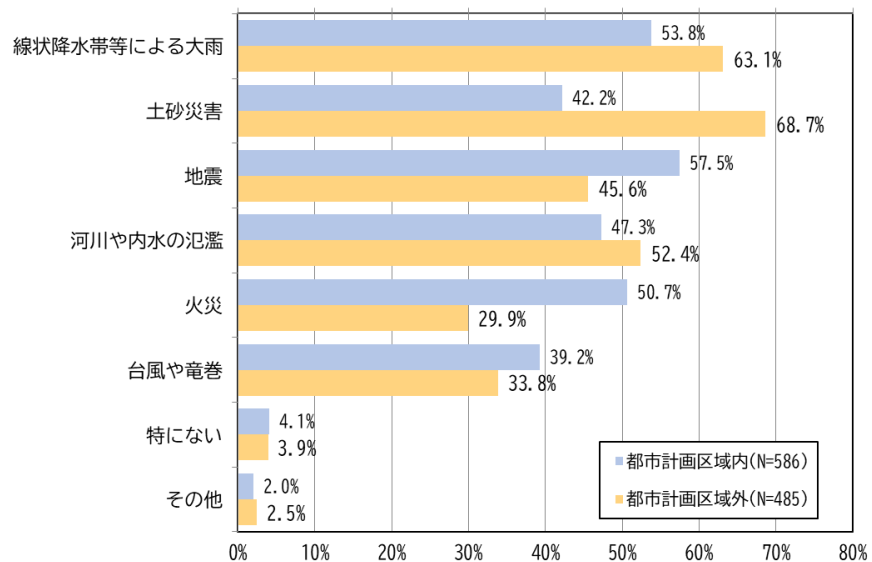
- 年齢別にみると、10代～20代では、「地震」が7割を超えています。
- 30～40代および50代～60代では、全体と同様に「線状降水帯等による大雨」と「地震」が上位に挙げられる一方、「土砂災害」よりも「台風や竜巻」を不安を感じていると回答しています。



【クロス集計（災害リスク×区域別）】

- ・区域別にみると、都市計画区域内では、「地震」「線状降水帯等による大雨」「火災」の順で不安を感じていると回答しています。
- ・都市計画区域外では、「土砂災害」「線状降水帯等による大雨」「河川や内水の氾濫」の順で不安を感じていると回答しています。

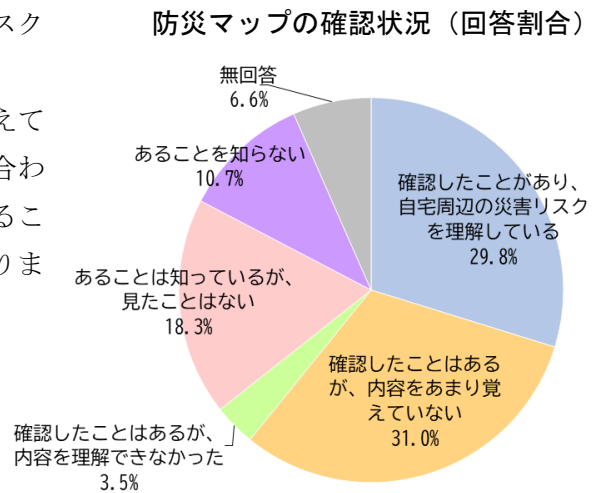
区域別不安に感じる災害リスク（回答割合）※複数回答



(2) 防災マップ確認状況

問 17 若桜町では、洪水や土砂災害、地震等の防災マップを公開していますが、内容を確認したことはありますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

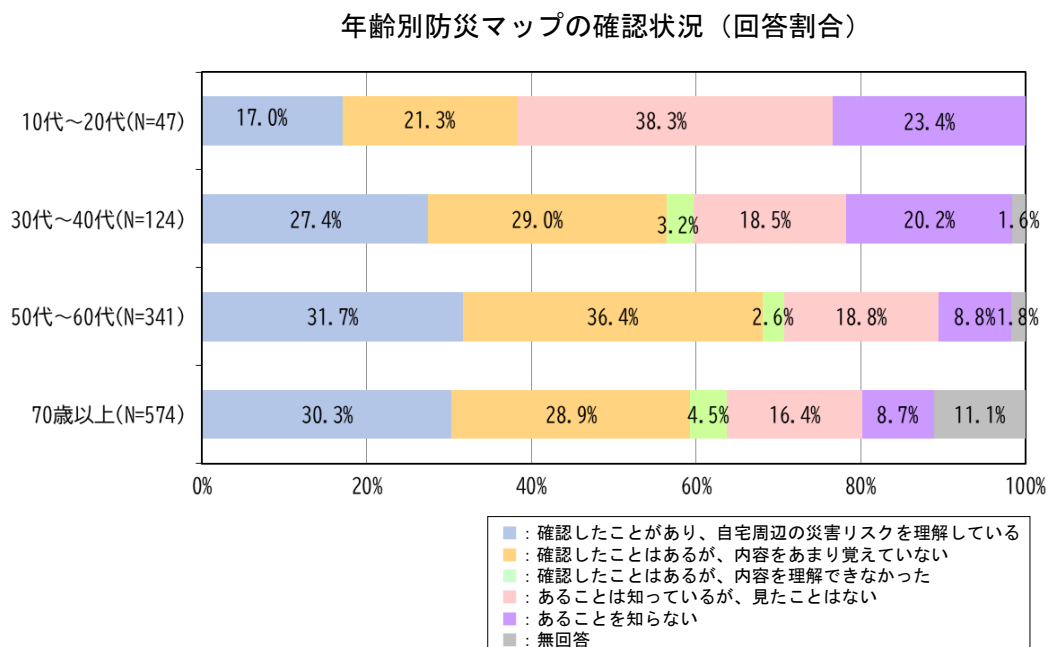
- ・「確認したことがあり、自宅周辺の災害リスクを理解している」が29.8%となります。
- ・「確認したことはあるが、内容をあまり覚えていない」と「内容を理解できなかった」を合わせると34.5%、「見たことはない」と「あることを知らない」をあわせると29.0%となります。



(N=1,108)

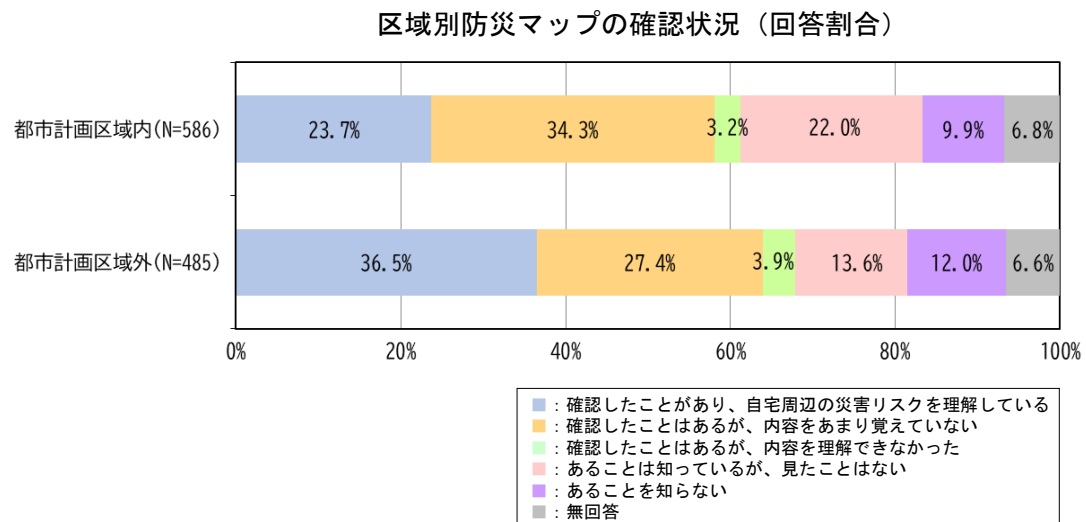
【クロス集計（防災マップの確認状況×年齢別）】

- ・年齢別にみると、40代以下では、「あることを知らない」が2割を超えます。
- ・10代～20代では、「見たことはない」と「あることを知らない」を合わせると6割を超えます。
- ・50代～60代では、「内容をあまり覚えていない」と「理解できなかった」を合わせると4割となります。



【クロス集計（防災マップの確認状況×区域）】

- ・区域別にみると、都市計画区域内では、「内容を覚えていない」が34.3%で最も多く、都市計画区域外では、「災害リスクを理解している」が36.5%と最も多くなります。

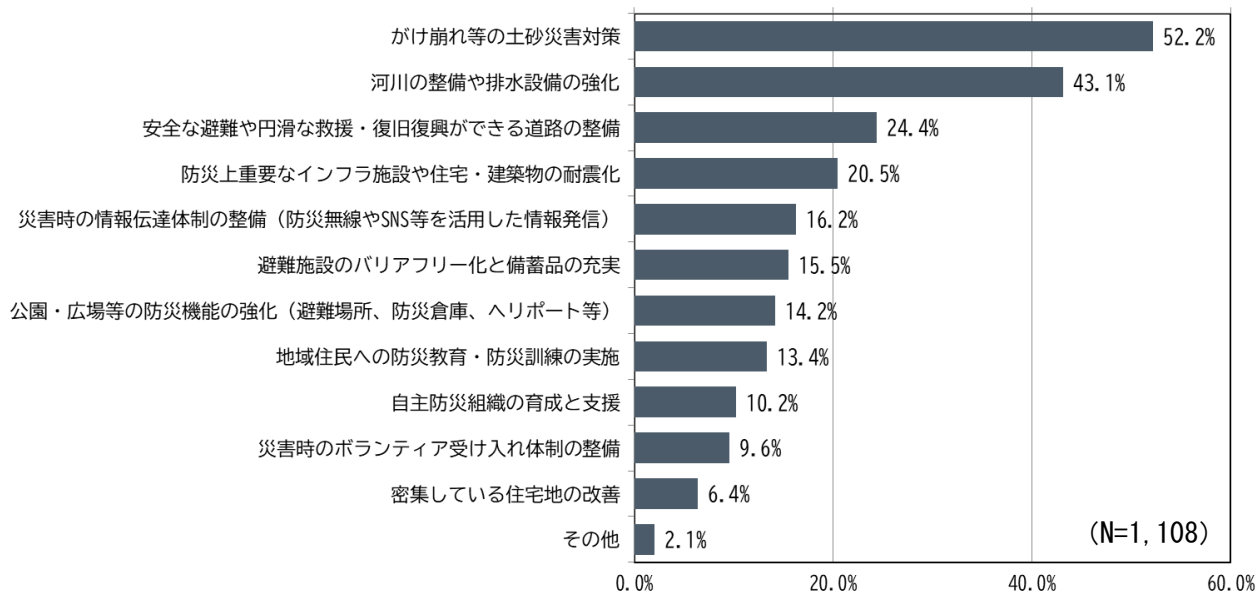


(3) 災害に強いまちづくり

問 18 災害に強いまちづくりを考えた場合、今後どのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを最大3つまで選び、番号に○を付けてください。

- ・「がけ崩れ等の土砂災害対策」が 52.2%と最も多く、次いで「河川の整備や排水設備の強化」が 43.1%、「安全な避難や円滑な救援・復旧復興ができる道路の整備」が 24.4%と続きます。

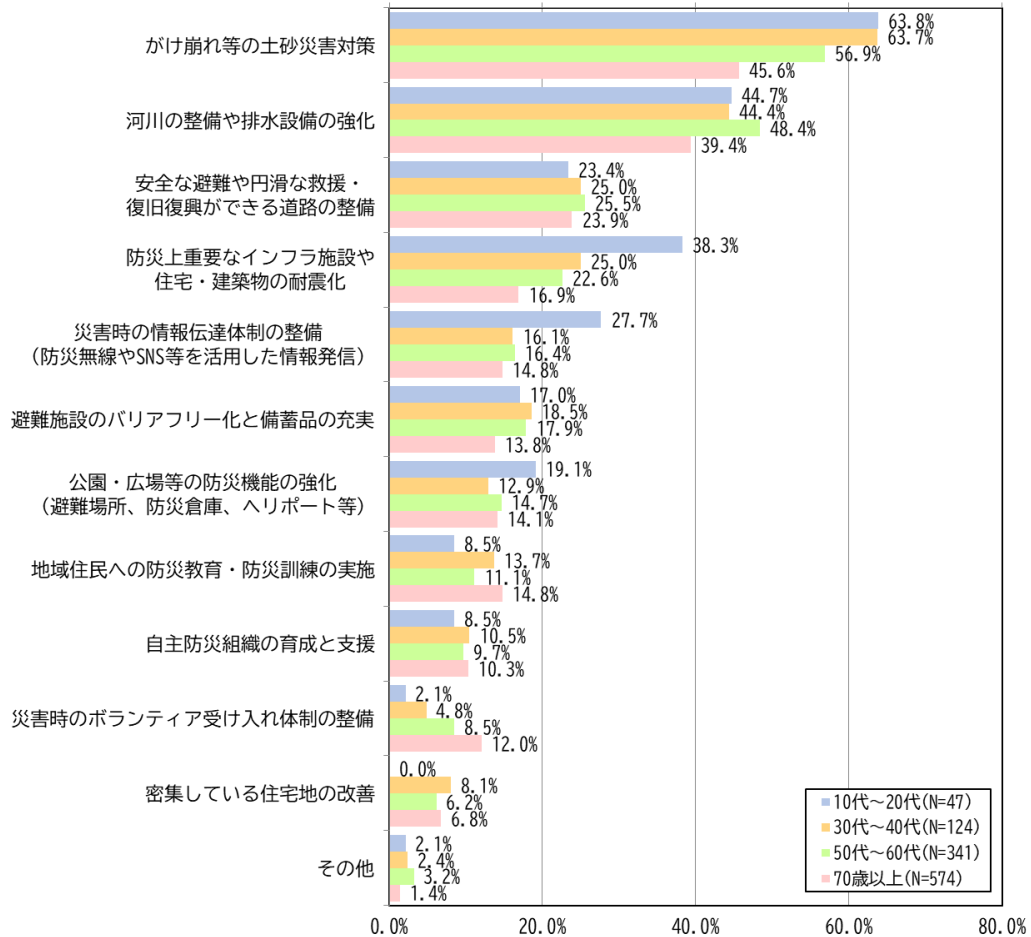
災害に強いまちづくり（回答割合）※複数回答



【クロス集計（防災・減災のまちづくり×年齢別）】

- ・年齢別にみると、10代～20代では、「防災上重要なインフラ施設や住宅・建築物の耐震化」「災害時の情報伝達体制の整備」「公園・広場等の防災機能の強化」が重視されています。
- ・60代以下では、「がけ崩れ等の土砂災害対策」が5割以上となります。

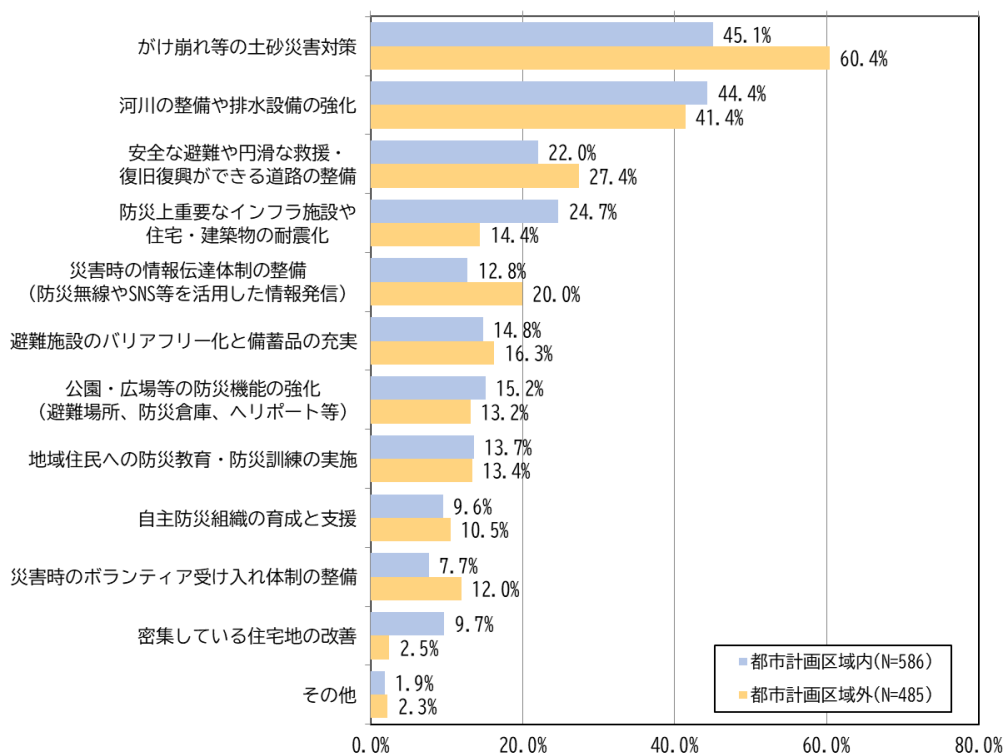
年齢別災害に強いまちづくり（回答割合）※複数回答



【クロス集計（防災・減災のまちづくり×区域別）】

- ・区域別にみると、都市計画区域内では、「防災上重要なインフラ施設や住宅・建築物の耐震化」「密集している住宅地の改善」等の地震や火災への対応策が区域外と比較して重視されています。
- ・都市計画区域外では、「がけ崩れ等の土砂災害対策」が6割を占め、また「災害時の情報伝達体制の整備」等のソフト施策が重視される傾向にあります。

区域別災害に強いまちづくり（回答割合）※複数回答



2-5. 若桜町の個性や魅力を活かしたまちづくり

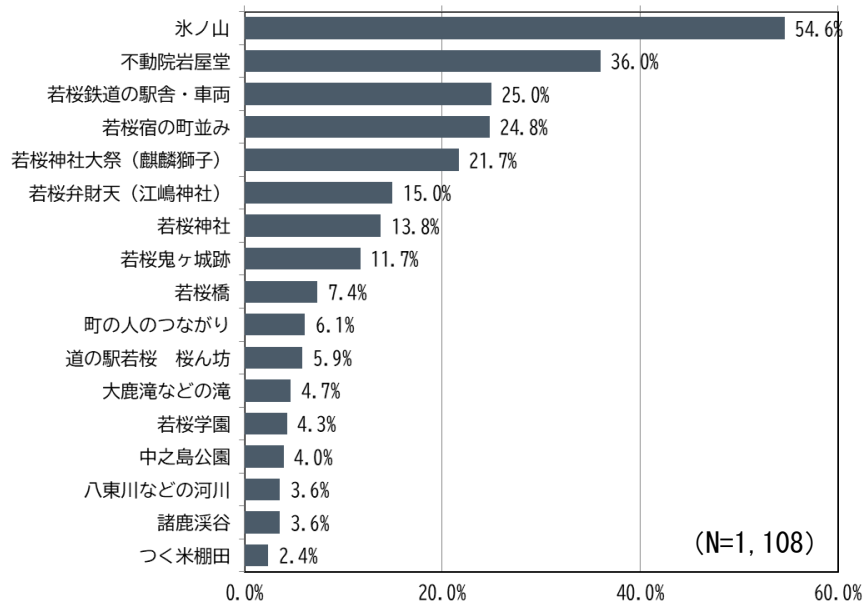
(1) 若桜町の自慢できるもの、誇りに思うもの

問19 あなたが思う若桜町の自慢できるもの、誇りに思うものについて教えてください。

(1) あてはまるものがあれば最大3つまで選び、番号に○を付けてください。

- ・自慢できるもの、誇りに思うものについて、「氷ノ山」が54.6%と最も多く、次いで「不動院岩屋堂」が36.0%、「若桜鉄道の駅舎・車両」が続きます。
- ・年齢別、区域別での回答傾向を表で整理しています。10代～20代では、「若桜学園」「中之島公園」の割合が他の年代と比べて高く、また若年層ほど「町の人つながり」を誇りと感じる割合が高くなる結果となりました。

若桜町の魅力（回答割合）※複数回答



区域別、年齢別若桜町の魅力（回答割合）※複数回答

項目	全体	都市計画区域		年齢区分			
		区域内	区域外	10代～20代	30代～40代	50代～60代	70歳以上
氷ノ山	54.6%	52.9%	56.9%	66.0%	62.1%	54.3%	52.4%
不動院岩屋堂	36.0%	29.7%	44.5%	19.1%	25.8%	41.6%	36.2%
若桜鉄道の駅舎・車両	25.0%	23.4%	27.4%	23.4%	29.8%	32.6%	19.9%
若桜宿の町並み	24.8%	28.5%	21.2%	21.3%	23.4%	27.3%	23.9%
若桜神社大祭（麒麟獅子）	21.7%	30.9%	11.3%	21.3%	20.2%	27.9%	18.8%
若桜弁財天（江嶋神社）	15.0%	16.2%	13.2%	23.4%	16.9%	19.1%	11.3%
若桜神社	13.8%	19.5%	7.0%	12.8%	16.9%	13.8%	13.1%
若桜鬼ヶ城跡	11.7%	11.3%	12.8%	6.4%	9.7%	9.4%	14.3%
若桜橋	7.4%	6.8%	8.2%	2.1%	3.2%	3.8%	10.8%
町の人つながり	6.1%	4.9%	7.4%	10.6%	8.1%	7.0%	4.7%
道の駅若桜 桜ん坊	5.9%	4.8%	6.6%	4.3%	8.1%	5.9%	5.4%
大鹿滝などの滝	4.7%	4.6%	4.9%	6.4%	3.2%	4.7%	5.1%
若桜学園	4.3%	3.4%	5.4%	14.9%	8.1%	4.1%	2.8%
中之島公園	4.0%	4.4%	3.5%	12.8%	3.2%	2.6%	4.4%
八東川などの河川	3.6%	4.1%	3.3%	2.1%	5.6%	4.7%	2.8%
諸鹿溪谷	3.6%	4.3%	2.7%	4.3%	0.8%	2.3%	5.1%
つく米棚田	2.4%	1.4%	3.9%	2.1%	1.6%	2.3%	2.8%

問 19 あなたが思う若桜町の自慢できるもの、誇りに思うものについて教えてください。

(2) (1) 以外にあなたが若桜町の良いなと思うところ、若桜町で自慢できるもの、誇りに思うものがあれば教えてください。

- ・(1) の選択肢以外で、若桜町で自慢できるもの、誇りに思うものを尋ねたところ、115 名から、意見を頂きました。
- ・意見の内容から「自然・景観」、「歴史・文化」「生活利便・公共サービス」「スポーツ・レジャー」「食・特産品」「観光・回遊・情報発信」「観光・情報発信」「イベント・交流」に「産業・資源」に分類し、以下に整理しています。なお、下線部は、それぞれの分類に対して得られた現状の問題点や対応策等を記載しています。

(自然・景観)

■清流・水路・水の美しさ (29 件)

- ・緑と清流の町
- ・宿内の川・水路が美しい／きれいであってほしい (雑草、川底など)
- ・水がおいしい、きれいな水で育てた米
- ・水路にゴミを流す人がいて残念

■山・緑・森林/里山の景色 (22 件)

- ・東山、鳴滝山／氷ノ山 など
- ・山々に囲まれた景観、森林の豊かさ
- ・山・杉などの自然

■四季の風景 (紅葉・桜・田畑) (21 件)

- ・四季折々の景色 (山、田んぼ、畑、植木)
- ・戸倉峠～国道 29 号沿いの紅葉が感動
- ・桜 (桜並木、桜の町にしたい)
- ・田んぼの石垣が美しかったが耕作されず草ぼうぼう

■星空・ホテル・夜の魅力/静けさ (11 件)

- ・星空がきれい／夜空が澄んでいる
- ・ホテル、夜涼しい、静かなところ
- ・夕暮れ、夜のカリヤ通りの風景

■雪・冬景色/豪雪の美しさ (6 件)

- ・雪は大変だが美しい／雪質が良い
- ・樹氷など冬の魅力

■滝・溪谷など自然スポット (7 件)

- ・根安滝／諸鹿溪谷／権見滝
- ・谷・滝を活かすと良い

■(その他) (8 件)

- ・豊かな自然／自然全体／自然が多い

(歴史・文化)

- 神社仏閣・信仰（神社/寺/地蔵講）（9 件）
 - ・つく米神社
 - ・お寺、地蔵講
 - ・若桜神社大祭 など
- 郷土文化施設（たくみの館/資料館/三百田家）（6 件）
 - ・若桜郷土文化の里（たくみの館、三百田家、歴史民俗資料館）
 - ・活用策を検討してほしい
- 若桜宿・カリヤ通り等の町並み/レトロ（6 件）
 - ・若桜宿の町並みが美しい
 - ・カリヤ通りの風景（夕暮れ・夜景含む）
 - ・昭和感・レトロで落ち着いた雰囲気
- 鉄道遺産（機関車/転車台/駅関連）（3 件）
 - ・若桜駅の機関車、転車台
 - ・鉄道があること自体が魅力
- 史跡・伝説・記念物（鬼ヶ城/忠魂碑/宝篋印塔等）（6 件）
 - ・鬼ヶ城
 - ・忠魂碑
 - ・落折の伝説、宝篋印塔・岩窟
- （その他）（4 件）
 - ・若桜橋（吉川橋）／皇居豊明殿の天井板（文化財・物語性）

(生活利便・公共サービス)

- 福祉・高齢者支援/暮らしやすさ（6 件）
 - ・福祉が充実して暮らしやすい
 - ・高齢者に優しい
- 公共交通（デマンド/鉄道）（5 件）
 - ・デマンド交通が早くから整備されていて素晴らしい
 - ・鉄道がある（来訪者の移動手段としても価値）
- 医療・金融など生活基盤（2 件）
 - ・金融機関が複数ある
 - ・医療施設がある（人口規模の割に充実）
- 子育て・教育（学園/こども園/補助）（3 件）
 - ・若桜学園の教育環境（給食費・教材費補助、高校生通学費補助等）
 - ・こども園
- 除雪・道路管理/インフラ（4 件）
 - ・除雪が丁寧、住民も協力して実施
 - ・豪雪地域ゆえの“除雪文化”
- 水路の利便とリスク（2 件）
 - ・水路があること自体は魅力だが、住宅下への流入など危険性も気になる

■公共施設（図書館/温水プール等）（3 件）

- ・図書館（情報館）が使いやすい
- ・町営温水プール（駐車場確保など課題も）

（スポーツ・レジャー）

■登山・スキー（氷ノ山/扇ノ山）（7 件）

- ・氷ノ山／扇ノ山（登山・景観）
- ・スキー場を冬だけでなく通年で楽しめる場所にしてほしい

■温泉・風呂（2 件）

- ・湯原温泉／湯原に風呂がある

■公園・散策・ウォーキング（4 件）

- ・中之島公園のウォーキング、桜並木の活用

■キャンプ（2 件）

- ・キャンプ場

（食・特産品）

■水と米（おいしい水・米・低農薬）（6 件）

- ・水がおいしい（井戸水・水道水）
- ・きれいな水で育てた米
- ・冷涼で害虫が少なく農薬を抑えられる

■山川の恵み（川魚/食材）（3 件）

- ・川魚がうまい／鯉料理
- ・山や川の食材

■ジビエ・肉・郷土料理（4 件）

- ・ジビエ、豚肉、鍋料理、とりホルモン

■加工品・菓子/飲料（8 件）

- ・まんじゅう、羊かん、ナタマメ茶
- ・ウインナー
- ・焼きそば、とんかつ、焼きさばずし、夏いちご

（人・コミュニティ）

■人柄・人情・やさしさ（6 件）

- ・若桜の人の人柄／人情が厚い
- ・心が暖かい、やさしさ

■つながり・助け合い（除雪協力など）（2 件）

- ・声をかけあう関係
- ・生活の中の協力（除雪など）
- ・景観を取り戻すボランティアがあれば協力したい

■孤立への懸念（2 件）

- ・つながりがある一方で孤立している方もおり支援が難しい

(観光・情報発信)

■案内・サイン・わかりやすさ (3 件)

- ・観光案内の看板が小さい
- ・県外・町外の人に分かりやすい表示が欲しい (神社・橋・岩屋堂等)

■回遊・散策ルート/滞在 (4 件)

- ・若桜橋など良いものがあるのに歩いている町外の人を見ない→散策ルートを作りたい
- ・小規模でも歩いて昼を挟んで滞在できる町、という強み

■PR・発信 (絶景紹介/アピール) (3 件)

- ・岩屋堂をもっとアピール
- ・絶景スポットをもっと紹介してほしい
- ・中之島公園の桜を PR してほしい

■施設公開・展示活用 (2 件)

- ・駅前の古民家が公開されたら良い
- ・公民館文化祭の展示を通年で見せる仕組み (駅近スペース活用など)

■景観整備で迎える (草刈り等) (2 件)

- ・観光客に「来てよかった」と思える美しい整備 (特に草刈り)

(イベント・交流)

■祭り・地域イベント (春色/鬼っこ等) (3 件)

- ・春色まつり、鬼っこまつり、イベントがあるところ

■文化祭・展示 (2 件)

- ・若桜公民館文化祭 (展示の見せ方・期間の延長案)

■スポーツ大会 (1 件)

- ・球技大会等スポーツ行事

■花火 (1 件)

- ・7 月の花火

(産業・資源)

■林業・木材/製材 (3 件)

- ・森林が多い

■硯石など伝統産業の復活 (2 件)

- ・諸鹿の硯石の復活を望む

■農業 (低農薬・耕作) (2 件)

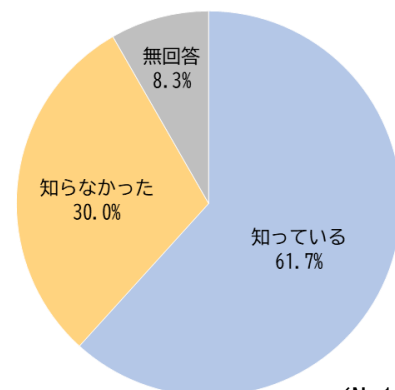
- ・冷涼で害虫が少なく農薬を抑えられる
- ・耕作の継続・景観維持

(2) 重要伝統的建築物群保存地区の認知度

問 20 若桜地区の歴史的な建造物や町並みが国の重要伝統的建築物群保存地区に選定（令和3年8月）されたことを知っていますか。

- ・若桜地区が『重要伝統的建築物群保存地区』に選定されていることについて、「知っている」が 61.7%、「知らなかった」が 30.0%となります。

伝建地区の認知度（回答割合）

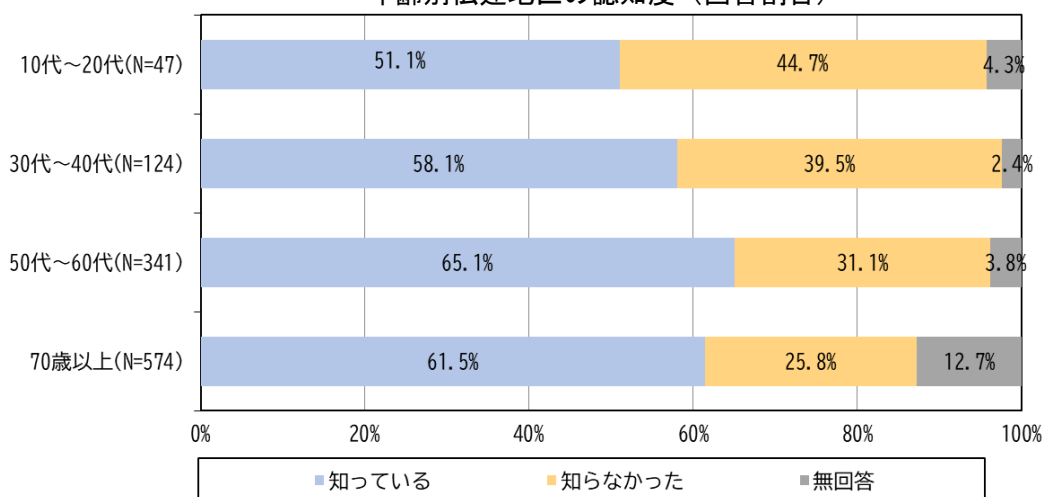


(N=1,108)

【クロス集計（伝建地区の認知度×年齢別）】

- ・年齢別にみると、若くなるにつれて、「知らなかった」が多くなり、特に10代～20代では、「知らなかった」が4割を占めます。

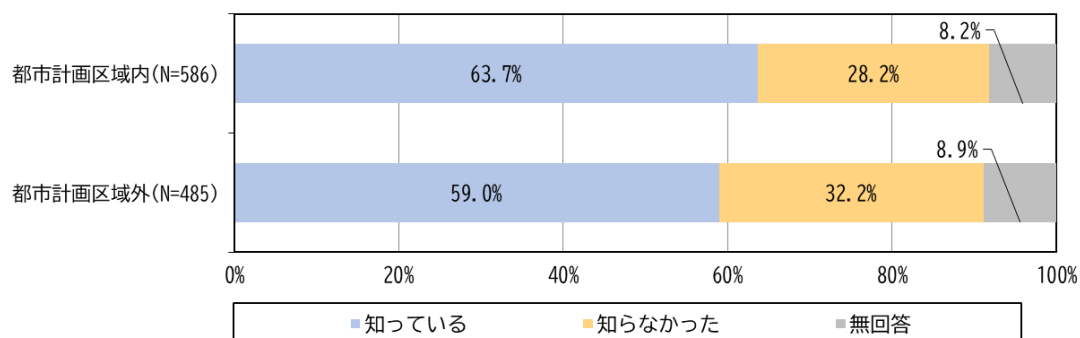
年齢別伝建地区の認知度（回答割合）



【クロス集計（伝建地区の認知度×区域別）】

- ・区域別にみると、都市計画区域内では「知っている」が 63.7%、都市計画区域外では「知っている」59.0%となり、伝建地区の認知度は都市計画区域内の方が高くなります。

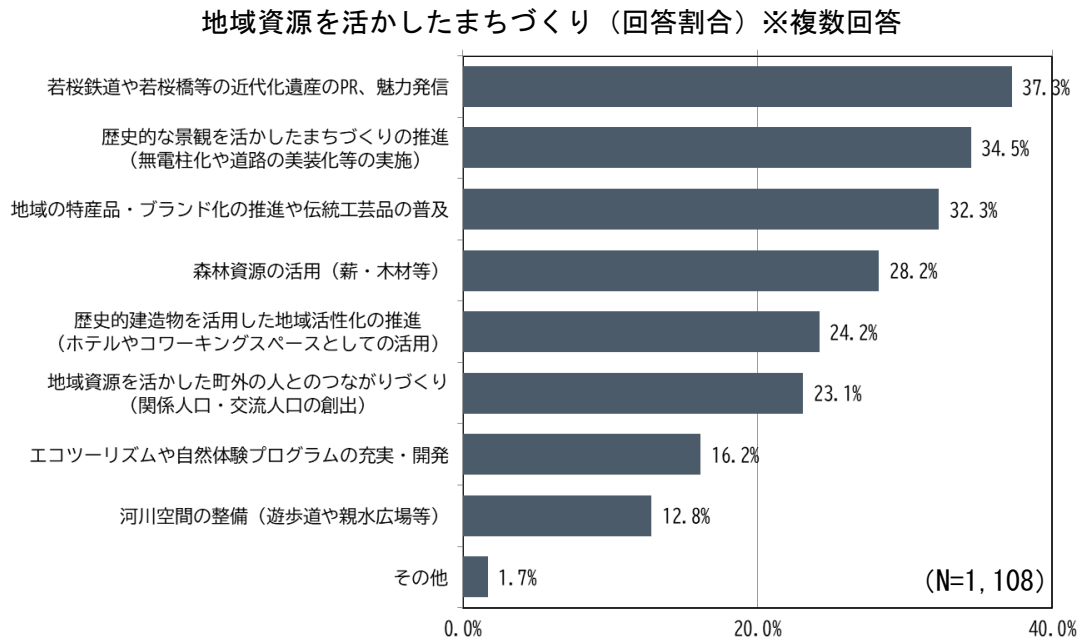
区域別伝建地区の認知度（回答割合）



（３）若桜町の地域資源をまちづくりへ活かすための取組

問 21 若桜町の地域資源をまちづくりへ活かすために必要だと思う取組は何ですか。あてはまるものを最大３つまで選び、記号に○を付けてください。

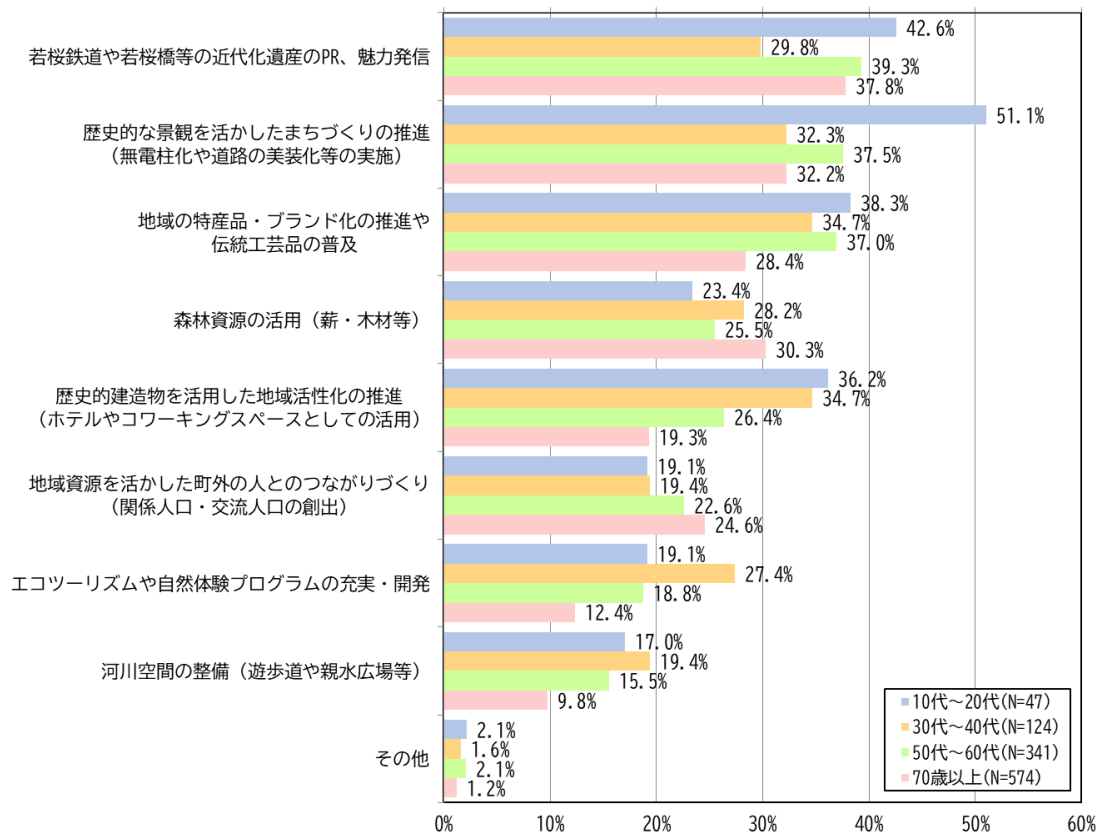
- ・「若桜鉄道や若桜橋等の近代化遺産の PR、魅力発信」が 37.3%と最も多く、次いで「歴史的な景観を活かしたまちづくりの推進（無電柱化や道路の美装化等の実施）」が 34.5%、「地域の特産品・ブランド化の推進や伝統工芸品の普及」が 32.3%と続きます。



【クロス集計（地域資源を活かしたまちづくり×年齢別）】

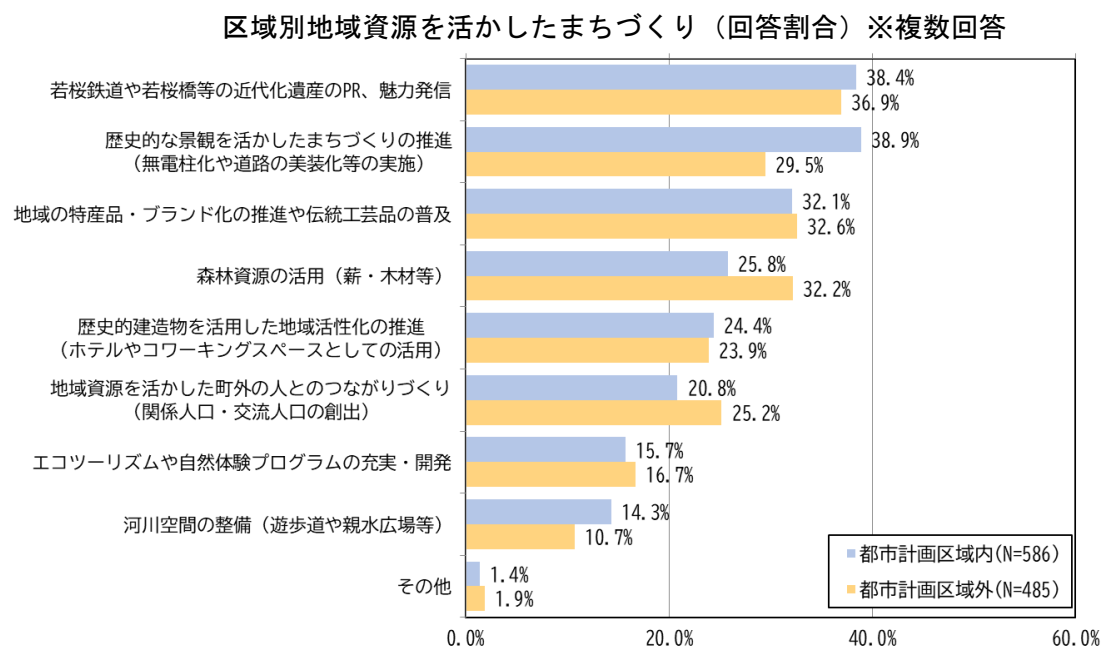
- ・年齢別にみると、10代～20代では、「歴史的な景観を活かしたまちづくりの推進」が5割以上を占めます。
- ・30代～40代では、「エコツーリズムや自然体験プログラムの充実・開発」が3割を占め、他の年代と比較して重視されています。
- ・70歳以上では、「森林資源の活用（薪・木材等）」が3割を超えています。
- ・「歴史的建造物を活用した地域活性化の推進」は年代が若くなるにつれて、重視される傾向にあります。

年齢別地域資源を活かしたまちづくり（回答割合）※複数回答



【クロス集計（伝建地区の認知度×区域別）】

- ・区域別にみると、都市計画区域内では「歴史的な景観を活かしたまちづくりの推進（無電柱化や道路の美装化等の実施）」が38.9%と最も支持されています。
- ・都市計画区域外では、「近代化遺産のPR、魅力発信」や「地域の特産品・ブランド化の推進や伝統工芸品の普及」に加えて、「森林資源の活用（薪・木材等）」が支持されています。



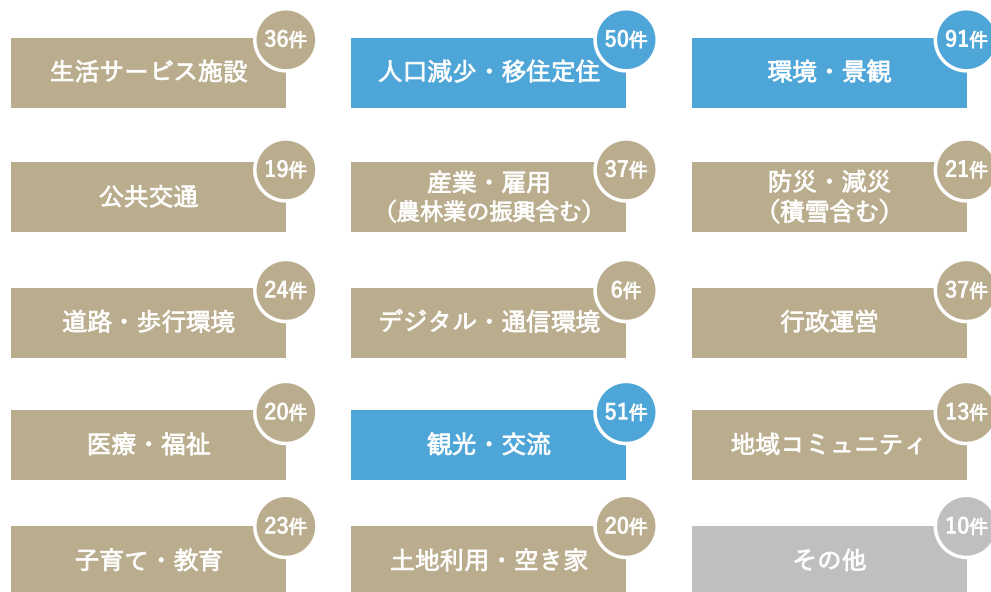
2-6. 自由意見

(1) 若桜町の将来のまちづくりに対する自由意見

問 22 その他、若桜町の将来のまちづくりについて、ご意見があればご記入ください。

- ・若桜町の将来のまちづくりについて、自由記述方式で意見を尋ねたところ、207 件の回答がありました。
- ・自由意見の内容に基づき、以下の分類で整理したところ、「環境・景観」に関する意見が 97 件と最も多く、「観光・交流」が 51 件、「人口減少・移住定住」が 50 件と続きます。

自由意見（再分類）



分類別主な意見

分類	主な意見
環境・景観	豊かな自然を守る、こだわりを持った景観づくり、桜の木の維持、川沿いの活用
観光交流・PR	都会に無い魅力の発信、観光ガイドの育成、観光客のニーズ把握
人口減少・移住定住	人口減少・人口流出が不安、若者に好まれる町へ、UI ターンの施策
産業・雇用	林業・材木の町、今の産業（商工業）を守る、働く場所の不足、企業誘致
行政運営	行政のアウトソーシング、高齢者の地域参画、イベント・ボランティアの機会
生活利便施設	コンビニ（支払いも含む）、人が集まれる場所、町外の人を呼び込む施設
道路・歩行環境	本通り等の路上駐車対策、歩道の整備、街灯の整備、道の駅と若桜駅を繋ぐ橋
子育て・教育	小児科が必要、子育て世帯への支援、子どもが住みやすい環境づくり
安全・安心	避難所の整備、防災拠点としてコンビニが必要、雪かきの負担、鳥獣被害対策
医療・福祉	眼科、耳鼻科等がない、高齢者福祉施設を増やす、障がい者も安心な町へ
空き家・土地利用	駅周辺の空き家や空き地が目立つ、空き家を活用した宿泊体験
公共交通	グリスロ等の導入、高齢者の移動手段の確保、デマンド便の有効活用
地域コミュニティ	集落の役回りの負担、高齢化や過疎化による人間関係の希薄化
デジタル・通信環境	ネット環境が悪い、タブレットの無料配布、デジタル技術を活用した魅力発信
その他	アンケート調査に対する意見等

年齢別整理※参考

分類	10代 (N=1)	20代 (N=7)	30代 (N=16)	40代 (N=15)	50代 (N=24)	60代 (N=37)	70歳以上 (N=101)	無回答 (N=6)	総計 (N=207)
環境・景観	0	3	7	8	7	17	46	3	91
観光交流・PR	0	3	4	6	6	11	21	0	51
人口減少・移住定住	0	2	5	1	6	9	26	1	50
産業・雇用	0	0	4	0	5	7	21	0	37
行政運営	0	0	1	4	3	10	17	2	37
生活利便施設	1	2	5	5	8	7	8	0	36
道路・歩行環境	0	0	2	4	1	6	10	1	24
子育て・教育	0	1	2	1	1	6	10	2	23
安全・安心	0	0	1	3	3	6	8	0	21
医療・福祉	0	0	3	2	0	3	11	1	20
空き家・土地利用	0	0	0	0	0	6	13	1	20
公共交通	0	0	1	3	2	0	13	0	19
地域コミュニティ	0	0	1	4	3	1	4	0	13
デジタル・通信環境	0	2	0	0	1	2	1	0	6
その他	0	0	0	1	2	0	7	0	10

区域別整理※参考

分類	都市計画区域内 (N=120)	都市計画区域外 (N=76)	その他※無回答・不明 (N=11)	総計 (N=207)
環境・景観	57	29	5	91
観光交流・PR	37	13	1	51
人口減少・移住定住	30	18	2	50
産業・雇用	23	13	1	37
行政運営	16	19	2	37
生活利便施設	25	6	5	36
道路・歩行環境	16	8	0	24
子育て・教育	8	14	1	23
安全・安心	13	5	3	21
医療・福祉	11	7	2	20
空き家・土地利用	9	10	1	20
公共交通	9	8	2	19
地域コミュニティ	7	4	2	13
デジタル・通信環境	3	2	1	6
その他	8	2	0	10

3. まとめ

(1) 回答者の属性

- ・回答者の属性は以下の通りです。

【性別】 男性：43.3%、女性：51.1%、回答しない：4.6%

【年齢】 10代～20代：4.2%、30代～40代：11.2%、50代～60代：30.8%、
70歳以上：51.8%

【家族構成※上位3つ】 親と子（2世代）：34.9%、夫婦のみ等：29.1%、
ひとり暮らし：16.1%、

【中学生以下の有無】 中学生以下がいる：8.5%

【居住地】 都市計画区域内：52.9%、都市計画区域外：43.8%

【居住年数※上位3つ】 30年以上：75.1%、20年以上30年未満：10.9%、
10年以上20年未満：6.0%

※10年以上居住している人が全体の9割以上

【居住経緯※上位3つ】 若桜町で生まれ育った：55.3%、結婚・出産・子育てのため：29.6%、
親や子との同居・近居のため：6.1%

(2) 地域の現状

【暮らしやすさの満足度】

- ・全体の5割以上が地域の暮らしやすさについて総合的に満足していると回答している一方で、10代～20代では全体と比較して満足度は低くなっています。
- ・利便性、安心・安全、快適性の観点から暮らしやすさに対する満足度をみると、快適性に関する項目は総じて満足度が高く、「自然環境やまちなかの緑の豊かさ」「まちなみや風景の美しさ」「騒音、振動、悪臭等公害の少なさ」の満足度は特に高くなっています。
- ・利便性に関する項目は、「通勤・通学の便利さ」(-0.25pt)、「病院や診療所への通いやすさ」(-0.01pt)、「公共交通の便利さ」(-0.30pt)で評価が低く、移動のしやすさや交通アクセスの改善が課題となっています。
- ・安全・安心に関する項目は、満足（満足＋やや満足）が不満（やや不満＋不満）をわずかに上回っています。一方で、「誰もが安心して通れる歩道の整備」では、都市計画区域内の居住者で満足度が下位3位となり、30代～50代でもマイナスの評価となっていることから、安全・安心な歩道や歩行空間が求められています。

【身近な施設の利用状況】

- ・町内の施設を利用する割合は、食料品や日用品を購入する店舗が48.3%、病院・診療所が61.6%、高齢者福祉施設や介護施設が90.1%となります。特に都市計画区域外の居住者は都市計画区域内の居住者と比較して、町内の施設を利用する傾向にあります。
- ・店舗や病院・診療所の利用では、自家用車（自分が運転・家族等が運転）が主となり、高齢者福祉施設や介護施設の利用には、施設による送迎が主となります。
- ・都市計画区域内の居住者は、店舗や病院・診療所への移動手段として、徒歩の回答が1割～2割となります。

【土地利用の問題】

- ・土地利用の問題では、「空き家や空き地が増えている（59.5%）」、「農業の担い手の減少により荒廃農地が増えている（50.7%）」、「手入れが行われていない森林・里山が増えている（34.3%）」が上位を占めており、空き家や空き地の増加や農地、森林・里山等の管理水準の低下が問題として挙げられています。
- ・都市計画区域内では、上位の項目に加えて、「店舗やサービス施設の不足」「働く場所の不足」についても土地利用の問題として挙げられています。
- ・都市計画区域外では、「農業の担い手の減少により荒廃農地が増えている」が6割を占めています。

【住み替え意向・理由】

- ・「住み替えを考えていない」が72.9%「住み替えを考えている」が23.3%となります。
- ・「住み替えを考えている」の内、主な住み替え先としては、鳥取市や八頭町（郡家地区）等の「若桜町外」が7割を占めています。
- ・住み替えの理由は、30代以上では、「老後の生活が不安」が5割を占める一方で、10代～20代では、「生活環境（ライフステージ）の変化」が8割を占めています。いずれの世代でも2番目の理由として、「買い物や通院等の日常生活が不安」が挙げられています。
- ・70歳以上や都市計画区域外では、「自然災害の危険性が高く、防災の面で不安」が比較的多くなっています。

（3）今後のまちづくり

【人口減少や少子高齢化等による日常生活への影響】

- ・人口減少や少子高齢化等により予想される日常生活への影響では、「買い物をする場所がなくなる（57.8%）」「鉄道やバスの運行本数や路線数が少なくなる（47.1%）」「空き家や空き地の増加（39.7%）」が上位を占めています。
- ・10代～20代では、「買い物をする場所がなくなる」が突出しており、30代～40代では、「学校や公民館・体育施設等の公共施設が統廃合され、利用しづらくなる」が他の年代と比べて高くなっています。
- ・都市計画区域内では、「買い物をする場所がなくなる」「鉄道やバス路線が少なくなる」等の生活利便性の低下に対する危機感が強いことが分かります。
- ・都市計画区域外では、「空き家や空き地の増加」「耕作放棄地の増加」等の地域環境の劣化に対する危機感が強いことが分かります。

【日常生活を送るうえで必要だと思う都市機能】

- ・日常生活を送るうえで必要だと思う機能では、30代以上の世代や区域内/外ともに「医療機能」「商業機能」「介護・福祉支援機能」が上位となっています。10代～20代では、「商業機能」「医療機能」「子育て支援機能」が上位となっています。
- ・都市計画区域外では、「防災機能」が区域内と比較してやや多くなっています。

【拠点となる場所に必要だと思う生活サービス施設】

- ・拠点となる場所に必要な生活サービス施設では、「日常生活に必要な店舗」「病院や診療所」「レストランやカフェ等の飲食店」「銀行や郵便局等の金融機関」が上位を占めています。
- ・10代～20代では「公園・広場等のオープンスペース」、30代～40代では「駐車場や駐輪場」が若桜駅周辺に必要な生活サービス施設の上位として挙げられています。

【今後のまちづくりの取組】

- ・今後のまちづくりに必要な取組として、「公共交通の利便性の向上・充実（34.1%）」「空き家・空き店舗・空き地などの有効活用（31.4%）」「移住定住施策の推進（28.2%）」「持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組」（28.1%）が上位を占めています。
- ・都市計画区域内では、「持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組」が最も支持されています。
- ・都市計画区域外では、「公共交通の利便性の向上・充実」が特に支持されています。
- ・10代～20代の若い世代では、「公共交通の利便性の向上・充実」「持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組」が4割以上を占めています。

【先端技術を活用した新たな交通手段の導入】

- ・デジタル技術を活用した新たな交通手段の推進について、「推進していくべきだと思う」が5割を占めています。
- ・一方で、70歳以上では3割が「よくわからない」を選択していることから、地域の移動の足として新たな交通手段を導入する際には、主な利用者となることが想定される高齢者に対して、丁寧な情報発信や説明が求められます。

（４）防災・減災のまちづくり

【不安を感じる災害】

- ・住まいの周辺での災害として、「線状降水帯等による大雨」が約6割を占めています。その他、都市計画区域内では「地震」「火災」、都市計画区域外では「土砂災害」「河川や内水の氾濫」が上位となり、区域内/外によって不安を感じる災害リスクは異なる傾向にあります。

【防災マップ】

- ・防災マップについて、「内容を覚えていない・理解できなかった」が3割、「見たことはない・あることを知らない」のこれまで確認したことがないとする回答が3割となっています。
- ・10代～20代では、これまで確認したことがないとする回答が6割を占めることから、若い世代に対して防災マップの周知や情報発信が求められます。

【災害に強いまちづくり】

- ・災害に強いまちづくりに向けて、「がけ崩れ等の土砂災害対策（52.2%）」「河川の整備や排水設備の強化（43.3%）」「安全な避難や円滑な救援・復旧復興ができる道路の整備（24.4%）」が上位を占めています。

- ・都市計画区域内では、上位の項目に加えて、「防災上重要なインフラ施設や住宅・建築物の耐震化」等の地震や火災への対応策が求められています。
- ・都市計画区域外では、上位の項目に加えて「災害時の情報伝達体制の整備」を重視しています。
- ・10代～20代では、「防災上重要なインフラ施設や住宅・建築物の耐震化」「災害時の情報伝達体制の整備」「公園・広場等の防災機能の強化」が他の世代と比較して重視されています。

(5) 若桜町の個性や魅力を活かしたまちづくり

【若桜町の自慢・誇り】

- ・「氷ノ山」が回答者の半数以上が町の自慢や誇りとして回答しており、重要文化財の「不動院岩屋堂」「若桜鉄道の駅舎・車両」「若桜宿の町並み」が上位を占めています。
- ・10代～20代では、「若桜学園」「中之島公園」の割合が他の年代と比べて高く、また若年層ほど「町の人々のつながり」を誇りと感じる傾向があります。

【若桜町の自慢・誇り】

- ・若桜地区が重要伝統的建造物群保存地区に登録されていることについて6割の人が「知っている」と回答しています。
- ・若年層ほど、「知らなかった」が多くなり、特に10代～20代では「知らなかった」が4割を占めています。若年層は地域情報への接触機会が少ないことが考えられるため、世代に応じた情報発信の工夫が求められます。

【地域資源をまちづくりに活かすための取組】

- ・若桜町の個性や魅力をまちづくりに活かすための取組として、「近代化遺産のPR、魅力発信（37.4%）」「歴史的な景観を活かしたまちづくりの推進（34.5%）」「地域の特産品・ブランド化の推進や伝統工芸品の普及（32.3%）」が上位を占めています。
- ・都市計画区域内では、「歴史的な景観を活かしたまちづくりの推進」が最も支持されています。
- ・都市計画区域外では、「歴史的な景観を活かしたまちづくりの推進」よりも「森林資源の活用」「地域の特産品・ブランド化の推進や伝統工芸品の普及」が支持されています。
- ・10代～20代では、「歴史的な景観を活かしたまちづくりの推進」が5割以上を占め、若年層ほど「歴史的建造物を活用した地域活性化の推進」が重視される傾向にあります。

(6) 自由意見抜粋

【10代・20代】

- ・コンビニを早急に作ってほしい（24時間営業でなくても可）。
- ・中之島公園以外にも気軽に行ける小さい公園が欲しい。
- ・コンビニが欲しいです。町外へ行って支払いするのが不便。
- ・雨などで外で遊べない時に遊べる室内施設などがあれば、町外へ行ったりすることなく、近場で気を遣わず子どもを遊ばせられるのでそのような施設が欲しいです。若い人と高齢者との交流、移住者や地元民との交流などこれからの町づくりのため様々な人たちとの交流がしたいです。
- ・ネット環境の悪さが普段からかなり気になります。住んでいてこれほど気になるのに移住で来られた人たちはどう思っているのかな、と思う事がよくあります。

【30代】

- ・小児科を開院できるように誘致してほしい。
- ・数十年後でも、自家用車に頼らなくても生きていける町にしてほしいです。インフラの維持と商店の少なさが不安です。
- ・新しく何かを建てたりするのは維持できるのか将来への負債にならないか心配です。あるものを活かす町づくりがいいなと思います。移住も良いですが、思ったより子育てしにくかったので、ギャップがありました。でも近所の人に助けてもらって育ててられました。
- ・観光産業に頼らなくても住民が豊かに暮らしていける為に1次産業への投資と既存のインフラ整備を維持して、残った人たちが不安なく暮らせていけるように配慮して頂きたい。
- ・人付き合いが苦手なので地域の祭りや運動会に参加するのがとてもきついです。
- ・人口減少及び、少子高齢化が特に深刻な課題だと考えており、住民と行政が一体となって取り組まなければならないと思っています。

【40代】

- ・重要伝統的建造物群保護地区にある建造物をもっと公開してほしい。例えば、店舗に入らないと見るができなかったりするの、町民でも残念である。
- ・将来的に歩行者、自転車、グリスロと自動車がお互いストレスなく通行し、すみわけのできる町で魅力を高めてまちづくりにいかしてほしいです。
- ・若桜町にコンビニをお願いします。土日祝でも夜でも支払いが出来たり、チケットの購入が出来たり、その他もろもろの不便がコンビニがあればだいぶ解決します。普段の食料品の買い物はスーパーでしますので、コンビニはこういった上記のようなことを期待しています。
- ・若桜町内には、魅力的な観光資源があるのに、駅周辺にのみ飲食等ができる場所がある為、町内に滞在（留まる）する時間が少なく、その魅力に気が付かないまま通過してしまう人が多いように感じます。

【50代】

- ・若桜町は、川沿いをもっと活用してもいいのではと思う。整備が行き届いてなくて、荒

れ放題になっているところが目立つ。

- ・若者の町外流出を防ぐためにも、コンビニと通信をはじめとするインフラ整備は必要。災害時、避難者が安心できる避難所などの整備。
- ・氷ノ山以外にも、キャンプ場などの施設を作り、町内外、県内外の人に若桜町の自然の魅力を知ってもらう。
- ・景観づくりがもう少し足りない気がします。もっととことんこだわっていった方が良いと思います。タブレットの無料配布でデジタル難民を少なくする（買い物とか）。
- ・働く場所の不足解消。
- ・防災拠点としてもコンビニは必要。

【60代】

- ・過疎化の鈍化を図るために、Uターン、Iターン等人口を増やす策を考えることが先決と思う。
- ・荒れ地をなんとか活用していきたいですね。若い人の働く場（工場）など若い人を引き付ける様な物が欲しいですね。
- ・眼科、耳鼻科、皮膚科が近くにない。若桜町だけで何かをするというより広域で考え、実践すべきではないかと思う。
- ・高齢化が進み、公共交通機関の維持や新たな交通手段の確保が重要になると思われる。何といっても若者が住める住宅が現状少なすぎて、町外や県外に流出させている
- ・雪が積もると道路が通りにくくなる。路上駐車しない様に空き家と駐車スペースにする等早急に対策を取って欲しいと思う。

【70代】

- ・桜の木を絶やさないでほしい。昔は鯉の町若桜と言われていたが、町に鯉のいる池がない。
- ・手を加えないでいるのが最善だと思います。”昔の良さ”が失われていく。
- ・住み慣れたこの地域で安心して最後まで暮らし続けたいという思いからサ高住または有料老人ホームの建設を検討していただきたいと思います。
- ・町道に歩道を作る。インフラ整備の推進。
- ・町全体駐車場をもっと多くしてほしい。例えば、R29号線沿いの用地整備をもっと考えていただきたい。
- ・高齢者が安心して暮らせる町にしてほしい。買い物、医療、交通に不安のない町
- ・若者が住みたいと思うような環境づくり。

4. 参考資料

調査票（案内文）

若桜町のまちづくりに関するアンケート調査のお願い

～ 若桜町の未来を見据えた 10年後 へのまちづくり あなたの 声 をお聞かせください ～

住民の皆さまには、日頃から町政にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。若桜町では、現在まちづくりの総合的な指針となる「若桜町まちづくりマスタープラン」の策定に取り組んでいます。

このアンケート調査は、お住まいの地域の現状や今後のまちづくりについて町民の皆さまのお考えをお伺いし、計画の策定に役立てるために行うものです。

本調査は無記名で行い、回答は統計的に処理いたしますので、個人が特定されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に利用することはありません。

大変お忙しいことは存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年 10 月

若桜町長 上川 元張

【ご回答にあたってのお願い】

- ・このアンケート調査は、町内にお住まいの 18 歳以上の全ての方を対象にお配りしています。
- ・同居の方皆さまに届く可能性がありますが、アンケートには、封筒の宛名のご本人がお答えください。ご本人による調査票への記入が困難な場合には、ご家族の方などの代筆をお願いいたします。
- ・ご回答は、この調査票に直接黒のボールペンやえんぴつ等で記入してください。
- ・ご回答は、あてはまる番号に○を付けていただくものが中心ですが、一部、数値や内容を記入していただくものもあります。質問をよくお読みになってご回答ください。
- ・設問によっては回答できる数を指定させていただいています。必ず数の指定を守ってお答えください。

【返送の方法、期日について】

- ・調査票の記入が終わりましたら、調査票を同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、**令和7年 11 月 21 日(金)** までに、郵便ポストに投函してください。

若桜町のまちづくりに関する町民アンケート調査

1. あなた自身のことについておたずねします。

問1 あなた自身について、あてはまるものをそれぞれ1つ選び、番号に○を付けてください。

(1) 性別	1. 男性	2. 女性	3. 回答しない
(2) 年齢	1. 10 代 4. 40 代 7. 70 歳以上	2. 20 代 5. 50 代	3. 30 代 6. 60 代
(3) 家族構成	1. ひとり暮らし 3. 親と子 (2 世代) 5. その他 ()	2. 夫婦のみ等 4. 親と子と孫等 (3 世代以上)	
中学生以下の方の有無	1. いる	2. いない	

問2 現在のお住まいの地域(大字)について、あてはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

1. 若桜	2. 三倉	3. 高野	4. 浅井	5. 屋堂羅
6. 赤松	7. 来見野	8. 諸鹿	9. 香田	10. 長砂
11. 湯原	12. 湊見	13. 茗荷谷	14. つく米	15. 大炊
16. 岸野	17. 糸白見	18. 根安	19. 須澄	20. 岩屋堂
21. 吉川	22. 中原	23. 大野	24. 小船	25. 落折
26. わからない(町丁目名を具体的にご記入ください：)				

問3 居住年数について、あてはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

1. 1 年未滿	2. 1 年以上 5 年未滿	3. 5 年以上 10 年未滿
4. 10 年以上 20 年未滿	5. 20 年以上 30 年未滿	6. 30 年以上

問4 居住のきっかけについて、あてはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

1. 若桜町で生まれ育った	2. 結婚・出産・子育てのため
3. 親や子との同居・近居のため	4. 就職・転勤のため
5. 退職を機に移住したため	6. その他()

調査票 (P2)

2. お住まいの地域の現状についておたずねします。

問5 お住まいの地域の暮らしやすさについて、どのようにお考えですか。以下①～⑯の項目ごとに、現状の満足度をそれぞれ1つ選び、番号に○を付けてください。

項 目		現状の満足度				
		満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満
記入例) ○○の便利さ		1	②	3	4	5
利便性	① 日常の買い物の便利さ	1	2	3	4	5
	② 通勤、通学の便利さ	1	2	3	4	5
	③ 病院や福祉施設への通いやすさ	1	2	3	4	5
	④ 子育てのしやすさ	1	2	3	4	5
	⑤ 公共交通（鉄道やバス等）の便利さ	1	2	3	4	5
	⑥ 自動車通行の円滑さ（渋滞の少ない移動）	1	2	3	4	5
安心・安全	⑦ 火災や自然災害などに対する安全性	1	2	3	4	5
	⑧ 生活道路（自宅周辺の道路）の安全性	1	2	3	4	5
	⑨ 誰もが安心して通れる歩道の整備	1	2	3	4	5
快適性	⑩ 自然環境やまちなかの緑の豊かさ	1	2	3	4	5
	⑪ まちなみや風景の美しさ	1	2	3	4	5
	⑫ 公園・緑地・水辺との関わりやすさ	1	2	3	4	5
	⑬ 住宅の広さや日照、風通し	1	2	3	4	5
	⑭ 騒音、振動、悪臭等公害の少なさ	1	2	3	4	5
	⑮ 地域の人々や地域のつながり	1	2	3	4	5
	⑯ 地域の歴史や文化へふれる機会	1	2	3	4	5
⑰ 上記を踏まえた総合的な住みやすさ		1	2	3	4	5

調査票 (P3)

問6 身近な施設の利用状況について、最も利用する店舗等の場所・主な移動手段等についてあてはまるものを1つ選び、番号に○を付けてください。

(1) 食料品や日用品の買い物に利用する場所

①主に買い物をする場所	1. 町内（実店舗） 3. 町外（実店舗） 4. ネット通販や宅配サービスを利用 → 問6（2）へ	2. 町内（移動販売）
②主な移動手段	1. 鉄道 3. 町営バス（デマンド便） 5. 自家用車（自分が運転） 7. タクシー 9. 自転車 11. その他（ ）	2. 町営バス（定時便） 4. コミュニティタクシー 6. 自家用車（家族等が運転） 8. バイク 10. 徒歩
③移動時間（片道）	1. 15分未満 3. 30分～45分未満 5. 60分以上	2. 15分～30分未満 4. 45分～60分未満
④利用頻度	1. ほぼ毎日 3. 1ヶ月に数回程度 5. その他（ ）	2. 1週間に数回程度 4. 1年に数回程度

(2) かかりつけの病院や診療所

①病院の場所	1. 町内 3. 利用しない → 問6（3）へ	2. 町外
②主な移動手段	1. 鉄道 3. 町営バス（デマンド便） 5. 自家用車（自分が運転） 7. タクシー 9. 自転車 11. その他（ ）	2. 町営バス（定時便） 4. コミュニティタクシー 6. 自家用車（家族等が運転） 8. バイク 10. 徒歩
③移動時間（片道）	1. 15分未満 3. 30分～45分未満 5. 60分以上	2. 15分～30分未満 4. 45分～60分未満
④利用頻度	1. ほぼ毎日 3. 1ヶ月に数回程度 5. その他（ ）	2. 1週間に数回程度 4. 1年に数回程度

調査票 (P4)

(3) 通所型のデイケアセンターやデイサービス等の高齢者福祉施設、介護施設

①施設の種類	1. 町内 3. 利用しない → 問7へ	2. 町外
②主な移動手段	1. 施設による送迎 3. タクシー 5. 町営バス（デマンド便） 7. その他（	2. 家族等が運転する車 4. 町営バス（定時便） 6. コミュニティタクシー)
③移動時間 (片道)	1. 15分未満 3. 30分～45分未満 5. 60分以上	2. 15分～30分未満 4. 45分～60分未満
④利用頻度	1. ほぼ毎日 3. 1ヶ月に数回程度 5. その他（	2. 1週間に数回程度 4. 1年に数回程度)

問7 お住まいの周辺の土地利用について、問題だと思われるものはありますか。
あてはまるものを最大3つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 日常生活のための店舗やサービス施設が不足している
2. 工場や事業所等の働く場所が不足している
3. 空き家（空き店舗、工場を含む）や空き地が増えている
4. 古い住宅や木造住宅が密集しており、地震や火災等に不安がある
5. 工場や作業所の操業による騒音、振動、悪臭等が発生している
6. 手入れが行われていない森林・里山が増えている
7. 太陽光発電施設の設置や開発などにより豊かな自然環境が失われている
8. 農業の担い手の減少により、荒廃農地が増えている
9. 農地の無秩序な宅地化が進んでいる
10. 河川等の水辺空間が親しみの持てる環境となっていない
11. 歴史的な建造物や町並みが失われつつある
12. その他（
13. 特に問題はない

問8 現在お住まいの場所からの住み替えを考えていますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 住み替えは考えていない（このまま住み続けたい） → 問11（次のページ）へ
2. できれば住み続けたいが、いずれ住み替えないといけなくなると思う
3. 具体的な予定はないが、住み替えを希望している
4. 具体的な住み替えの予定がある
5. その他（ ）

問9へ

※問8で「2」「3」「4」のいずれかに○をつけた方にお伺いします。

問9 住み替えを希望しているまた予定している方にお尋ねします。住み替え先として当てはまるものを1つ選び、具体的な場所を教えてください。

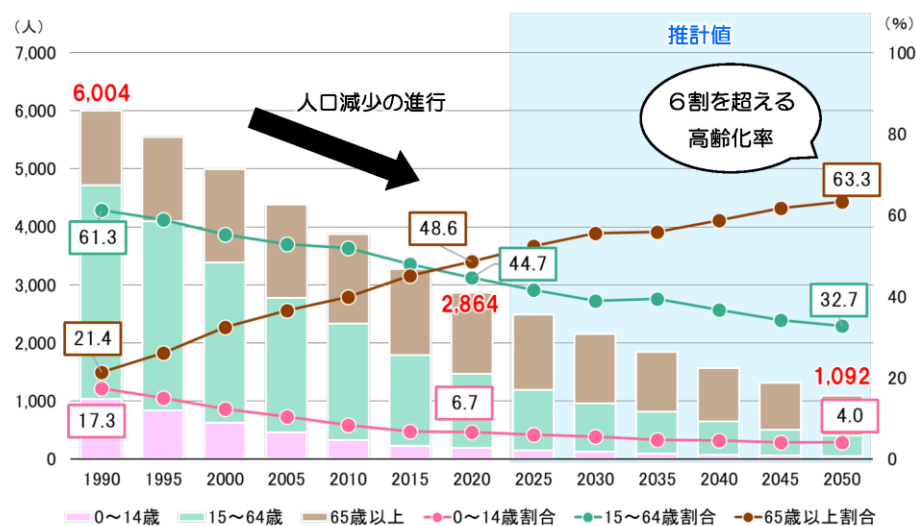
1. 若桜町内（具体的に： ）
2. 若桜町外（具体的に： ）

問 10 住み替えの理由は何ですか。特にそう思われる理由を、最大3つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 進学、就職、転勤、結婚、出産等の生活環境（ライフステージ）の変化
2. 老後の生活が不安
3. 買い物や通院等の日常生活が不便
4. 通勤や通学が不便
5. 公共交通が不便
6. 自然災害の危険性が高く、防災の面で不安
7. 子育て環境、教育環境が充実していない
8. 医療、福祉サービスが充実していない
9. 家族などとの同居や近居
10. その他（ ）

3. 今後のまちづくりについておたずねします。

今後、若桜町では人口減少や少子高齢化の更なる進行が見込まれる中、高齢者や子育て世代等、誰もが快適な生活環境の実現や、財政面及び経済面における持続可能な都市経営の実現が大きな課題となっています。



若桜町の人口・三階級別人口の推移

(出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」)

問11 人口減少や少子高齢化等の進行により予想される日常生活への影響のうち、あなたの普段の生活に関係すると思うものは何ですか。
特にそう思われるものを最大3つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 買い物をする場所がなくなる(売上減少により、店舗が閉店する)
2. かかりつけの病院や診療所がなくなる
3. 利用者が減少し鉄道やバスの運行本数や路線数が少なくなる
4. 学校や公民館・体育施設等の公共施設が統廃合され、利用しづらくなる
5. 道路や橋梁、上下水道等の更新・維持管理ができなくなる
6. 空き家や空き地が増加し、防犯・防災上の問題発生や景観の悪化につながる
7. 農業の担い手が不足し、耕作放棄地が増加する
8. 地域コミュニティが衰退し、地域のお祭りや行事がなくなる
9. その他 ()

調査票 (P7)

問 12 お住まいの周辺において、日常生活を送るうえで必要だと思う機能は何ですか。あてはまるものを最大3つまで選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|--------------|-------------|
| 1. 商業機能 | 2. 医療機能 | 3. 行政機能 |
| 4. 教育文化機能 | 5. 介護・福祉支援機能 | 6. 子育て支援機能 |
| 7. オフィス機能 | 8. レジャー・娯楽機能 | 9. 宿泊機能 |
| 10. 集会機能 | 11. 防災機能 | 12. その他 () |
| 13. わからない | | |

問 13 「若桜駅」周辺の拠点となる場所に、特に必要だと思う生活サービス施設について、あてはまるものを最大3つまで選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 日常生活に必要な店舗 | 2. レストランやカフェ等の飲食店 |
| 3. 保育所などの子育て支援施設 | 4. 銀行や郵便局等の金融機関 |
| 5. 病院や診療所 | 6. 介護サービス等の高齢者福祉施設 |
| 7. ショッピングセンター等の大型商業施設 | 8. 高齢者向けの共同住宅 |
| 9. ホテル等の宿泊施設 | 10. 映画館等の娯楽施設 |
| 11. 公園・広場等のオープンスペース | 12. 公民館、集会所等のコミュニティ施設 |
| 13. シェアオフィスやコワーキングスペース | 14. 駐車場や駐輪場 |
| 15. その他 () | |

問 14 若桜町では今後どのようなまちづくりの取組が必要だと思いますか。特に望まれるものを最大3つまで選び、番号に○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組 |
| 2. 公共交通の利便性の向上・充実 |
| 3. 空き家・空き店舗・空き地などの有効活用 |
| 4. 移住・定住施策の推進（Uターン・Iターンなどの若年層の確保など） |
| 5. 良好な景観の形成（歴史的な建築物の保全や地域の拠点としての再整備など） |
| 6. 脱炭素・循環型社会の実現に向けた取組 |
| 7. 農林業振興・大規模化 |
| 8. 高齢者福祉の充実 |
| 9. すべての人が快適に暮らせる環境整備（バリアフリー化の推進） |
| 10. 防災・減災対策の推進 |
| 11. 若桜駅周辺の活性化、賑わいづくり |
| 12. 歴史・文化・自然などの観光資源の活用 |
| 13. 企業誘致の推進や中小企業への支援 |
| 14. 住民参加の仕組みづくり |
| 15. その他 () |

問 15 誰もが快適に移動しやすい環境をつくるために、デジタル技術等の先端技術を活用した新たな交通手段の導入(下記参照)について、どのように思いますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 推進していくべきだと思う
2. 今の交通手段で特に不便は感じていない
3. よくわからない

【先端技術を活かした新たな交通手段(例)】



パーソナルモビリティ

公共交通の補完として利用できる、個人が移動するための小型で軽量の乗り物。利便性の向上やまちの魅力向上に繋がる。



自動運転循環バス

運転手不足への対応として、自動運転バスの実装により、安全かつ持続可能な地域公共交通ネットワークを形成する。



AI オンデマンド乗合バス

AIを活用して、利用者の乗車希望に応じて柔軟に運行される乗合型の交通サービス。従来の定時・定路線のバスとは異なり、利用者のニーズに合わせてルートや乗車順を最適化する。



自動追従ロボット

高齢者や障がい者等の買い物やごみ出し等の日常生活における荷物の運搬をサポートする自動追従型のロボット。誰もが不自由なく生活できる社会を実現する。

参考：つくば市

4. 防災・減災のまちづくりについておたずねします。

問 16 あなたがお住まいの周辺で、不安を感じている災害を教えてください。あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。

1. 地震
2. 線状降水帯等による大雨
3. 台風や竜巻
4. 土砂災害
5. 河川や内水の氾濫
6. 火災
7. 特にない
8. その他 ()

問 17 若桜町では、洪水や土砂災害、地震等の防災マップを公開していますが、内容を確認したことはありますか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 確認したことがあり、自宅周辺の災害リスクを理解している
2. 確認したことはあるが、内容をあまり覚えていない
3. 確認したことはあるが、内容を理解できなかった
4. あることは知っているが、見たことはない
5. あることを知らない



QRコードから
「若桜町防災マップ
(Web版)」を確認することが
できます。

問 18 災害に強いまちづくりを考えた場合、今後どのような取組に力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものを最大3つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 河川の整備や排水設備の強化
2. がけ崩れ等の土砂災害対策
3. 防災上重要なインフラ施設や住宅・建築物の耐震化
4. 密集している住宅地の改善
5. 安全な避難や円滑な救援・復旧復興ができる道路の整備
6. 公園・広場等の防災機能の強化（避難場所、防災倉庫、ヘリポート等）
7. 避難施設のバリアフリー化と備蓄品の充実
8. 地域住民への防災教育・防災訓練の実施
9. 災害時の情報伝達体制の整備（防災無線やSNS等を活用した情報発信）
10. 自主防災組織の育成と支援
11. 災害時のボランティア受け入れ体制の整備
12. その他 ()

5. 若桜町の個性や魅力を活かしたまちづくりについておたずねします。

若桜町は、氷ノ山や八東川等の豊かな自然環境や不動院岩屋堂や若桜鬼ヶ城跡等の文化財も数多く存在しています。特に若桜鉄道や若桜橋等の近代化遺産や城下町・宿場町としての歴史的な面影が残る、若桜地区の町並み等住民のみなさんの生活や暮らしに深く根差した文化的・歴史的な魅力を有しています。

また、若桜神社大祭等の祭礼行事や道の駅を活用した地域イベントは賑わいづくりだけでなく、地域のコミュニティの維持にも寄与しており、これらの地域資源は、地域の誇りであると同時に、これからのまちづくりの可能性を広げる重要な要素となっています。



不動院岩屋堂



若桜駅



若桜橋



町並み（仮屋通り）

写真：若桜町観光協会

問 19 あなたが思う若桜町の自慢できるもの、誇りに思うものについて教えてください。

(1) 以下の中にあてはまるものがあれば**最大3つまで選び**、番号に○を付けてください。

- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 氷ノ山 | 2. 八東川などの河川 |
| 3. 諸鹿溪谷 | 4. 大鹿滝などの滝 |
| 5. つく米棚田 | 6. 不動院岩屋堂 |
| 7. 若桜神社 | 8. 若桜弁財天（江嶋神社） |
| 9. 若桜鬼ヶ城跡 | 10. 若桜神社大祭（麒麟獅子） |
| 11. 若桜宿の町並み | 12. 若桜鉄道の駅舎・車両 |
| 13. 若桜橋 | 14. 若桜学園 |
| 15. 道の駅若桜 桜ん坊 | 16. 中之島公園 |
| 17. 町の人つながり | |

(2) (1)以外にあなたが若桜町の良いなと思うところ、若桜町で自慢できるもの、誇りに思うものがあれば教えてください。

調査票 (P11)

問 20 若桜地区の歴史的な建造物や町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定（令和3年8月）されたことを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らなかった

問 21 若桜町の地域資源をまちづくりへ活かすために必要だと思う取組は何ですか。
あてはまるものを最大3つまで選び、記号に○を付けてください。

1. 歴史的な景観を活かしたまちづくりの推進（無電柱化や道路の美装化等の実施）
2. 歴史的建造物を活用した地域活性化の推進（ホテルやコワーキングスペースとしての活用）
3. 若桜鉄道や若桜橋等の近代化遺産の PR、魅力発信
4. 森林資源の活用（薪・木材等）
5. 河川空間の整備（遊歩道や親水広場等）
6. エコツーリズムや自然体験プログラムの充実・開発
7. 地域の特産品・ブランド化の推進や伝統工芸品の普及
8. 地域資源を活かした町外の人とのつながりづくり（関係人口・交流人口の創出）
9. その他（ ）

6. 自由意見

問22 その他、若桜町の将来のまちづくりについて、ご意見があればご記入ください。

Date	Time	Location	Weather	Wind	Remarks

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

